

子供へのヒアリングを通じた意見聴取に関する

実践事例集



東京都子供政策連携室

令和 6 (2024) 年 3 月

目次

第一部 子供の意見聴取について

1 子供の意見聴取が求められる背景	5
2 多様な手法による意見聴取の必要性	6
3 本事例集の策定について（子供へのヒアリングに関する事例の共有）	7
4 子供の意見を聞く大人に求められる基本的な姿勢（子供を権利の主体として尊重）	8
5 子供のセーフガーディングについて	9
6 緊急時の対応について	10

第二部 子供へのヒアリング実践手法の紹介

事例 1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング	15
事例 2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）	63
事例 3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）	117
事例 4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）	141

第三部 子供の意見を取り入れた区市町村事業への支援

子供・長寿・居場所区市町村包括補助について	159
採択事例 1：野外遊び場への駄菓子屋・カフェの設置による仕事体験・居場所づくり（国分寺市）	160
採択事例 2：複合公共施設の整備における子供の意見の反映（国立市）	161

第一部

子供の意見聴取について

1 子供の意見聴取が求められる背景

- 令和3年4月に施行された「東京都こども基本条例」は、「子どもの権利条約」の精神にのっとり、**子供を権利の主体として尊重し、子供の最善の利益を最優先**にするという基本理念のもと、子供の安全安心、遊び場、居場所、学び、意見表明、参加、権利擁護等、多岐にわたる子供政策の基本的な視点を一元的に規定しています。
- この基本理念を実践し、子供の目線に立った政策を推進する観点から、本条例第10条は、**当事者である子供の意見を聞き、施策に適切に反映**していくために取り組むよう定めています。

第10条 都は、こどもを権利の主体として尊重し、こどもが社会の一員として意見を表明することができ、かつ、その意見が施策に適切に反映されるよう、環境の整備を図るものとする。

- また、令和5年4月には「こども基本法」が施行され、子供を対象とする施策においては当事者である**子供の意見を反映するために必要な措置を講ずることが、国及び地方公共団体の義務**とされました。
- このように、子供の意見を聞き、施策に反映していく取組を通じて、**子供の状況やニーズを的確に把握し、実効性ある子供政策を推進**していくことが強く求められています。また、自分の意見が十分に聽かれ、その意見によって社会に影響を与えたり、変化をもたらす経験を通じて、子供の**自己肯定感や自己有用感、社会に参加する意欲を高める**効果も期待されています。
- 東京都子供政策連携室では、**様々な工夫を凝らして子供との対話を実践しながら、子供の意見を聞く取組を都庁全体に広げていくとともに、区市町村と連携し、子供の意見を反映した施策の推進**に向けて取り組んでいます。
- 住民の意見を聞き、多様なニーズを把握することは行政の根本です。そして、子供は、未来の担い手であるだけでなく、社会の一員です。当事者である子供からも声を聞くことは、ごく自然なことです。子供の声から気づきを得て、政策を検討し、その政策について、さらに声を聞く、こうした継続的な**子供との対話への気運を高めていきたい**と思います。

2 多様な手法による意見聴取の必要性

- 子供の意見を的確に把握するためには、幅広い年代の多くの子供から意見を聞くとともに、困難な状況にある子供や声を上げづらい子供も含めて、多様な子供から率直な意見を聞き取ることが重要です。
- そのため、東京都子供政策連携室では、Webアンケート、ヒアリング、出前授業など、多様な手法を活用して幅広い子供にリーチするとともに、子供が本音を話しやすいよう工夫を凝らして、子供から意見を聞く取組を進めています。

現在の主な取組

➤ こども都庁モニター

- 子供の意見を各局の施策に反映させるための仕組みとして令和5年度に創設
- 各年代の子供を対象として1,200名のモニターを募集
- 府内各局の施策に関するWebアンケートを実施（遊びや学び、居場所、まちづくり、環境など、ハード・ソフトの幅広い分野が対象）

➤ 子供の居場所におけるヒアリング

- 様々な環境下にある子供から意見を聞くため、子供が日常を過ごす多様な居場所に足を運びアウトリーチ型でヒアリングを実施
- 令和4年度は、児童館、子供食堂、フリースクール等を対象に約100名からヒアリングを実施（楽しいと感じられること、困っていること、自分が都知事だったらどうする等）
- 令和5年度は、日本語教室、児童養護施設、放課後等デイサービス等を対象に加え、ヒアリング人数を拡大（600名）

➤ SNSを活用したアンケート

- 子供が普段から利用しているLINEを通じたアンケート
- 幅広い子供にリーチし、多くの子供から本音を引き出す。
- 令和4年度は、中高生2,000名を対象に実施（日常の満足度、理由、自分が都知事だったらどうする等）
- 令和5年度は、中高生延べ15,000人に規模を拡大し、「相談」、「学習」、「居場所」等をテーマに実施

➤ 学校での出前授業

- 小・中・高で都職員が子供政策についての出前授業を実施
- 令和4年度は、遊び場、子供の事故防止、ヤングケアラーをテーマに出前授業を実施
- 令和5年度は、子供政策に関する様々なテーマで、1,600人に授業を実施

3 本事例集の策定について（子供へのヒアリングに関する事例の共有）

- 東京都子供政策連携室では、**子供の意見聴取に都庁全体で取り組むため**、令和5年度に「こども都庁モニター」を創設しました。
- 「こども都庁モニター」は、小・中・高校生及び未就学児の保護者1,200名を公募し、**府内各局が所管する施策に関してWebアンケートを行う取組**であり、**府内各局と連携した意見聴取の仕組みとして運用**しています。
- 一方、**意見の理由や背景を丁寧に把握し、子供の本音や潜在的な意見を引き出す**ためには、アンケートだけでなく、**ヒアリングを行うことが有効**です。また、**公募では声が上がりにくい子供からも意見を聴くためには、こちらから足を運んでヒアリングを行うことも必要**です。
- こうした**子供へのヒアリング**の実施に当たっては、**成長・発達段階に応じたファシリテート**を行う必要があるほか、**意見を言いやすい環境づくり**を心掛け、悩みや困りごとを聴く場合には**子供への安全配慮**にも留意が必要です。
- そこで、子供へのヒアリングにおける**具体的な事例を都庁内各局や都内区市町村にも共有し、多様な手法による子供の意見聴取を推進**する観点から、**本事例集を策定**しました。
- 本事例集では、**都が実際に行ったヒアリング**のうち、以下の**4つの事例**を取り上げ、**実践手法やノウハウ**をまとめています。子供の意見を聴き、施策に反映するためのヒアリングの実施に当たりご活用ください。

➤ 事例① : **子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング**

公募では声が上がりにくい子供からも意見を聴き、多様な子供の意見を把握するため、子供が過ごす多様な居場所に足を運び、困っていることや望んでいることをヒアリングした事例

➤ 事例②③ : **事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック及び解説動画）**

東京都こども基本条例の内容を分かりやすく都民に伝えるため、年代別の子供たちによるワークショップを通じ、意見を出し合いながらハンドブック及び解説動画を企画・検討・制作した事例

➤ 事例④ : **事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）**

出前授業、ワークショップを通じて得られた子供の意見やアイディアに基づいて企画した上で、アンケートでより多くの意見を反映した事例

- なお、「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」により、**子供の意見を取り入れた先駆的な事業**を実施する区市町村への支援を行っていますので、当該補助事業も併せてご活用ください。

4 子供の意見を聴く大人に求められる基本的な姿勢（子供を権利の主体として尊重）



- ✓ 子供へのヒアリング当たっては、**子供が「自由に」そして「安全に」意見を言える環境**を整える必要があります。
- ✓ そのためには、意見を聴く大人が、**子供を権利の主体として尊重**し、子供の意見としっかり向き合っていく姿勢を持つことが求められます。
- ✓ 子供と対話する時には、年齢や成長・発達段階に応じた理解しやすい言葉で話すなどの配慮が必要となります。一方で、**子供は大人と同じように社会の一員であることを**しっかり認識し、**その意見を尊重**することが不可欠です。
- ✓ 「**子供はまだ半人前だから**」、「**まだ未熟だから**」といった**発想**で、子供の意見を軽んじたり、否定してしまうことは、勇気を持って発言した**子供の尊厳を傷つける**ことに繋がります。
- ✓ まずは意見を受け止めて、なぜそう思ったのかを聞きながら、**子供にとって最も良いことは何かを第一に考え**、子供の思いに寄り添いながら対話していきましょう。

右図は、東京こども基本条例ハンドブック（大人向け）「\こどもの権利を知ろう／東京都こども基本条例」より
<https://www.kodomoseisaku.metro.tokyo.lg.jp/kodomo-kihonjyourei/handbook>



5 子供のセーフガーディングについて



- ✓ 子供のための活動を行う際には、その活動を通して**子供を傷つけることがないように**、**行動上の留意点**を予め検討し、**その活動に携わる大人が十分理解**しておく必要があります（＝セーフガーディング）。
- ✓ ヒアリングの実施に当たっては、**不適切な言葉を使う**（ex. 身体的な特徴に言及する等）、**子供を軽視したり見下す**など、**無自覚な大人の言動が子供を傷つけるリスク**をしっかり認識しておかなければいけません。
- ✓ ヒアリングの中で、**子供がされて嫌だったことの典型例**は、意見を「**否定されること**」、「**評価されること**」、「**他人の意見と比べられること**」と言われます。このほかにも「**子供が話したくないことを深掘りして聴かない**」、「**意見を誘導しない**」、「**無理に意見を引き出そうとしない**」、「**ヒアリングの目的や意見の取扱いを事前に説明する**」等にも留意が必要です。

参考 「子どものセーフガーディングのための行動規範」（（公財）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

<p>全ての関係者に以下の行為は許されません</p> <p>しつけや指導と称して行われる体罰も許されません。</p> <p>食事や着替え、入浴、トイレなどは、自分でできるよう促すことが基本です。</p> <p>ソーシャルメディア等を通じて公私を混同した交流からトラブルに結び付く可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> A. 子どもを叩いたり、暴力によって身体的に傷つけたりする B. 子どもと性的・肉体的関係をもつ C. 子どもを利用する、もしくは傷つけるととられかねない関係性をつくる D. 子どもに対して不適切な言葉を使ったり、侮辱的・攻撃的な提案や示唆をする E. 子どもが虐待にあいやさしい状況をつくる F. 不適切な、あるいは、性的なことを連想させる挑発的な身振りや態度を取る G. 子どもが自分でできることを必要以上に手伝う H. 違法、危険、または乱暴な子どもの振る舞いを大目に見たり、加担する I. はずかしめる、自尊心を傷つける、軽視する、見下すなど、あらゆる方法で子どもを心理的に傷つける J. 特定の子どもを差別したり、他の子と異なる扱いをしたり、えこひいきをして集団から排除する K. 活動に関わる子どもと活動外で個人的に連絡をとる、もしくはとろうとする L. 活動に参加している子どもと同じ床（どこ）で寝る M. 活動に参加している子どもと同じ部屋で寝る。 ただし、例外的状況かつ事前に上長の許可を得ている場合を除く N. ポルノグラフィーや過激な暴力を含む不適切な画像、動画、ウェブサイトに子どもを誘導しその危険にさらす O. 規範違反との疑念をもたれかねないような状況に自分自身を置く 	<p>子どもと接する際に以下の点に留意する必要があります</p> <p>子どもと2人きりになる状況では、周囲の誤解や子どもに不安を与えないようにする必要があります。</p> <p>子どもが自分で自分を守る力を引き出すこと（エンパワー）が大切です。</p> <ul style="list-style-type: none"> P. どのような状況が子どもにとって危険なのかを察知し、未然に対処する Q. 危険を最小限に留められるよう、計画段階で事業内容や実施場所を熟考し必要な環境を整える R. 可能な限り、他者の目が届く場所で子どもと接する S. どのような問題提起や懸念も気軽に表明できて話し合えるような、オープンな雰囲気をつくる T. 不適切な行為または虐待となりうる言動が見過ごされないように、各々が責任感を持つ U. 職員や関係者とどう接しているかについて日ごろから子どもと話し、彼らが気になっていることがあれば伝えるよう促す V. 子どもをエンパワーする。すなわち、子どもの権利に関する理解や、何が適切で何が不適切か、また問題が起きた時にどうしたら良いかについて子どもたちと話し合う <p>※子どもの権利条約に従い「子ども」とは18歳未満のすべての人と定義しています。 ※海外では文化や社会背景によって行動規範の内容が若干異なる場合があります。</p> <p>「子どものセーフガーディング 子どもにとって安心・安全な組織・事業づくり」より https://www.savechildren.or.jp/about_sc/quality1.html</p>
--	--

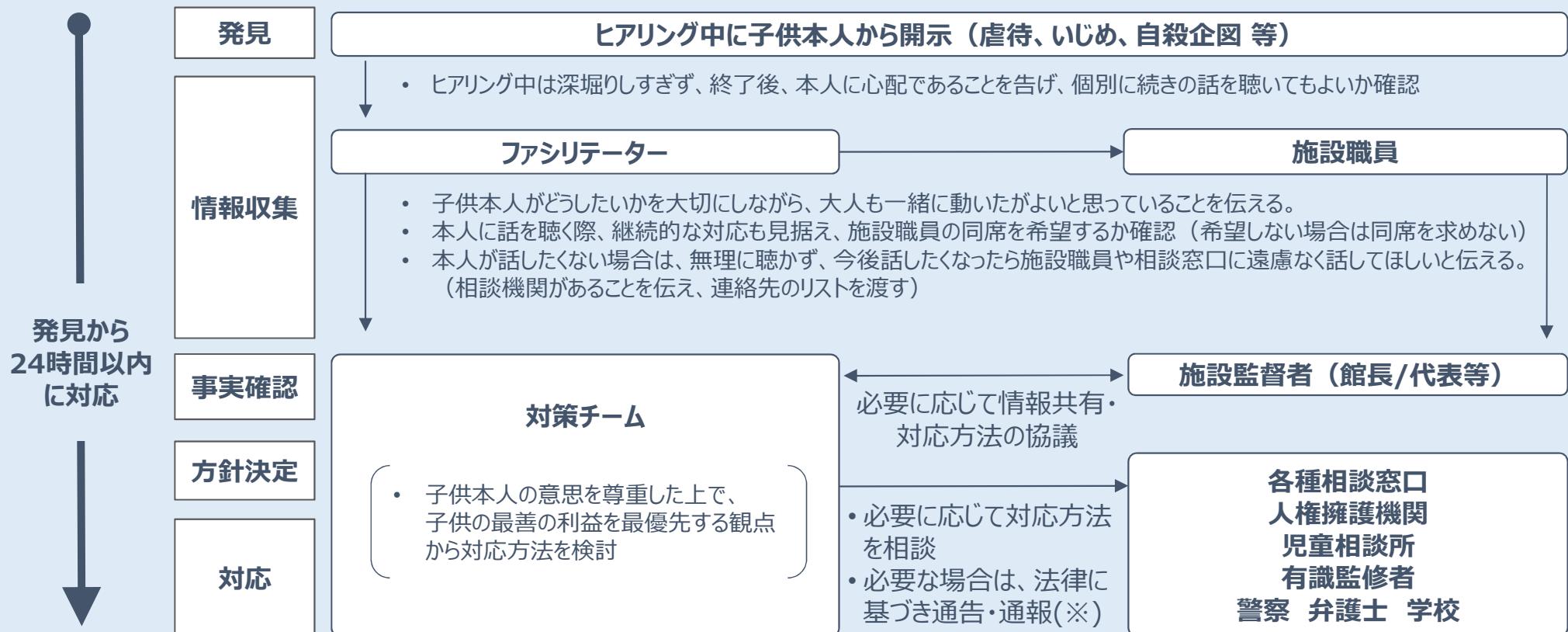
6 緊急時の対応について



✓ 子供へヒアリングを行う際（特に悩みや困りごとを聞く場合）、**子供から「虐待を受けている」「学校でいじめられている」等の話が出ることがあります。**

✓ 子供本人の意思を尊重しつつ、適切な対応が取れるよう、**予め必要な対応を検討・共有しておくことが重要です。**

緊急時の対応フロー（例）



第二部

子供へのヒアリング実践手法の紹介

事例 1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

< 目 次 >

(1) 事例概要	16	ク 子供のセーフガーディング	
(2) 実践手法		① 子供のセーフガーディングとは	33
～事前準備～		② 倫理的配慮	33
ア 実施までの流れ	17	③ 特定の困難な状況にある子供への配慮	34
イ 施設へのアポイントメント	17	④ 緊急時の対応フロー	35
ウ 参加者	18	～実施後～	
エ 物品	19	ケ 施設へのアフターフォロー	36
～当日～		(3) 意見反映	
オ 当日の準備・話しやすい雰囲気づくり	21	ア 考え方	37
カ ヒアリングの実施		イ 「悩みの相談」に関する意見・今後の都の取組	38
① 実施体制	23	ウ 「学習環境」に関する意見・今後の都の取組	41
② ヒアリングの流れ	23	エ 「遊び場・居場所」に関する意見・今後の都の取組	45
③ オープニング	24	オ ヒアリングの感想	46
④ 事前アンケート	25	(4) 子供へのフィードバック	
⑤ ヒアリング形式	26	ア 目的	47
⑥ ヒアリングテーマ	27	イ 効果	47
⑦ 質問内容	28	ウ 方法	47
⑧ ヒアリングの進め方	29	エ 子供向けパンフレットの掲載内容	48
⑨ ファシリテーターのトーク例	30	オ 広報	59
キ ファシリテーション			
① ファシリテーションの重要性	31		
② ファシリテーション研修	32		

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

(1) 事例概要

1. 実施目的

- 子供が普段過ごしている様々な居場所に足を運び、様々な環境にある子供が本音を話しやすいような工夫を凝らし、自由な意見や生の声を把握し、子供政策に反映させることを目的として実施

2. ヒアリング人数

- 601名（小学年生：322名、中学生・高校生相当：279名）

3. 実施時期

- 令和5年8月から11月まで

4. ヒアリングテーマ

- 前年度の意見聴取で子供から多くの意見が寄せられた「悩みの相談」「学習環境」「遊び場・居場所」に重点化してヒアリングを実施

悩みの相談	困ったときの相談相手、相談窓口等の利用経験、どういう環境なら相談しやすいか 等
学習環境	日頃どこで勉強しているか、現在の学習環境への不満、どういう場所やサポートがあると学びやすいか 等
遊び場・居場所	普段の遊び場・居場所、安心できる場所の有無、遊び場での困りごと、どういう場所があるともっと楽しく過ごせるか等

5. 実施施設

区分	人数
児童館	96
ユースセンター	78
プレーパーク	72
学童クラブ	61
子供食堂	59

区分	人数
フリースペース	55
子供劇場	49
学習支援拠点	30
各種支援団体	28
フリースクール	27

区分	人数
放課後等デイサービス	18
児童養護施設	14
日本語教室	14
計	601

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

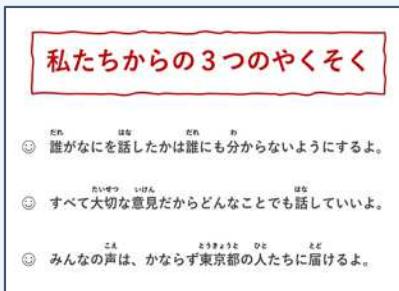
6. 実践手法

- 体制：ファシリテーターと補助者の2名を基本配置
- 形式：ワークショップ形式が基本（難しい場合はインタビュー形式）
- 聴き方：半構造化面接で実施（質問軸のもと、反応に応じ質問を変更）
- 進め方：①ファシリテーターの問い合わせごとに、子供が付箋に意見を書き込み、模造紙に貼る
②出た意見をファシリテーターが掘り下げ、内容を付箋に書き込み、模造紙に貼る



<「3つのやくそく」カード>

安心感を与えるため、ヒアリング前に説明。常に見える位置に置く



<「ヒアリングテーマ」カード>

机上に置き、子供が好きなテーマについて話せるようにする



7. ファシリテーション

- 子供は思っていることを上手く言語化出来ないこともあるため、ファシリテーターの重要性は極めて高い。
- 本事例では全てのファシリテーター及び補助者に対して事前研修を実施し、必要知識の習得とスキル向上を図っている。

8. 子供のセーフガーディング

- 子供の権利に反する行為を防止し、安全・安心なヒアリングを行うため、倫理的配慮や困難な状況にある子供への配慮が不可欠

9. 子供へのフィードバック

- 寄せられた意見とその反映状況を分かりやすい表現でまとめたパンフレットを作成し、ヒアリングに参加した子供たちにフィードバック

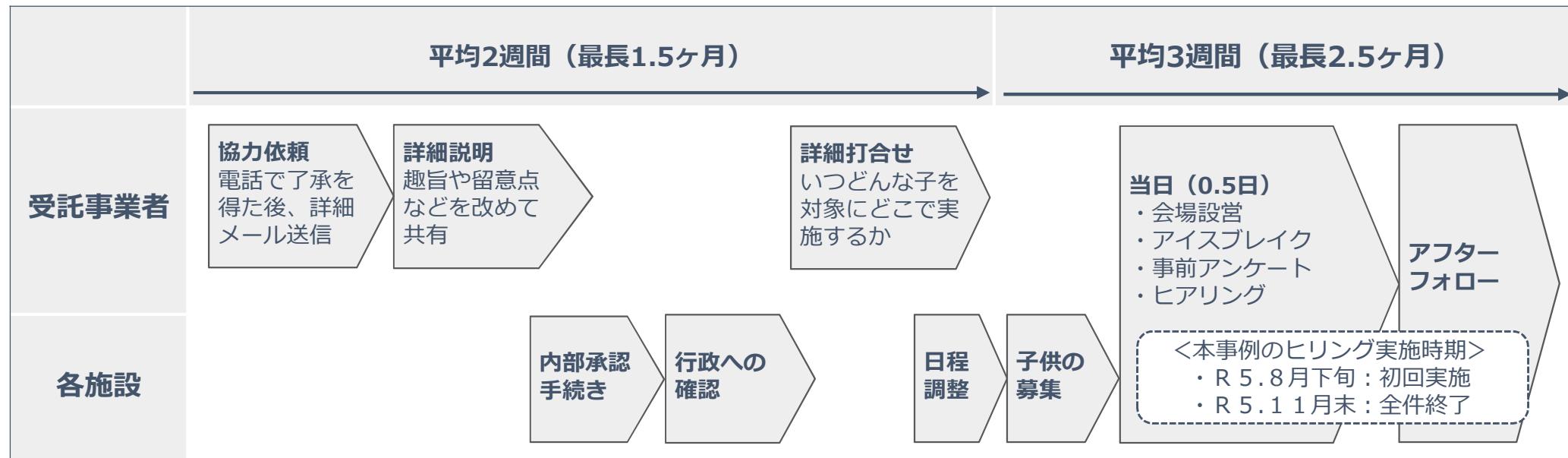
事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

(2) 実践手法

～事前準備～

ア 実施までの流れ

- 以下の流れで各施設と調整を実施。了承が得られた施設についてヒアリングを実施



イ 施設へのアポイントメント

- 施設側と具体的な日程調整に入るまでに平均2週間、実施まではさらに3週間程度を要す。
- 長期休みや秋のイベントの時期は施設利用者が多く、繁忙期となるため、調整が難航するケースが多い。
- 対象が受験生の場合、年度の後半になるほど参加が難しくなるため、年度の前半（出来れば春頃）にヒアリング開始することを見据えて施設側と調整を開始することが望ましい。
- ヒアリング対象の年齢が上がるほど参加者集めが難しく、施設側の了承は取れたものの、参加者が集まらずに実施不可となるケースもある。

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

ウ 参加者

- ・ 本ヒアリングは、日頃から当該施設を利用している子供を対象に実施した。
- ・ 参加してくれる子供は、施設側にて、日頃からよく利用している子供に声をかけて集めて頂いた。



<子供に声をかけるに当たって>

- ・ 子供が権利の主体であることから、ヒアリングへの参加に関して、保護者への同意書の取得は不要とした。
- ・ 匿名でのヒアリングを前提としていることから、参加申込書等は求めないこととした。
→ 当日参加してくれるかは、施設職員との約束を守ってくれるかどうかによるが、当日参加してくれなかつた場合でも、子供の自由意志を尊重し、参加を強制することはしない。
- ・ 当日にならないと参加人数が確定できないため、ヒアリングは利用者の多い時間帯に設定しておき、もし人数が足りなかつた場合には、ファシリテーターがその場にいる子供たちに声をかけて、当日の参加を求ることとした。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

工 物品

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

- ・ ヒアリングを進める上で必要となるもののほか、子供に安心して参加してもらうためのものを準備
- ・ 物品選定においても、安心して参加してもらうことを意識して選定

例えば…

- ・ 付 箋：蛍光色のものが一般的だが、視覚が過敏な子も安心して参加できるようパステルカラーのものを用意
- ・ ペ ン：遠くからでもどんなことを書いたか、お互い共有しやすくするために、太いペンを用意
- ・ おもちゃ：多動傾向の子も落ち着いてヒアリングに参加できるよう、立体パズルなど手を動かして集中したり、触って気持ちを落ち着かせたりすることができるぬいぐるみなども用意



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

<本事例で準備した物品の例>

 事業
概要 → 意見
聴取 → 意見
反映 → フィード
バック → 広報

分類	物品	備考（用途等）
進行上必要なもの	タブレット、ポケットWi-Fi	・事前アンケート回答用
	ICレコーダー	・ヒアリング音声録音用
	付箋（強粘着・パステル）	・子供の意見を記録する際に1意見1枚使用 ・貼り直しても付箋が剥がれないように強粘着タイプを選定 ・好きな色を选べるよう5色タイプを選定（視覚が敏感な子に配慮してパステル色を選定）
	水性ペン（極太・太ツイン）	・付箋記入時に使用 ・施設の備品を汚さないよう、油性ではなく水性を選定 ・参加者が同じ内容を見ながら話せるように、太いものを選定
	「3つの約束」カード	・ヒアリングの約束事を書いたカード
	質問項目カード（4枚）	・ヒアリングテーマを書いたカード
	模造紙	・意見を書いた付箋を貼る（ヒアリング1回につき1枚使用）
場の雰囲気をよくするためのもの	ネームホルダー	・子供及び大人の名札として使用
	養生テープ	・あだ名など親しみやすい名前を好きな色のペンで記入 ・ネームホルダーはジェンダーイメージと結びつきにくい黒を選定 ・養生テープに名前を書いて身体に貼っても良い
	おもちゃ	・手触りのよいぬいぐるみ ・手持ち無沙汰を解消する立体パズルや手遊びおもちゃ
	菓子・飲料	・衛生面に配慮し、個包装のものを選定（アレルギーや食の制限などは事前に要確認） ・甘いものと塩辛いもの両方1つずつ選定（2種類以上用意して、好き嫌いにも対応）
	紙コップ・ウェットティッシュ・ペーパーナプキン・ごみ袋	
施設や子供に配布するもの	こども未来アクション（フル）	・当室が作成している冊子（施設配布用）
	こども未来アクション（こども版）	・子供配布用
	ノベルティ	・ボールペンなど。子供にお礼として配布
	各種相談窓口のカードなど	・必要に応じて配布

事例 1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

～当日～

オ 当日の準備・話しやすい雰囲気づくり

- 会場のセッティング、スタッフの服装、声のトーンなど、以下のような様々な要素に配慮し、施設到着時から子供が話しやすい雰囲気づくりを実施

	事業概要	意見聴取	意見反映	フィードバック	広報
服装	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 子供たちが緊張しないように、フォーマルな服装は避ける。過度にラフな服装や派手な服装も避ける。場所に応じて、より馴染みがよいと思われる服装を選ぶ。 ✓ 例えば、プレーパークでのヒアリングの場合、ワンピースよりもジーンズの方が、子供にとっては違和感が少ない。また、子供と目線を合わせるために、一緒に地面に座る、などということも可能になる。 				
到着時の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ヒアリング開始 1 時間前には現地に到着し、可能な限り職員や子供たちとコミュニケーションを取り、ヒアリング実施前から関係性の構築に努める。 ✓ その際、声の大きさやトーンに注意し、子供が安心できるよう、明るくも落ち着いた姿勢を心掛ける。 				
環境設定	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 安心できる雰囲気をつくるために、テーブルクロスやぬいぐるみ、手で遊べる立体パズル等を用意 ✓ ヒアリング中に飲食できる簡単なお菓子や飲み物を用意 ✓ テーマやヒアリングのルールが書かれたカードを用意し、安心できる環境づくりに努めていることを可視化 				
呼び方・呼ばれ方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 親しみを持ってもらえるように、“名字+さん”ではなく、子供自身が呼ばれたい名前を教えてもらう。 ✓ ファシリテーター自身もあだ名など、親しみやすい呼び名を用意する。 ✓ ヒアリング開始時には名札を作り、お互いに呼び合えるようにする。 				
事前アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ✓ タブレットを用いることで、他の子に回答が分からないようにする。 ✓ 回答を急かしたり、途中でやめさせたりしない。 				
ヒアリング中	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 肯定的な雰囲気をつくる。子供の意見を否定したり、否定的な立場の意見を代弁して伝えたりしない。 ✓ 子供が他の参加者の発言を否定したり、脈絡のないことをしたり、立ち歩いたりしても、過度に反応しない（子供が安心できていない場合、そうした行動をとることがあるため、安心を求める行為として受け止める）。 ✓ ヒアリング中の子供の意見は付箋を使って掲示。声が文字になることで、自分の声が聴かれているという感覚が生まれる。また、書いてある付箋を見ながら伝えたいことがさらになってくることもある。 				

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

<セッティングされた様子>

- ・ 子供を緊張させず、普段の雰囲気に近い感覚になってもらえるようにセッティング
- ・ 屋外に机や椅子を置いて実施したり、屋内で床にそのまま模造紙を置いて実施することもある。
- ・ 事前に施設職員の方と相談しつつも、最終形は当日現地の様子を見て、臨機応変に対応



ポイント

- ✓ 参加する子供の年齢や成長・発達段階を踏まえて、用意するお菓子や飲み物の種類を変えるといった工夫も大切

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

カ ヒアリングの実施

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

① 実施体制

- ・ファシリテーターと補助者の2名を配置
- ・ファシリテーターは、ヒアリングの進行を中心的に行い、ヒアリング全体を統括
- ・補助者は、ヒアリングを補助する者として、記録や進行を補助
- ・今回、プレーパークや青少年交流センター、学校など、0～18歳の子供と対話する業務に従事した経験を3年以上持つ既存の技能者で構成

② ヒアリングの流れ

- ・当日のヒアリングは以下の流れで進行

内容	詳細	時間
ヒアリング開始前	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間前に到着し、出来る限り子供とコミュニケーションを図り、関係性の構築に努める ・近くにいる子供に自己紹介をしたり、お菓子や飲み物を用意するなど、子供が気軽に話しやすい雰囲気をつくる 	—
オープニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングの目的や進め方に加え、子供の権利や倫理的配慮について説明 	10分
アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の緊張を解くため「今日の夜に食べたいもの」「大変だった夏休みの宿題」等、話しやすく自己紹介を中心としたアイスブレイクを実施 	10分
事前アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用い、選択式のアンケートに回答 ・成長・発達段階に応じた2種類を用意（質問内容は共通） 	5分
ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングテーマをカードにし、子供が選んでもらうなど、楽しくヒアリングを行う ・子供の意見は模造紙と付箋を用いて記録（一人ひとりの参加者の声が公平に可視化され、さらなる意見を出しやすい環境をつくる） ・子供の集中力や会話の流れを見ながら、45分経過しなくとも適宜終了 	45分
クロージング	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングを受けた感想や言い残したことを話せる時間を設け、倫理的配慮を改めて確認する 	10分

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

③ オープニング

- 「私たちからの3つのやくそく」カードを説明
- このカードはヒアリング中、常に見えるように置いておくことで、安心して話せる雰囲気づくりを行う。



ポイント

- ✓ 小学生など、低年齢を対象とする場合、真面目な雰囲気だと意見が出づらくなる。“一緒に遊ぶ”中で本音を聞き取ることを意識
- ✓ 年齢が上がると真面目に取り組む子供が多くなる一方、“怒られないような発言をしよう”と考える傾向が強くなる（特に中高生）。どんなことを話しても大丈夫という安心感を与えることが大切

- 子供の目線に立った都の取組をまとめた「こども未来アクション」（令和5年1月策定）を紹介
- 今回出してくれた意見は、「こども未来アクション」に載っている取組をはじめ、都の様々な施策に反映していくことを説明



ポイント

- ✓ 子供にも分かりやすい言葉で作成した「こども未来アクション（こども版）」を一人ひとりに配布し、子供の意見がこのように形になっていくことを説明

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

私たちからの3つのやくそく

- ☺ だれ はな だれ わ
誰がなにを話したかは誰にも分からないようにするよ。
- ☺ たいせつ いけん
すべて大切な意見だからどんなことでも話していいよ。
- ☺ こえ とうきょうと ひと とど
みんなの声は、かならず東京都の人たちに届けるよ。



事例 1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

④ 事前アンケート

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

- 性別や年代等の属性情報や悩みごとの有無などについて、タブレットを用いた事前アンケートを実施し、意見の背景の把握や分析に活用するとともに、声に出して言いづらい悩みごと等を把握した。
- アンケート文は、成長・発達段階に合わせて、文章表現を変更した2種類（小4以下・小5以上）を用意

(本アンケートでおこなった表現変更の一例)

言い換え前（小学5年生以上）	言い換え後（小学4年生以下）
兄弟姉妹	きょうだい
その他の人	ほかのひと
生活や居場所について	いつもすごしている場所（ばしょ）について
地域	まち
自由に使える時間がじゅうぶんある	じゅうな時間（じかん）がたくさんある
相談について	こまったときにどうしているか
おうちの人に気軽に話せる	おうちの人にはなす
おうちの人以外に気軽に話せる大人がいる	おうちの人ではない大人（おとな）にはなす
不安なことや悩みごとがあったら、誰かに相談する	こまったことや、なやんでいることは、だれかにはなす
学校の勉強についていけている	学校（がっこう）の勉強（べんきょう）はよくわかる
参加したい習い事や部活動に行くことができている	すきななりいごとをしている
平日	月ようびから金ようび
学校の保健室や他の場所	学校（がっこう）のきょうしつではない場所（ばしょ）
家	おうち
現在、悩んでいることはありますか？	いま、なやんでいることはありますか？
進路のこと	しょうらいのこと
放課後の居場所や遊び場のこと	学校（がっこう）のあとにいく場所（ばしょ）のこと

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

⑤ ヒアリング形式

- ワークショップ形式を基本としつつ、難しい場合にはインタビュー形式で実施
- 子供の人数は、6名以内を原則とし、自由に話しやすい雰囲気づくりを心掛ける。

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

	ワークショップ形式	インタビュー形式
設営	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターと補助者は、子供たちとテーブルを囲むように座る 	<ul style="list-style-type: none"> テーブルは使わず、椅子を配置。威圧感を与えないよう、真正面ではなく横や斜めに椅子を配置する
子供の数	<ul style="list-style-type: none"> 原則最大6名 	<ul style="list-style-type: none"> 1～3名
進め方	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙と付箋を用意し、ファシリテーターが提案するテーマについて、それぞれの発言を記入し貼っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターは聞くことに主眼を置きつつも、可能な範囲でメモをとる。足りない部分は録音で補う
時間	<ul style="list-style-type: none"> 45分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 30分程度
イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の大きめの個室など 	<ul style="list-style-type: none"> オープンな遊び場の隅など、静かで圧迫感のない場所で実施（本人が個室を希望する場合を除く）



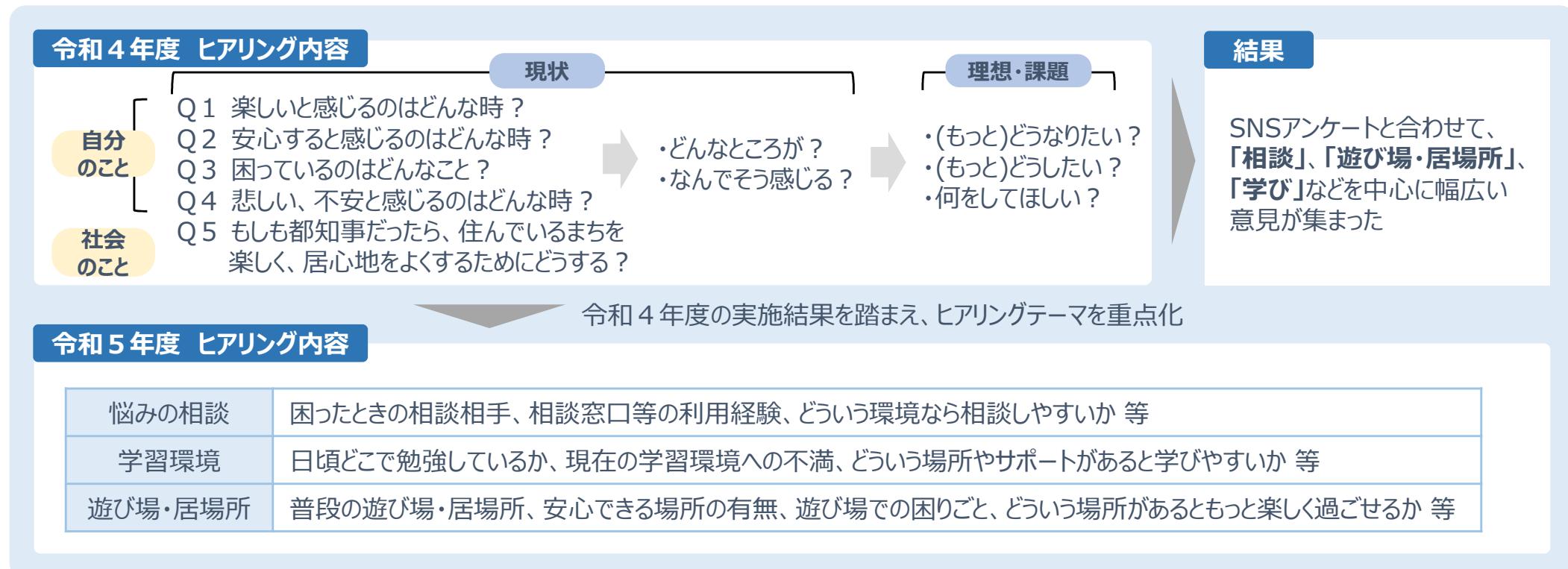
- ✓ 座席は、参加する子供が友達同士かといった点も踏まえる。
- ✓ 6人のうち3人が仲の良い友達同士の場合、3人を並べて座らせると参加者の発言頻度が偏ることがある。

事例 1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

⑥ ヒアリングテーマ

- 令和4度の意見聴取で子供から多くの意見が寄せられた「悩みの相談」、「遊び場・居場所」、「学習環境」に重点化してヒアリングを実施

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報



- ヒアリングテーマを書いたカードを机に並べ、子供がいつでもテーマを確認できる状況とした。



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

⑦ 質問内容

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

- 以下の質問項目を軸に、半構造化面接（※）により、①現状、②不満や課題、③要望・ニーズ等を把握していく
(※) 事前に設定した質問項目を軸に、対象の反応・状況に合わせて自由に質問を変える手法

テーマ	把握したい事項		
	①現状	②不満や課題	③要望・ニーズ等
A.悩みの相談	A(1)周りの人に相談しづらい時、相談窓口があるらしいけど知ってる？今までに使ったことはある？	A(2)（相談窓口を）使ってみようと思う？対面／電話／SNSなど、どんな方法が相談しやすい？ A(3)使ってみてよかったです、こうするともっと使いやすいと思うことがあれば教えて。	A(4)（相談窓口について）どのような人・場所・方法だと悩みなどを相談しやすくなる？
B.遊び場・居場所	B(1)いつもどこで遊んでる？ B(2)その中でホッとできる場所はある？	B(3)遊ぶ場所について、困ったことはある？	B(4)どんなふうになると、ホッとして過ごせたり、もっと楽しく遊べたりすると思う？
C.学習環境	C(1)普段どこで勉強してる？学校以外でも勉強する？	C(2)今勉強している場所では思うように勉強できている？勉強について困っていることがあれば教えて。	C(3)どういう場所やサポートがあると勉強しやすくなる？（どうすれば、困ったことが解消される？）
D.その他	D(1)他に、最近困っていることや不安なことはある？	D(2)なぜそのことに困っていたり、不安になったりするの？	D(3)どんな助けがあるといいかな？

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

⑧ ヒアリングの進め方

- ・ ファシリテーターの問い合わせごとに、子供が付箋に書き込み、模造紙に貼る
- ・ 出た意見に「なぜ?」「どうして?」と理由をたずねながら意見を掘り下げ、その内容も付箋に書き込み、模造紙に貼っていく

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

(半構造化面接によるヒアリングイメージ)

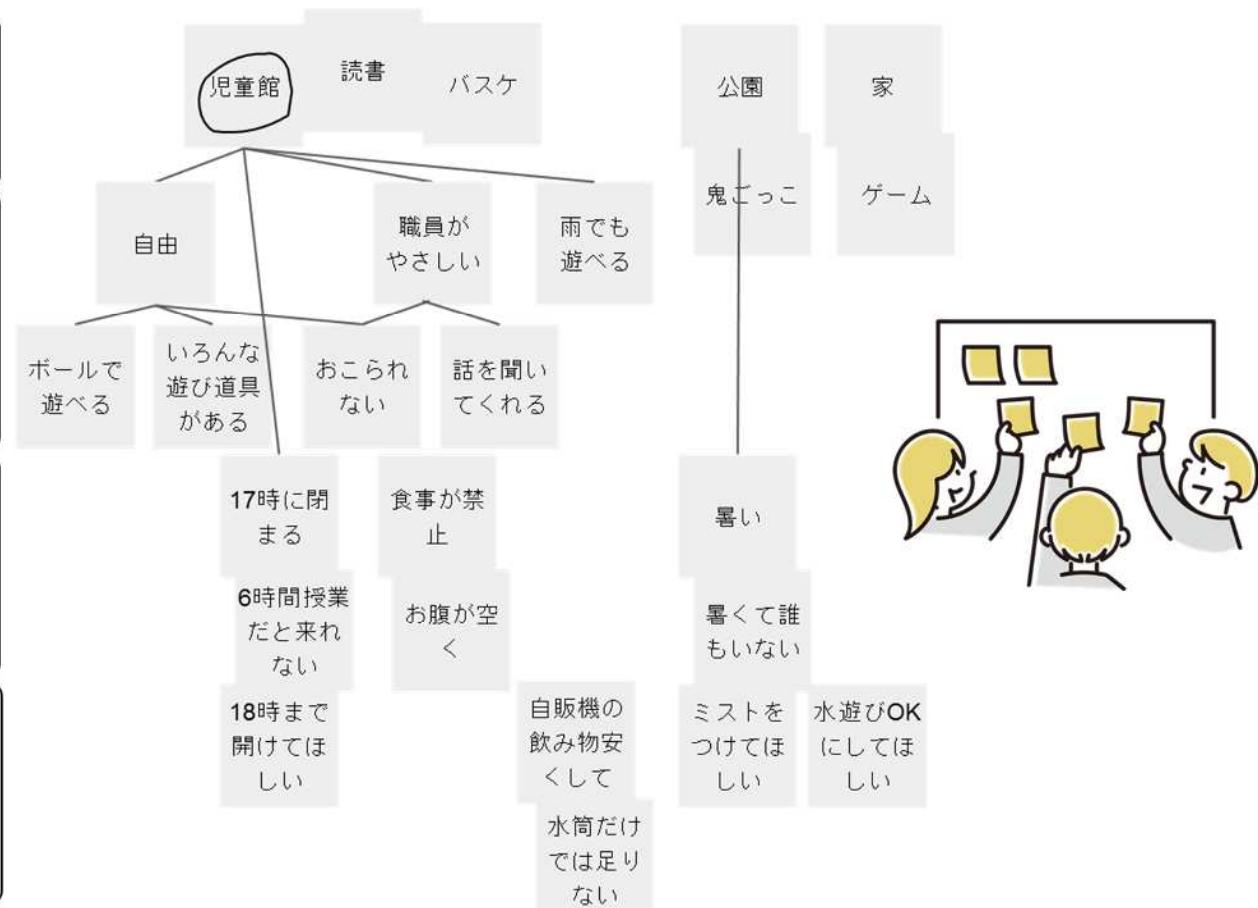
B(1)いつもどこで遊んでる?
ここにはよく来るの?
どんなことしてるの?

B(2)その中でホッとできる場所はある?
○つけてみてー!
どうして他の場所よりホッとすると思う?
なんで自由と思えたの?
どんなところがやさしい?

B(3)遊ぶ場所について、困ったことはある?
わあ、それは本当に大変そうだね
もう少し聞かせてくれる?
それだとどうして困るの?

B(4)どんなふうになると、ホッとして過ごせたり、もっと楽しく遊べたりすると思う?
例えばどんなものがあるといいかな?
具体的に何時まで開いてるといいかな?

(模造紙に貼られていく付箋のイメージ)



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

⑨ ファシリテーターのトーク例

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

オープニングトークの例

ヒアリング開始前

- こんにちは。ヒアリングに来てくれたの？よろしくね。私の名前は、〇〇（ニックネーム）って、いいます。よろしくね。あ、じゃあ、みんなにも名札を貼ってもらおうかな。呼ばれたい名前でいいよ。
- じゃあ、お菓子を配ります。今日は暑いから、飲み物を買ってきましたんだけど、1人1本ずつ取っていいよ。みんな、家は近いのかな？

導入

- 今日は、このヒアリングに集まってくれてありがとうございます。ヒアリングを始めたいと思います。このヒアリングは、東京都がおこなっている子供たちのための取組をまとめた「こども未来アクション」っていう本があるんだけど、ここに載っている色々な取組やそのほか子供達のための取組を、みんなにとってより良くしていくために、都内500人の子供たちから生の声を聞くためのものです。なので、ぜひ、みんながふだん感じていることや、考えていることを教えてください。
- 改めて、自己紹介します。〇〇っていいます。今日の進行をします。そして、そのお手伝いしてくれる〇〇さんです。
- じゃあ、みんなの名前も教えてもらおうかな。今日、呼ばれたい名前を教えてもらうと、夏休みの宿題で、一番大変だった宿題を教えて。
- （自己紹介が終わったら）では、まずは、みなさんから声を聞く前に、私たちからお約束したいことがあります。このシートを見てください。「誰が何を話したか、誰にも分からないようにします」「すべて大切な意見だから、どんなことでも話してもいいよ」「みんなの声は、必ず東京都の人には届けます」。この3つです。あと、もし今日話したことを取り消したいと思ったら、それもかまいません。このスタッフに言ってもらってもよいですし、おうちの人に相談してもかまいません。もし、そう思ったときには、ぜひ誰かに相談してください。

事前アンケートからヒアリング開始までのトークの例

事前アンケート

- では、まず、みなさんには事前アンケートをお願いしたいと思います。分からないところがあつたら、聞いてね。（言うだけではなく、実際に様子を見て歩いたりする）

ヒアリング開始

- アンケート、回答してくれてありがとう。では、ヒアリングを始めるね。どんな話でも聞くので、何でも話をしてください。
- 今日は、みんなに話してもらいたいテーマがいくつかあります。ここにカードも用意してみたんだけど、遊び場・居場所のこと、学校や勉強のこと、何か困ったときのことなどです。どうしようか。何か、みんなから話したいテーマがあればいいんだけど、まずは遊び場・居場所のことからいこうかな。
- みんな、ここはよく来ているの？ここは、どうしてよく来るのかな？（以降、子供たちの話に応じて、ヒアリングを展開する）

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

キ ファシリテーション

① ファシリテーションの重要性

- ・子供へのヒアリングにおいて、話しやすい雰囲気をつくり出し、参加者から自由な意見を引き出す役割を担う「ファシリテーター」は極めて重要である。
- ・さらに、ファシリテーターは、年齢や成長・発達段階に応じて理解しやすい言葉で話すとともに、子供は大人と同じように社会の一員であることをしっかり認識し、その意見を尊重する姿勢を持ち、倫理的配慮を徹底することで、ヒアリングを通じて子供の尊厳を傷つけることが無いよう十分注意する必要がある。



ポイント

- ✓ 本事例では、ヒアリングの実施を外部委託したため、適任なファシリテーターを配置する観点から、委託契約の仕様書において、以下のとおり要件設定を行った。

<ファシリテーターの要件>

- ・日常的に子供と対話する業務（子供の意見・悩み・相談を聞くことを含む）に1年間以上従事した実績を有する者
- ・アドボカシーに関する研修や講習会の受講経験があるなど、子供のアドボカシーについて造詣が深く、困難な状況にある子供の意見・悩み・相談を聞く業務の経験を有する者
- ・ヒアリング対象となる子供が抱えている可能性のある困難に対して、深い知見を持ち、発言等に最大限配慮ができる者
- ・ヒアリングを実施する子供の理解力に応じて、説明内容や話す速度に配慮することができる者
- ・回答を強要もしくは誘導することなく、参加者全員が自由に意見を表明できるような雰囲気づくりができる者

- ✓ 上記に加えて必要な要件（子供の権利について十分理解していること等）を追加するとともに、総合評価方式により、ヒアリングの実施方法について具体的な提案を求め、適正や理解度を問うことも考えられる。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

② ファシリテーション研修

- 本事例では、全てのファシリテーター及び補助者に対して、「ファシリテーション研修」を実施し、子供との対話に必要な知識の習得とスキルの向上を図った。（受託者である一般社団法人 TOKYO PLAY が研修を実施）

I 声を聴くということ

- 子供の声を聴くことは、子供の権利を擁護するための重要な取組
- 「どうせ、大人に何を言っても…」と思っている子供もいる
- 子供の声を真剣に聴こうとする大人がいること、聴いた声を活かしていこうとする姿勢を見せ、子供に感じてもらうことが大切

II 「ファシリテート」と「アドボケイト」の理解

- ファシリテーターは、アドボケーターでもある。
- Facilitate（ファシリテート）»「手助けする、やりやすくする」
- Advocate（アドボケイト）»「代弁、支援、擁護」
- 子供が話しやすくするだけでなく、聴いた声を子供に代わって責任をもって伝える役割が求められる。

III コミュニケーションの構成要素について知る

- 100人いれば、100人への関わり方がある。相手に心地よいコミュニケーションを探すことが大切

● あいづち

: 聴いてもらっているという安心感につながる一方、打ち過ぎは「関心がない」「飽いている」という表れと捉えられることもある。

● 目を合わせる

: 関心を持ってもらっていると伝わる、緊張させてしまうこともある。

● 声のトーン

: 落ち着いて聞こえること、関心があることを伝えるトーンを意識

● 話すテンポ

: 速すぎても聞きづらいが、遅すぎてもイライラを呼び起してしまう。

● 姿勢や身体の向き

: 真正面で向き合うと緊張せることがある。斜めや横など、直接に目が合わない位置の方が話しやすい子供もいる。

IV 「声にならない声」を聴き取る

- 子供の言葉の背景を理解しようとすることが大切
例：「公園にジェットコースターが欲しい」
→「公園で許されている遊び方よりも、もっとスリルがあってドキドキできるようなことをして遊べる場所が欲しい」
- もっと知りたいという姿勢を子供に分かるように見せられるとよい

V 子供の声を聴く心構えと責任

<子供の意見は全て大切>

- 大人を試すような言動をする場合があるが、そうした言動を否定するのではなく、まずは子供の気持ちを受け止めることが大切
- 「この人は話しても大丈夫」と思わなければ本音を話してくれない

<安全・安心な環境づくり>

- 話したことが誰にもバレない、「大人の喜ぶ答えてなんだろう」と考えなくてもいい、という安心感を子供が感じられなければ、子供の声は表面的にしか聞くことができない
- 子供が言いたくないことを深掘りして聴かない（子供の最善の利益を守る姿勢が不可欠）
- 無理に意見を引き出そうとせず、子供が話したくなるまで「待つ」意見を言えなくても、参加するだけでも良い（自己決定権を尊重）

VI 子供にとって安全・安心な環境づくり

- ヒアリング前にファシリテーターと子供との間でのルールを共有（「何を話してもOK」「誰が何を言ったのか、この場所以外では秘密」「疲れたら休んでいい」「意見を言わなくてもOK」等）
- 意見を引き出すことに躍起になって、子供のペースを乱さないこと
- 子供を危険にさらすことが無いように、ヒアリング業務に関わる人全てが理解しておくべき項目を確認（セーフガーディング）

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

ク 子供のセーフガーディング

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

① 子供のセーフガーディングとは

- ・子供のための活動であっても、活動に従事する大人と、参加する子供との立場の違いなどから、本来子供を守るべき大人の言動が子供の権利を侵害する場合があることを自覚し、予防策を講じておく必要がある。
- ・本事例では、子供の尊厳を傷つけたり、いかなる形の不利益も生じることが無いよう、様々な配慮を行った。

② 倫理的配慮

分かりやすい説明	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成長・発達段階に応じた説明を行い、子供に分かりやすい平易な表現 (例) 小学5年生以上：居場所／4年生まで：よくくる、自分の好きな場所
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成長・発達段階や理解度に合わせ、コミュニケーション方法を柔軟に変更 ・声をあげにくい子供が配慮してほしい事項があれば、事前に確認（使用言語等）
匿名性を確保	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の個人情報（氏名、住所、連絡先等）は記録せず、ヒアリングに参加した子供が特定できないようにする。
ヒアリング時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング時間は学校の授業時間等に鑑み、45分程度を基本としつつ、年齢や発達段階等に応じて柔軟に変更 ・事前アンケートは、子供の過度な負担にならないよう、質問数を考慮し、容易に回答が可能なものとする。
設問方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や発達段階、性格等により質問方法を柔軟に変更し、オープンクエスチョンだけでなく、選択肢も提示 ・子供にとって話しづらい可能性のある調査内容は、居場所の運営スタッフ等から予め聞き取る。
説明と同意	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングへの参加について、目的、方法、内容、かかる時間、結果の取り扱い、回答の自由、回答することで不利益を被らないことを説明し、子供本人に同意を取得する。
発言の撤回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングでの回答は、後日でも撤回できることを事前に伝える。（撤回された意見は記録から削除）
誘導・強要の禁止	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の特定の声を取り上げて、ヒアリングの方向性や内容等を誘導しない。 ・子供が本来話したくないことや、傷の癒えていない話までを深堀りして聽こうとしない。 ・疲れたり、嫌な気持ちになった場合は、中断してもよいこと、無理に意見を言わなくてもよいことを子供に伝え、安心してもらう。



ポイント

- ✓ 子供がされて嫌だったことの典型例は、意見を「否定されること」「評価されること」「他人の意見と比べられること」
- ✓ 話すことや文字で書くのが苦手な子供には、絵で描いてもらうなど、一人ひとりの表現を尊重することも重要

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

③ 特定の困難な状況にある子供への配慮

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

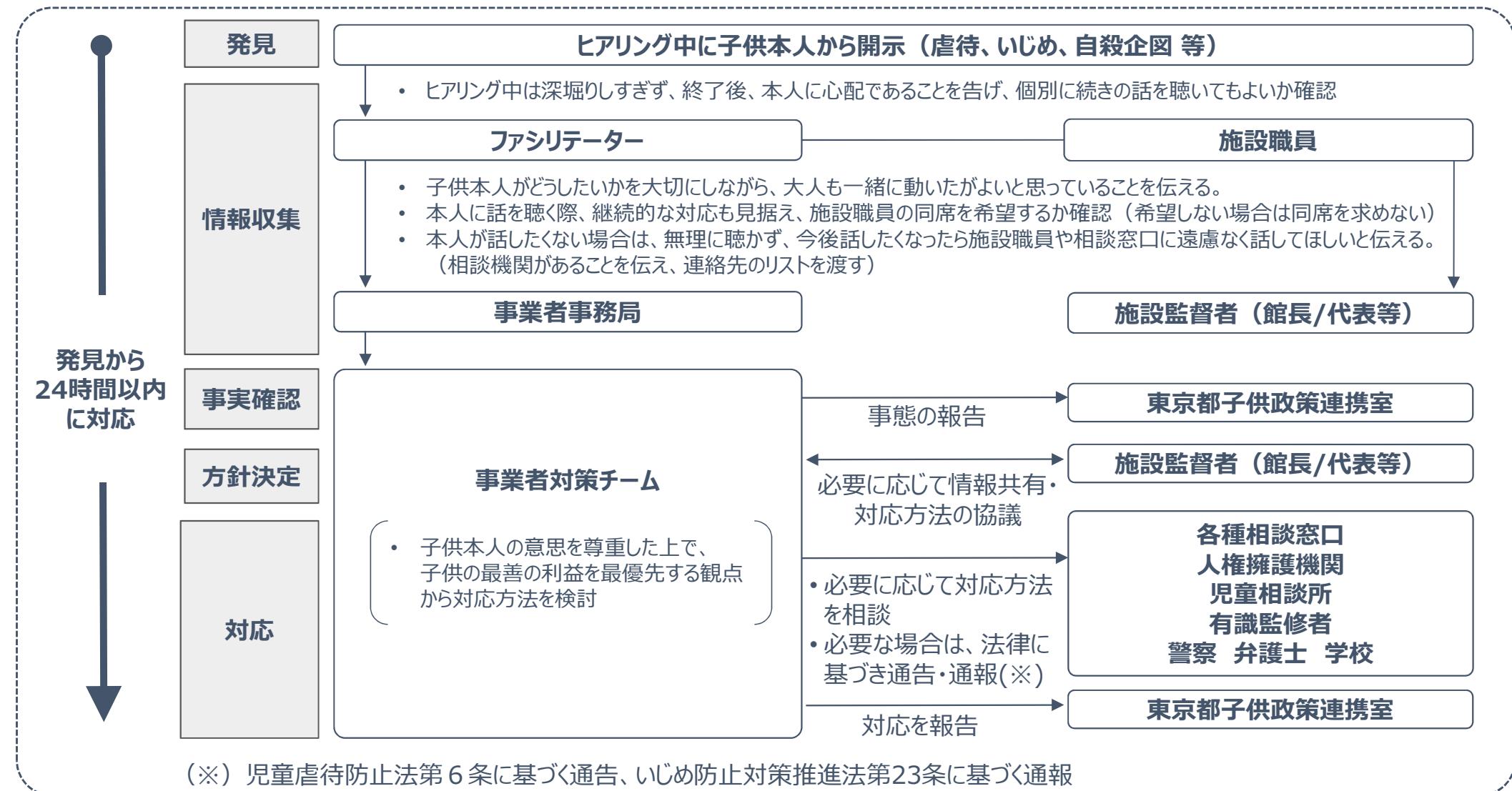
- 偏見や先入観にとらわれた発言や言動を確実に避けると同時に、子供が置かれている困難な状況について寄り添う姿勢を持つことを心掛ける。
- 子供への合理的配慮だけでなく、エンパワメントの視点からヒアリングを運営できるように心がける。

困難の種類	注視する点	ヒアリングで配慮する点
不登校／いじめ	学校に関すること、友人関係	学校とは関係のない場所で実施する
貧困	家庭での生活環境	経済的貧困を直接的に尋ねるのではなく、文化や人間関係、生活習慣なども含めて貧困を探る
虐待	家庭での生活環境、痣や震えなど	PTSDへ配慮し、直接的に虐待のことを尋ねない 保護者への同意は必須とせず、施設の運営スタッフ及び本人の同意を取得する
日本語を母語 としない子供	ルーツによる差別、言語による悩み	必要に応じて、やさしい日本語や英語を使用したり、母語での意思疎通のため通訳サポートを得るなどする
ヤングケアラー	家庭での生活環境	(本人が認知していない可能性が高い)
障がい	介助者/保護者ではなく、子供自身の意見を聞く	必要に応じて、介助者や保護者にコミュニケーションのサポートを得るもの、子供自身の表現に注目する
その他	家庭での生活環境、友人関係など	状況に応じた配慮が必要

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

④ 緊急時の対応フロー

- ヒアリングに参加している子供が虐待やいじめを受けている等の表明をした場合（又は可能性があると判断した場合）に、迅速かつ適切な対応ができるよう、下記フローにより対応方法を事前に整理した。



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

～実施後～

ケ 施設へのアフターフォロー

- ・ ヒアリングを受け入れて頂いた施設側に対するマナーとして、アフターフォローは確実に実施
- ・ アフターフォローとして、以下の内容を伝達・確認した。



«伝達事項・確認内容»

1. ヒアリングへの協力についてのお礼
2. ヒアリング時またはヒアリング後に問題がなかったか、子供たちから発言を撤回したい旨の相談はなかったかを確認
3. 子供たちに実施結果をフィードバックをする際には、その手順を別途連絡する旨
4. その他必要な事務手続き面の確認

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

(3) 意見反映

ア 考え方

- ヒアリングの実施に当っては、参加者に「こども未来アクション^(※)」（令和5年1月）の子供版を配布し、子供たちから聴いた意見及びその意見を踏まえた都の取組を、次の「こども未来アクション」に反映していくと説明してきた。（p24参照）

^(※) こども未来アクション：

子供目線で捉え直した政策の「現在地」と、子供との対話を通じた「継続的なバージョンアップの指針」であり、毎年度改定し、都独自の機動的な取組を推進

- そのため、令和6年2月に発表した「こども未来アクション2024」において、「子供の居場所におけるヒアリング」のページを設け、子供たちから寄せられた意見、その意見を都がどのように受け止めたのか、意見を踏まえた都の今後の取組を掲載した。

ポイント

- 東京都子供政策連携室は、都政の政策全般を子供目線で捉え直し、子供政策を総合的に推進するため、令和4年4月、新たに設置された。
- 子供政策連携室は、関係局との連携体制を構築し、東京都の子供施策を総合調整する役割を担っている。
- 子供政策連携室では、子供との対話を通じた政策のバージョンアップに全庁的に取り組むため、知事を本部長とし、全局長が参加する子供政策推進本部会議を開催し、庁内各局の子供政策の方向性を共有するなど、庁内連携の推進に取り組んでいる。



「こども未来アクション2024」（令和6年2月）
<https://www.kodomoseisaku.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/kodomo-mirai-action>



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

イ 「悩みの相談」に関する意見・今後の都の取組

「子ども未来アクション2024」(p11) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

悩みの相談に関する意見 1

<実際の発言に基づいて記載>

不安なことや辛いことを気軽に相談できるところが必要

- ・学校の愚痴を相談できる人がほしい（小学生@子供食堂）
- ・しょうもないことで時間を使ってもらうのも申し訳ないから、死ぬギリギリにならないと相談してはいけないと思っていた（中学生@ユースセンター）
- ・共感してくれるだけでもいい。気持ちを上げてくれる人がいると確実に悩みは減る（高校生@ユースセンター）

相談窓口に相談するには、相手との信頼関係が必要

- ・安心できる人、知っている人じやないとイヤだ（中学生@子供劇場）
- ・相談窓口に電話しても誰が出るのか分からない。話せるようになるまで心の距離がある（中学生@ユースセンター）
- ・大人の世代とはいじめのあり方も違うので話しても伝わらないと思う（中学生@ユースセンター）
- ・電話1本で心を開けと言われても難しい（高校生@ユースセンター）
- ・同じ目線でないと距離を感じる、大人を怖いと思ってしまう（高校生@ユースセンター）
- ・相談する相手を事前に知れて、選べるようにすると利用しやすくなる（高校生@ユースセンター）
- ・ピアソーターの大学生には話しやすい（高校生@ユースセンター）
- ・言いふらさない人（中学生@フリースペース）

SNSの方が気楽に相談できる人もいる

- ・身近な人だと心配される。顔を知っているから言えない悩みもある（高校生@ユースセンター）
- ・気楽にインターネットで相談できたらいい（小学生@子供食堂）
- ・SNSやインターネットで仲良くなった人に悩みを相談するのもあり（高校生@ユースセンター）
- ・電話は苦手だけど、LINEで気軽に相談できるならいいかもしれない（中学生@子供食堂）
- ・AIだと相手が人じやない分、しゃべるよりテキトーでいい。人だと、相談相手に「この人、こんな人なんだ」と思われることも嫌だ（高校生@ユースセンター）
- ・担任と面談があるけど、相性もあるからAI相談があってもいいのでは（高校生@ユースセンター）

今後のアクション

● 子供・子育てメンター“ギュッとチャット”

- ・SNS等を通じて、利用者が選択可能な多様な相談相手*が、継続的に子供・子育て家庭に傾聴・共感し、孤独・孤立による不安や悩みの深刻化を予防
- ・AI等の技術を併用し、利用者の異変を検知する等のリスク管理を実施するなど、安心して利用でき、心の拠り所となる居場所づくりを推進
- ・2024年度から、SNS等活用の相談事業をスタートし、AIによるサポートを順次拡大していく予定

*多様な相談相手のイメージ

心理士、保健師等の専門職、大学生、相談対応経験の豊富な人 等



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

「こども未来アクション2024」(p12) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

悩みの相談に関する意見 2

<実際の発言に基づいて記載>

学校での困りごとについて、先生には相談しにくい子供もいる

- ・先生は忙しそうで話しかけづらい（小学生@子供食堂）
- ・担任の先生には言わない、我慢する（小学生@子供食堂）
- ・学校で不安なこと、担任にも相談できない気がする。おおごとにしたくない（小学生@学童クラブ）

スクールカウンセラーについての意見

- ・家族に悩みを相談しづらい。週に1度だけ来るスクールカウンセラーには何でも話せるし、相談できる。でも予約が1か月先くらいまで取れない。毎日来てほしい（中学生@子供劇場）
- ・カウンセラーの先生に、ずっと愚痴を言っている（小学生@学習支援拠点）
- ・スクールカウンセラーとよく話をしていた。放課後によく行って楽しかった（高校生@学習支援拠点）
- ・直接担任に言っても上手くいかない。スクールカウンセラーから伝えてもらうことで物事が動く（高校生@各種支援団体）
- ・教室とカウンセリングルームの場所を離してほしい。入るのを見られるのが嫌（小学生@子供劇場）

相談だけでなく、解決に向けて動いてほしい

- ・解決しないと思っていると相談しない（中学生@プレーパーク）
- ・担任の先生は話を聞いてくれるけど、何も変わらない（中学生@プレーパーク）
- ・相談しても変わらない（小学生@フリースクール）

今後のアクション

● スクールカウンセラーの配置

- ・児童・生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて相談を受けるなど、学校で子供の心理に関する支援を実施
- ・小・中学校の配置拡充を引き続き実施するとともに、都立高校において勤務日数を増加 **拡**

- ・都立特別支援学校にスクールカウンセラーを配置し、相談体制を充実させるモデル事業を実施

● スクールソーシャルワーカーの活用事業

- ・社会福祉の専門的な知識や技術を活用し、家庭や地域の関係機関との連携を図り、児童・生徒の悩みや、抱えている問題の解決に向けて活動
- ・小・中学校におけるスクールソーシャルワーカーの配置支援を拡充するとともに、専門性の高い都のユースソーシャルワーカー等を区市町村へ派遣し、スクールソーシャルワーカーに対する助言・サポートなどの支援を実施 **拡**

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

「こども未来アクション2024」(p13) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

悩みの相談に関する意見 3

<実際の発言に基づいて記載>

いつも遊びに行く場所に信頼できる大人がいると、親や先生・友達に言えないことも相談できる

- ・プレーワーカーに相談している（小学生@プレーパーク）
- ・ちゃんと相手になってくれるので、児童館のスタッフに相談している（中学生@児童館）
- ・話しやすい。高校の進路も相談して調べてもらった（中学生@児童館）
- ・学校の先生に言っても解決しないことを、学校に伝えてくれて助かる（小学生@子供食堂）
- ・自分を否定されないのが分かって話しやすい（中学生@ユースセンター）
- ・若いスタッフさんが今の世代の遊びに興味を持って話が合う（高校生@ユースセンター）
- ・困ったとき、このスタッフとはよく話をするし、相談もする（高校生@放課後等デイサービス）

相談窓口の案内方法について

- ・もっと分かりやすく知りたいことが書いてあるといい。ホームページなどにQ&Aみたいのがあったらい（小学生@児童館）
- ・どういう悩みを相談していいのか書いておいてもらえると相談しやすい（小学生@子供劇場）
- ・（学校で配られる相談窓口カードは）一気に配られるから埋もれちゃうし、確認する前に捨てちゃう（中学生@学習支援拠点）
- ・相談窓口のカードはファイルに入れてる（中学生@子供食堂）

今後のアクション

- 子供の意見を反映した遊び場づくりの推進
 - ・子供の意見を踏まえた遊び場等を整備する区市町村の事業を支援
 - ・「学び」「居場所」「相談場所」「インクルーシブ」の機能も有する遊び場を優先的に採択
 - ・2023年度は、子育て支援者・プレーワーカーによる相談・サポート体制を構築するなど「相談場所」の機能も有するプレーパークの整備事業を採択
 - ・2024年度は、採択事業数を拡大
- 東京都こどもホームページ
 - ・悩みの内容や相談方法（対面、SNS、電話等）ごとに、相談窓口を探す機能により、分かりやすく案内

- 信頼できる大人に相談することで気分が晴れたり、課題解決や安心につながっているという意見がみられました。
- 一方、「家族、学校の先生など身近な大人には相談しづらい」、「相談したことを知られたくない」という声や、「安心できる相手でないと相談できない」、「相談しても解決につながるとは思えない」といった声も挙がっており、相談することへの心理的ハードルの高さを感じてしまったり、相談することを諦めてしまっていることが分かる意見も寄せられています。
- 寄せられた意見を踏まえて、SNSによる相談、スクールカウンセラーへの相談、相談できる居場所づくりなど、多様な相談体制の充実や、相談窓口に関する分かりやすい情報発信などを通じて、子供が悩みや困りごとを気軽に相談できる環境づくりを進めています。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

ウ 「学習環境」に関する意見・今後の都の取組

「こども未来アクション2024」(p14) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

学習環境に関する意見 1

英語を用いたコミュニケーションや異文化交流の機会の充実

- ・英語のスピーチング、もっとやってほしい（中学生@ユースセンター）
- ・違う国の人と関われる授業がもっとあると良いと思う（中学生@プレーパーク）
- ・コミュニケーションをとりたい。気持ちを伝えられることが大切（高校生@ユースセンター）
- ・英会話をするのが楽しい。やりがいがある（高校生@学習支援拠点）
- ・学校で習う文法も大事だが、伝わる英語が使える方がいいので、駅で外国人に切符の買い方を教えてくれる（高校生@プレーパーク）
- ・英語を使って仕事をしたい（高校生@ユースセンター）
- ・海外で働きたい（高校生@ユースセンター）

<実際の発言に基づいて記載>

将来の仕事や、自分を取り巻く社会・地域に関する学び

- ・あまり知られていない大事な仕事を知る機会があるといい（中学生@ユースセンター）
- ・何をしたいのか見つからない（中学生@学習支援拠点）
- ・将来役に立つことを授業してほしい（中学生@子供食堂）
- ・地域の人たちとの交流、大事だと思う。きちんと話せる環境が減ってきてている気がする（中学生@ユースセンター）
- ・子供に機会を提供してほしい。自分の興味のある分野と繋げてくれる役割を東京都に望んでいる。自分は企業の企画に志願し、海外研修に行ったりしている（高校生@ユースセンター）

多様な体験機会や主体的な学び

- ・タブレットだけでなく観察・体験・遊びを通して授業を面白くしてほしい（中学生@プレーパーク）
- ・学校のみんなで商品を開発する授業をやった。普段できない体験をさせてもらうと大事にしてもらえていると感じる（小学生@子供劇場）
- ・機械を使う授業がしたい（小学生@子供食堂）
- ・保育園に手伝いに行きたい（小学生@子供食堂）
- ・自分で決めた勉強をやりたい（小学生@児童館）
- ・中学から高校で授業を受ける感覚が変わった。選べる自由度から自主的に受けている感覚になった（高校生@プレーパーク）

今後のアクション

- 生きた英語を身に付け、コミュニケーション能力を伸ばす教育 拡
 - ・TGG*(青海・立川)を活用した宿泊プログラムにより、「英語漬け」の環境を創出
※TOKYO GLOBAL GATEWAY
 - ・海外の大学等と連携し、国内外の中高生と英語で交流するイベントを開催
 - ・都立学校生を海外に派遣し、様々な交流プログラムを提供
 - ・都立高校で生徒がネイティブ講師とオンラインで英会話レッスンを行う機会を拡充
- 企業と連携したアントレプレナー シップ 教育の推進事業 拡
 - ・実際のビジネス活動を体験する機会を設けるなど、探究的な学習やアントレプレナーシップ教育等を推進
- 普通科高校におけるスキルアップ推進校指定制度
 - ・デジタルスキルや職場体験を通じたコミュニケーションスキル等を習得
- 学校における体験活動の充実
 - ・「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」において、都内学校向けに、希望する体験活動の機会を提供

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

「こども未来アクション2024」(p15) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

学習環境に関する意見 2

<実際の発言に基づいて記載>

勉強のサポート

- ・学校の勉強ついていけない（小学生@学童クラブ）
- ・先生がどんどん先に進んでしまって困っている（小学生@子供食堂）
- ・覚えないといけない国英社理が大変。自分は覚えるのが下手だと思うが先生のフォローはない（中学生@プレーパーク）
- ・塾が前提になっている（中学生@プレーパーク）
- ・質問時間が全然ない（中学生@プレーパーク）
- ・勉強はやれないから嫌い。でもやれたら好きになる（高校生@学習支援拠点）

日本語学習（日本語を母語としない子供からの意見）

- ・親は日本語の発音が分からないので通訳するのが大変（小学生@日本語教室）
- ・日本語が上手じやないので話すのが恥ずかしい（小学生@日本語教室）
- ・ここで宿題を教えてくれる。学校で配られる通知の内容も教えてくれる。算数が得意でなかったが、教えてくれて少しずつ分かるようになり、今では得意になった（小学生@フリースペース）
- ・日本語で困っていると日本語教室の先生が優しく教えてくれる（中学生@学習支援拠点）
- ・漢字がとても難しく授業についていけない（中学生@プレーパーク）
- ・日本語はオンラインで学んだ。漢字に困ってる（高校生相当@日本語教室）
- ・無料で日本語を学べるといいと思う（高校生相当@日本語教室）
- ・日本に来て最初に困ったのは学校だった。家で勉強して「おはよう」と「おねがいします」を覚えた（高校生相当@日本語教室）
- ・今悩んでいること。日本語が分からなので学校でも1人になってる（高校生@日本語教室）

今後のアクション

● 地域未来塾（スタディ・アシスト+）拡

- ・学習が遅れがちな児童・生徒のため、放課後の空教室等を活用し、学習支援・進学支援を実施する区市町村を支援

● 校内寺子屋（学力向上研究校）

- ・都立高校において義務教育段階の基礎学力の定着が十分ではない生徒に対し、放課後等に学習の場を確保し、外部人材の活用により個に応じた学習を支援

● 日本語を母語としない子供を支援

- ・日本語を母語としない子供が集い、交流する地域の居場所として「多文化キッズサロン」を設置する区市町村を支援し、子供の状況に合わせた日本語学習や教科学習、子供・保護者の悩みに寄り添う相談、地域コミュニティや同じ境遇の仲間との交流を実現

拡

- ・日本語能力が入門・初級レベルの都立高校新入生を対象に、春期・土曜に集中して学習できる日本語講座を開設

新

- ・子供向けの初期日本語教室の設置など、区市町村等が行う初期段階の日本語教育に関する取組を支援

新

- ・日本語指導が必要な児童・生徒を対象にオンライン上の仮想空間で新たな学びの場や居場所を提供

拡

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

「こども未来アクション2024」(p16) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

学習環境に関する意見 3

<実際の発言に基づいて記載>

学校でなくても、学べる場所、受け入れてくれる場所がある（フリースクール等）

- ・学校が嫌でここに来た。ここでは**自分のペースで勉強できる**（小学生@フリースクール）
- ・一人ひとりに合わせてくれる。自分で決めた目標に取り組める（中学生@フリースクール）
- ・勉強が苦手。ここでは**理解できるまで1対1で教えてくれる**（高校生相当@フリースクール）
- ・**友達**というより**家族**のような関係。大人の人数もちょうどいい。やりがいもある（中学生@フリースクール）

学校に行けない人が、フリースクール等に通いやすくしてほしい

- ・学校に行っているのが良いとか、どちらが上とかではなく、**自分に合っているところを選べる**というシステムになるといい（高校生相当@フリースクール）
- ・**学校に行くのが当たり前**と思われている。行かなきゃいけないところに行けないからしんどい（高校生相当@フリースクール）
- ・ここも**無料にしてほしい**（中学生@フリースクール）
- ・学校に行けなくても学べるように、**学校でないところにもお金をかけて**（高校生相当@フリースクール）
- ・学校でなくても、**お金払わないでも行ける**。そういう場所であるべき（高校生相当@フリースクール）

フリースクール等への支援や環境の充実も必要

- ・**お金をかければ先生も増える。スタッフもちゃんと休める。**新しく学校を作るより、今ある団体にお金をつけてほしい（中学生@フリースクール）
- ・**進路を相談したり、紹介してくれるところがあるといい。**今は、ネットで個人的に調べている（中学生@フリースクール）
- ・**部活やりたい。**運動部に入りたい（中学生@フリースクール）

今後のアクション

- **フリースクール等の利用者等に対する支援を開始** 新
 - ・学校生活に馴染めず生きづらさを抱える義務教育段階の子供がフリースクール等に通う場合の経済的負担を軽減するため、**利用料に対する助成制度を創設**
 - ・保護者の抱える不安・悩みに対してサポートするため、**保護者を対象とした勉強会や、保護者同士の交流会**等を開催
- **子供の活動支援の充実等を目的とするフリースクール等に対する支援を開始** 新
 - ・義務教育段階の子供が通うフリースクール等に求められる機能（心のケア、社会とのつながり、多様な学び）をベースに子供目線に立った支援を展開
- **子供の興味関心を引き出し、知的好奇心を最大化するメソッドについて調査研究** 新
 - ・子供の興味・関心を出発点とした、一人ひとりの**特長・特性を伸ばす学び**の実施手法等について、大学等の専門機関と連携した調査研究を実施

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

「こども未来アクション2024」(p17) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

学習環境に関する意見 4

<実際の発言に基づいて記載>

経済的な心配

- ・公立落ちたら進学できない。進路はお金で決まる（中学生@ユースセンター）
- ・浪人するなと言われる（高校生@ユースセンター）
- ・親にお金のこと言いにくい。塾に行かず、国公立を目指す（高校生@子供劇場）
- ・親に学費を出してもらえない。卒業して自分で働いて学校行く（高校生@児童館）
- ・国立か、私立なら奨学金でと言われる（中学生@ユースセンター）

自習できる場所がない

- ・兄弟がいて騒がしいから家では勉強しづらい（小学生・中学生@子供食堂）
- ・自分の部屋と机がほしい（小学生@子供食堂）
- ・家で勉強できないから、20時までここで勉強している（中学生@ユースセンター）
- ・勉強するためでも、放課後は学校に残れない（小学生@子供食堂）
- ・交渉すれば、親がカフェで勉強する費用を半分負担してくれる（高校生@ユースセンター）
- ・校則で寄り道ができない。ここは学校公認だから行きやすい（高校生@ユースセンター）
- ・ここに宿題をしに来る（中学生@ユースセンター）

今後のアクション

- 高等学校等の授業料実質無償化 **拡**
 - ・都立・私立の高校等の授業料を実質無償化（所得制限を撤廃）
- 都立の大学・高専の授業料実質無償化 **新**
 - ・都立の大学・高等専門学校の授業料を実質無償化（所得制限を撤廃）
- 受験生チャレンジ支援貸付事業
 - ・学習塾代や受験料を捻出できない低所得世帯に貸付（進学した場合は償還免除）
- 子供の意見を反映した遊び場づくりの推進
 - ・区市町村による「学び」「居場所」「相談場所」「インクルーシブ」の機能も有する遊び場の整備を支援
 - ・2023年度は、「学習・交流・たまり場」をコンセプトとした空間等の整備事業を採択
 - ・2024年度は、採択事業数を拡大

- 将来につながり、興味・関心が持てる体験や経験をしたいという声がある一方で、経済的状況や家庭の事情によって、自分が望む学びや希望する進路等へのあきらめを感じてしまう声が挙がっています。また、勉強についていけず、苦手意識や無力感を感じてしまうことや、教員や友達との関係への悩みなどから、学校に行くことに辛さを感じてしまうことを伺わせる声があります。
- 寄せられた意見を踏まえて、学校における教育環境の充実のほか、学びに関する経済的な負担の軽減や学習支援、学校外の多様な学びの場や居場所の創出、日本語を母語としない子供への支援など、誰一人取り残さない観点から、子供へのサポートを強化していきます。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

工 「遊び場・居場所」に関する意見・今後の都の取組

「子ども未来アクション2024」(p18) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

遊び場・居場所に関する意見

子供たちの遊び場・居場所は生きる上で必要不可欠な場所

- ・プレーパークがないと生きていけない（中学生@プレーパーク）
- ・児童館がないと遊びに行く頻度が減る（小学生@各種支援団体）
- ・ここがなくなったら居場所がなくなる。高校生になっても来たい（中学生@子供食堂）
- ・大人にプライベートなことも話せる安心な居場所がほしい（小学生@プレーパーク）
- ・ここに来るのはお金を使わずに交流できるから（中学生@ユースセンター）
- ・高校よりこの方が友達ができる。ここに来てよかった（高校生@放課後等デイサービス）

<実際の発言に基づいて記載>

ボール遊び禁止など、公園での制限が多い

- ・公園では禁止看板ばかり（小学生@子供食堂）
- ・近所の公園がボール禁止になった。遊ぶ場所なのにボールで遊べない（中学生@子供食堂）
- ・ボール遊び禁止の公園でなくとも、うるさいと怒られる（中学生@子供食堂）
- ・禁止が多い。プレーパークみたいな公園が増えてほしい（中学生@児童養護施設）

遊び場や居場所を整備するときは、子供たちの意見を聴いてほしい

- ・公園を新しくするとき大人の意見ばかり聴いて、子供の意見がなかった（中学生@プレーパーク）
- ・どうせ「ダメ」って言われるから、スタッフに言ったことはない（小学生@学童クラブ）
- ・ここでは子供の意見が取り入れられる。こういう所が広まってほしい（高校生@ユースセンター）

中高生が安心して行ける地域の居場所が少ない

- ・小さい子供に占拠されている（中学生@プレーパーク）
- ・中高生だけの場がない（高校生@プレーパーク）
- ・有料の体育館やファミレスに行っている子もいるが、自分たちはお金がない（中学生@児童館）

今後のアクション

- 子供の意見を反映した遊び場づくりの推進
- ・ 区市町村が、子供の意見を踏まえて、プレーパークやボール遊び場などを整備する事業を支援
- ・ 「学び」「居場所」「相談場所」「インクルーシブ」の機能も有する遊び場を優先的に採択
- ・ 2024年度は、採択事業数を拡大



- 遊び場・居場所は、育つために欠かせないものであることが分かります。そこに行けば誰かがいる安心感があり、様々な年齢の子供、家族や先生以外の人と交流することができる貴重な場であることが伺えます。一方で、大人だけで決めたルールに納得がいかないと感じる声も挙がっています。
- 寄せられた意見を踏まえて、子供の意見を取り入れながら、気軽に立ち寄れる遊び場や居場所を増やしていきます。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

オ ヒアリングの感想

「こども未来アクション2024」(p19) より抜粋

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

ヒアリングの感想

参加した子供の声

- ・学校のことをこんなに詳しくしゃべったのは今日が初めて（小学生@子供食堂）
- ・こうした場、話ができる場がたくさんあってほしい（小学生@学童クラブ）
- ・こういう場がないと言う場所がない（高校生@児童館）
- ・自分の心にたまつてることがすぐ言えるから、すごく気持ちいい（小学生@学童クラブ）
- ・このように色々意見を述べて、それが本当にしきるべきところに届くのかが信じられない（中学生@子供劇場）
- ・子供たちの話を聞いたところで意味あるんですか？（高校生@ユースセンター）

ヒアリング受入れ施設の声

<実際の発言に基づいて記載>

- ・とてもイキイキした表情で帰っていました。日本語で、**先生以外の人に意見を伝える**ということは、彼らにとっても**すごく良い機会**になったようです。貴重な機会をありがとうございました（日本語教室）
- ・初めての人にあの子は絶対話に行かないだろうと思っていた子が、**自分から「行く！」**と言い始めて、スタッフ間で驚いていた。最初に遊んでいただいたのがよかったです（放課後等デイサービス）
- ・「高校生の男の子が、**俺本音でしゃべれちゃったー！**」と言って帰っていました（ユースセンター）
- ・思った以上に長い時間小学生も中学生もお話ししていく、正直驚きました。きっと、子供たちが話しやすく、じっくりお話を聞いてくださっていたのだと思います。ふだん、**私たちではゆっくり聴けていないこともたくさんあったのか**だと思います（プレーパーク）
- ・子供たちもとても楽しそうで、**聞いてほしい子が多い**んだなと感じた（子供食堂）
- ・ヒアリングの環境設計、子供への問い合わせの投げ方、傾聴の姿勢などから学ぶことが多い時間でした（フリースペース）
- ・児童からは「**話しやすかった**」と感想があった（児童養護施設）

- 自分の意見や思いを話すことができ、大人が否定せずに受け止めてくれる経験をしたこと、今回のヒアリングをポジティブに受け止め、話して良かった感じているという声が挙がっていました。一方、意見を言っても現状が変わると思えないという声もありました。
- 子供の声を聴き、丁寧な対話を続け、寄せられた意見が施策に適切に反映されるよう取り組むとともに、子供が年齢や成長・発達段階に応じて社会の一員として参画できる環境づくりを進めています。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

(4) 子供へのフィードバック

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

ア 目的

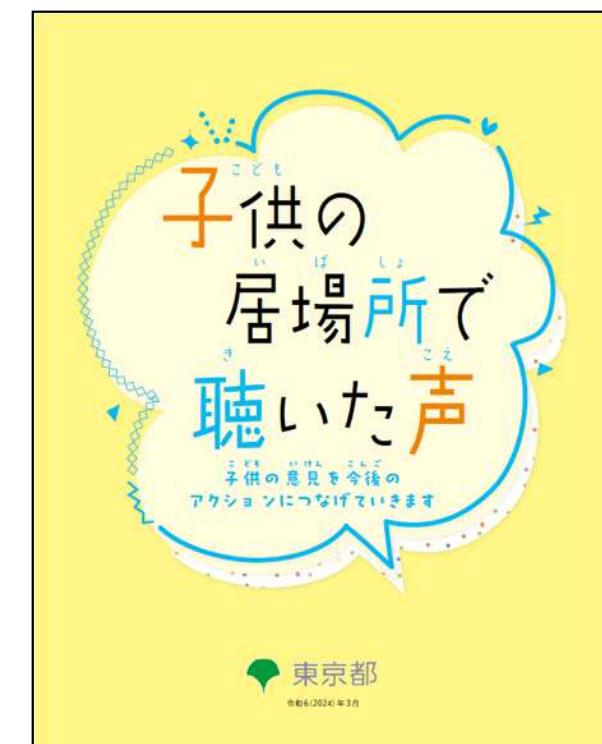
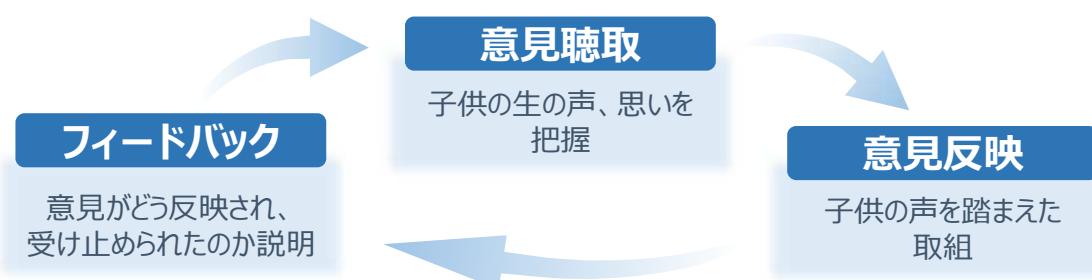
- ・ヒアリングに参加してくれた子供たちへの説明責任を果たすため、子供の意見を聴いたままにせず、どのような意見が出て、どう反映されたのかを子供たちにフィードバックする。

イ 効果

- ・適切なフィードバックは、意見を言った子供にとって学びの機会となるとともに、自身の意見が社会に影響を与える経験を通じて、意見を言うことに対するモチベーションや自己有用感、社会に参加する意欲を高める効果が期待できる。

ウ 方法

- ・ヒアリングで聴いた子供の意見、その意見を都がどのように受け止めたのか、意見を踏まえた都の今後の取組を、子供向けに分かりやすい表現でまとめたパンフレットを作成（全24ページ）
- ・ヒアリングに協力してもらった施設を通じて、ヒアリングに参加した子供たちに配布
- ・作成したパンフレットを今後のヒアリングにも活用することで、子供たちの意見を踏まえた都の取組や、都からのフィードバックについて、さらに意見を聞くことで、対話を続けていくサイクルを生み出していく



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

工 子供向けパンフレットの掲載内容

- ・ ヒアリングの狙いや都の姿勢を子供へのメッセージの形で「はじめに」として記載
- ・ 東京都こども基本条例を紹介し、都は子供の意見を大切にしていくことを伝えながら、ヒアリング概要を記載

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

はじめに

東京都では、子供のための政策を考えるときに、主役である子供の意見を大切にしたいと考えています。たくさんの声を聴くために、子供がいつも過ごしているいろいろな場所に行ってきました。

悩んでいることや、嫌だと思っていること、うれしいと思っていること、世の中をよくしていくためのアイデアなど、いろいろな声がありました。

子供たちの声

子供たちの声と、その声をもとにして、これから東京都が行う取組をご紹介します。「もっと意見を言いたい！」と思ってもらえるように、今回ご紹介しきれなかった意見も含めて、これからも、子供の意見を積極的に取り入れて、子供のためにどうするのかを考えて、取り組んでいきます。

もくじ

はじめに
 「子供の居場所」でヒアリングしました 3
 子供たちの声
 ■「悩みの相談」についての声と今後のアクション①②③ 4~9
 ■「学びの環境」についての声と今後のアクション①②③⑥ 10~17
 ■「遊び場・居場所」についての声と今後のアクション① 18~19
 ■ヒアリングの感想 20
 ■施設ごとの子供の声 21~23
 おわりに 23

「子供の居場所」でヒアリングしました

東京都には、「東京都こども基本条例」というルールがあります。そこで、次のことが決められています。

- ◆ 子供を権利の主体として尊重
子供には、誰もが持っている当たり前の「権利」があり、大切にされます。
- ◆ 子供の最善の利益が最優先
大人は、子供に最もよいことは何かを第一に考えます。
- ◆ 子供の意見は大切
子供の意見は価値があるものです。大人は、子供の意見にしっかり向き合います。

東京都は、学校や水道、病院、道路、公園などによってみんなの暮らしを支えています。また、社会のいろいろな問題を解決するために取り組んでいます。そして、子供のための取組を考えるときには、主役である子供の意見を大切にしたいと考えています。

そこで東京都は、子供たちが過ごしている居場所に足を運び、「悩みの相談」「学びの環境」「遊び場・居場所」の3つをテーマにして、601人の子供たちに意見を聴きました。

【ヒアリングをした施設】	
区分	人数
児童館	96
ユースセンター	78
プレー／パーク	72
学習クラブ	61
子供食堂	59
計	601

【年齢別】	
区分	人数
小学生	322
中学生・高校生相当	279
計	601

工夫したこと

子供がリラックスできる雰囲気づくりと開かれた方針にして、できるだけ本音で話せるようなヒアリングの準備をしました。ヒアリングの間は、子供たちが傷ついたり、ストレスがかかったりしないように気をつけました。

※このヒアリングは、2023年8月～11月に、東京都から委託を受けた一般社団法人TOKYO PLAYが行いました。

事例 1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

- 「今後のアクション」は、子供の声を踏まえた都の取組であるが、子供の立場から見てどう変わらのか分かりやすいように、可能な限り子供を主語とした表現で記載

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

「悩みの相談」についての声 1

不安なことやつらいことを気軽に相談できるところが必要

- 学校の悪徳を相談できる人がほしい(小学生@子供食堂)
- しょうもないことで時間を使ってもらうのも申し訳ないから、死ぬギリギリにならないと相談してはいけないとと思っていた(中学生@ユースセンター)
- 共感してくれるだけでもいい。気持ちを上げてくれる人がいると確実に悩みは減る(高校生@ユースセンター)

相談窓口に相談するには、相手との信頼関係が必要

- 安心できる人、知っている人じゃないとイヤだ(中学生@子供劇場)
- 相談窓口に電話しても誰が出るかわからない。話せるようになるまで心の距離がある(中学生@ユースセンター)
- 大人の世代とはいじめのあり方も違うので話しても伝わらないと思う(中学生@ユースセンター)
- 電話1本で心を開けと言われても難しい(高校生@ユースセンター)
- 同じ目線でないと距離を感じる、大人を怖いと思う(高校生@ユースセンター)
- 相談する相手を前に知れて、選べるようにすると利用しやすくなる(高校生@ユースセンター)
- ピアサポーターの大学生には話しやすい(高校生@ユースセンター)
- 言いふらさない人(中学生@フリースペース)

SNSの方が気楽に相談できる人もいる

- 身近な人だと心配される。顔を知っているから言えない悩みもある(高校生@ユースセンター)
- 気楽にインターネットで相談できたらいい(小学生@子供食堂)
- SNSやインターネットで仲良くなったり人に悩みを相談するのもあり(高校生@ユースセンター)
- 電話は苦手だけど、LINEで気軽に相談できるならいいかもしれない(中学生@子供食堂)
- AIだと相手が入じしない分、しゃべるよりテキトーでいい。
人だと、相談相手に「この人、こんな人なんだ」と思われることも嫌だ(高校生@ユースセンター)
- 相性と筋があるけど、相性もあるからAI相談があつてもいいのでは(高校生@ユースセンター)

今後のアクション

子供・子育てメンター “ギュッとチャット”

- 2024年度から、スマートフォンやパソコンからチャットで悩みを相談できる新しいサービスがスタートします。
- 「いろいろな人たち」の中から自分で相談相手を選ぶことができ、次に相談する時も同じ人に相談できます。
- 相談相手の人は、みなさんの話をしっかりと聴き、一緒に考え、一人で不安や悩みを抱え込まないようにします。
- AIを使ったサポートも始め、充実させていきます。

相談に乗ってくれる「いろいろな人たち」
心や体のことに対する相談など、大学生、相談に乗った経験がたくさんある人などです。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業概要 意見反映 意見反映 フィードバック 広報

「悩みの相談」についての声 2

学校での困りごとについて、先生には相談しにくい子供もいる

- 先生は忙しそうで話しかけづらい(小学生@子供食堂)
- 担任の先生には言わない、我慢する(小学生@子供食堂)
- 学校で不安なこと、担任にも相談できない気がする。
おがこにしたくない(小学生@学童クラブ)

スクールカウンセラーについての意見

- 家族に悩みを相談しづらい。週に1度だけ来るスクールカウンセラーには何でも話せるし、相談できる。でも予約が1か月先くらいまで取れない。毎日来てほしい(中学生@子供劇場)
- カウンセラーの先生に、ずっと愚痴を言っている(小学生@学習支援拠点)
- スクールカウンセラーとよく話をしていた。
放課後によく行つて楽しかった(高校生@各種支援拠点)
- 誰も担任に言つても上手くいかない。スクールカウンセラーから伝えてもらうことで物事が動く(高校生@各種支援団体)
- 教室とカウンセリングルームの場所を離してほしい。
入るのを見られるのが嫌(小学生@子供劇場)

相談だけでなく、解決に向けて動いてほしい

- 解決しないと思つてはいると相談しない(中学生@ブレーバーク)
- 担任の先生は話を聞いてくれるけど、何も変わらない(中学生@ブレーバーク)
- 相談しても変わらない(小学生@フリースクール)

今後のアクション

スクールカウンセラー

- みなさんの気持ちを軽くしたり、悩みを解決したりするために、学校でスクールカウンセラーに相談することができます。
- みなさんがもっと相談しやすくなるように、
 - 公立小・中学校のスクールカウンセラーを増やす取組を続けています。
 - スクールカウンセラーの勤務日を多くする都立高校を増やします。
 - 都立特別支援学校にスクールカウンセラーを配置する取組を進めています。

スクールソーシャルワーカー

- スクールソーシャルワーカーは、みなさんの悩みや問題を解決するために、学校やいろいろな機関と協力して活動する人です。
- 公立小・中学校のスクールソーシャルワーカーを増やす取組を続けています。
- 不登校などの悩みや問題の解決のために、東京都のユースソーシャルワーカーが、公立小・中学校のスクールソーシャルワーカーをサポートします。



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業概要 意見反映 意見反映 フィードバック 広報

「悩みの相談」についての声 3

いつも遊びに行く場所に信頼できる大人がいると
親や先生・友達に言えないことも相談できる

- プレーワーカーに相談している(小学生@プレーパーク)
- ちゃんと相手ってくれるので、児童館のスタッフに相談している(中学生@児童館)
- 話しやすい。高校の進路も相談して調べてもらった(中学生@児童館)
- 学校の先生に言っても解決しないことを、学校に伝えてくれて助かる(小学生@子供食堂)
- 自分を否定されないのがわかって話しやすい(中学生@ユースセンター)
- 若いスタッフさんが今の世代の遊びに興味を持って話が合う(高校生@ユースセンター)
- 困ったとき、ここのスタッフとはよく話をし、相談もする(高校生@放課後等デイサービス)

相談窓口の案内方法について

- もっとわかりやすく知りたいことが書いてあるといい。
ホームページなどにQ&Aみたいのがあったらいい(小学生@児童館)
- どういった悩みを相談していいのか書いておいてもらえると相談しやすい(小学生@子供劇場)
- (学校で配られる相談窓口カードは)一気に配られるから埋もれちゃうし、
確認する前に捨てちゃう(中学生@学習支援拠点)
- 相談窓口のカードはファイルに入れてる(中学生@子供食堂)

東京都の受け止め

- 信頼できる大人に相談することで「気分が晴れた」、「問題が解決した」、「安心できた」という意見がみられました。
- 一方、「家族、学校の先生など身近な大人には相談しづらい」、「相談したことを知られたくない」という声や、「安心できる相手でないと相談できない」、「相談しても解決につながるとは思えない」といった声も挙がっています。相談することが難しいと感じていたり、相談することをあきらめてしまっていることがわかります。

今後のアクション

子供の意見を取り入れた遊び場づくり

- みなさんの身近な場所に、子供の意見を取り入れてつくる遊び場が増えるように、東京都から区市町村へ補助金[※]を出しています。
- 学べる場所もある、安心できる居場所になる、悩みを相談できる大人がいる、誰でも利用できる、そういう遊び場を優先的に増やしていきます。
- このような遊び場がもっとたくさんできるように、2024年度は補助金[※]を増やします。

補助金って何?
国や自治体が出してくれるお金のことです。決められた目的のために使うことができます。
みなさんの身近な地域で必要な施設やサービスは、区市町村が用意することが多いので、東京都は、そのために必要なお金をサポートしています。

東京都こどもホームページ

- みなさんの悩みの内容や、どういう方法で相談したいか(会って話す・SNSチャット・電話など)に応じて、ホームページでわかりやすく案内するので、一人ひとりに合った相談窓口を見つけやすくなります。



事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業概要 意見反映 意見反映 フィードバック 広報

まな かんきょう 「学びの環境」についての声 1

?
こんご 今後のアクション

英語で話す機会や海外の人と交流する機会を増やしてほしい

- 英語のスピーチング、もっとやってほしい(中学生@ユースセンター)
- 違う国の人と関わる授業がもっとあると良いと思う(中学生@ブレーバーク)
- コミュニケーションをとりたい。気持ちを伝えられることが大切(高校生@ユースセンター)
- 英会話をするのが楽しい。やりがいがある(高校生@学習支援拠点)
- 学校で言う文法も大事だが、伝わる英語が使える方がいいので、紙で外国人の方の質問を教えていたりしている(高校生@ブレーバーク)
- 英語を使って仕事をしたい(高校生@ユースセンター)
- 海外で働きたい(高校生@ユースセンター)

将来の仕事や、自分が住んでいる地域・社会について学びたい

- あまり知らない大事な仕事を知る機会があるといい(中学生@ユースセンター)
- 荷をしたいのか見つからない(中学生@学習支援拠点)
- 将来後に立つことを授業してほしい(中学生@子供食堂)
- 地域の人たちとの交流、大事だと思う。
きちんと話せる環境が減ってきてる気がする(中学生@ユースセンター)
- 子供に機会を提供して欲しい。自分の興味のある分野と繋げてくれる役割を東京都に望んでいる。
自分は企業の企画に志願し、海外研修に行ったりしている(高校生@ユースセンター)

いろいろな体験をしたい、自分の好きなことを学びたい

- タブレットだけでなく観察・体験・遊びを通して授業を面白くしてほしい(中学生@ブレーバーク)
- 学校のみんなで商品を開発する授業をやった。
普段できない体験をさせてもらおうと大事にしてもらっていると感じる(小学生@子供劇場)
- 機械を使う授業がしたい(小学生@子供食堂)
- 保育園に手伝いに行きたい(小学生@子供食堂)
- 自分で決めた勉強をやりたい(小学生@児童館)
- 中学から高校で授業を受ける感覚が変わった。
選べる自由度から自主的に受けている感覚になった(高校生@ブレーバーク)

伝わる英語を身に付け、コミュニケーション能力を伸ばす教育

- 一日中英語に触れる宿泊プログラムに、もっとたくさんの都立学校生が参加できるようになります。
- 海外の中高生と英語で交流できるように、イベントを開催します。
- 都立学校生が海外に行き、海外の生徒等と交流できるプログラムを行います。
- 都立高校で英語を話す海外の先生とオンラインで英会話レッスンができる機会を増やします。



企業と協力した都立高校での仕事体験

- 実際の仕事を体験したり、働く人の話を聞いたりすることで、自分で考えて行動できる力を伸ばせる機会をつくります。
- スキルアップ推進校として指定された普通科高校で、「パソコンのスキル」「英語のスキル」・職場体験による「コミュニケーションのスキル」の3つのスキルを身に付けることができます。



学校での体験活動

- 都内の学校で、希望する体験活動ができる機会をつくります。

10

52

事例 1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業概要 意見反映 意見反映 フィードバック 広報

「学びの環境」についての声 2

勉強のサポート

- 学校の勉強ついていけない(小学生@学童クラブ)
- 先生がどんどん先に進んでしまって困っている(小学生@子供食堂)
- 覚えないといけない国英社理が大変。
自分は覚えるのが下手だと感想が先生のフォローはない(中学生@ブレーバーク)
- 塾が前掛になっている(中学生@ブレーバーク)
- 質問時間が全然ない(中学生@ブレーバーク)
- 勉強はやらないから嫌い。でもやれたら好きになる(高校生@学習支援拠点)

外国にルーツがある子供からの意見 (日本語で困っている)

- 親は日本語の発音がわからないので通訳するのが大変(小学生@日本語教室)
- 日本語が上手じゃないので話すのが恥ずかしい(小学生@日本語教室)
- ここで宿題を教えてくれる。学校で配られる通知の内容も教えてくれる。
算数得意でなかったが、教えてくれて少しずつわかるようになり、今では得意になった(小学生@フリースペース)
- 日本語で困っていると日本語教室の先生が優しく教えてくれる(中学生@学習支援拠点)
- 漢字がとても難しく授業ついていけない(中学生@ブレーバーク)
- 日本語はオンラインで学んだ。漢字に困ってる(高校生相当@日本語教室)
- 無料で日本語を学べるといふと思う(高校生相当@日本語教室)
- 日本に来て最初に困ったのは学校だった。
家で勉強して「おはよう」と「おねがいします」を見えた(高校生相当@日本語教室)
- 今悩んでいること。日本語がわからないので学校でも1人になってる(高校生@日本語教室)

今後のアクション

学習のサポート

- 勉強が苦手な小・中学生が勉強を教えてもらえるように、放課後の教室などを使って、地域の人や塾の先生による学習のサポートを行う区市町村に補助金を出します。
- 小・中学校の学力が十分に身に付いていない都立高校生が高校の授業ついていくるように、放課後などに勉強を教えてもらえる場をつくります。

外国にルーツがある子供への支援

- 東京都から区市町村に補助金を出して、「多文化キッズサロン」を増やしていきます。「多文化キッズサロン」では、日本語や学校の勉強を教えてもらったり、悩みを相談できたり、仲間と集まって交流できたりします。
- 新しく日本語講座をつくることで、日本語のサポートが必要な都立高校の新入生が春休みや土曜日に日本語を学べるようになります。
- 地域で日本語を学べる場を区市町村と一緒につくります。
- 日本語のサポートが必要な子供に、オンラインで日本語を学んだり、アバターを通じて交流できるサービスを提供します。

補助金って何?

国や自治体が出してくれるお金のこと。決められた目的のために使うことができます。
みなさんの身近な地域で必要な施設やサービスは、区市町村が利用することが多いので、東京都は、そのために必要なお金をサポートしています。

事例 1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業概要
意見反映
意見反映
フィードバック
広報

「学びの環境」についての声 3

学校でなくても、学べる場所、受け入れてくれる場所がある(フリースクールなど)

- 学校が嫌でここに来た。ここでは自分^のベースで勉強できる(小学生@フリースクール)
- 一人ひとりに合わせてくれる。自分で決めた目標に取り組める(中学生@フリースクール)
- 勉強が苦手。ここでは理解できるまで1対1で教えてくれる(高校生相当@フリースクール)
- 友達というより家族のような関係。大人の人数もちょうどいい。やりがいもある(中学生@フリースクール)

学校に行けない人が、フリースクールなどに通いやすくしてほしい

- 学校に行っているのが良いとか、どちらが上とかではなく、自分に合っているところを選べるというシステムになるといい(高校生相当@フリースクール)
- 学校に行くのが当たり前と思われている。行かなきやいけないところに行けないからしんどい(高校生相当@フリースクール)
- ここも無料にしてほしい(中学生@フリースクール)
- 学校に行けなくても学べるように、学校でないところにもお金をかけて(高校生相当@フリースクール)
- 学校でなくても、お金払わないでも行ける。そういう場所であるべき(高校生相当@フリースクール)

フリースクールなどへのサポートも必要

- お金をかければ先生も増える。スタッフもちゃんと休める。新しく学校を作るより、今ある団体にお金をつけてほしい(中学生@フリースクール)
- 迷路を相談したり、紹介してくれるところがあるといい。今は、ネットで個人的に調べている(中学生@フリースクール)
- 部活やりたい。運動部に入りたい(中学生@フリースクール)

今後のアクション

フリースクールなどに通う子供への支援

- フリースクールなどに通う場合に、東京都から補助金をもらえるようになります。
お金の負担を軽くすることで、学校に行けない小・中学生がフリースクールなどに通いやすくなります。

補助金って何?
団や自治体がお出してくれるお金のこと、決められた目的のために使うことができます。

フリースクールって何?
いろいろな理由で学校に行きたくないとき、行きたくても行けないときなどに、学校の代わりに過ごす学びの場や宿泊施設のことです。

フリースクールなどへの支援

- フリースクールなどに通う小・中学生が、心のケアやいろいろな活動・学びのサポートなどを受けられるようにするために、子供のための取組を充実させるフリースクールなどに対する補助金をつくります。

子供が「もっと深く知りたい」と思う気持ちを高める方法の研究

- ひとりひとりの長所や個性を伸ばす学びの方法を、大学や専門機関などと一緒に研究します。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業概要 意見反映 意見バック フィードバック 広報

まな かんきょう 「学びの環境」についての声 4

お金の心配

- 公立落ちたら進学できない。道はお金で決まる(中学生@ユースセンター)
- 浪人すると言われる(高校生@ユースセンター)
- 親にお金のこと言いにくい。塾に行かず、公立を目指す(高校生@児童感)
- 親に学費を出してもらえない。卒業して自分で働いて学校に行く(高校生@児童感)
- 国立か、私立なら奨学金でと言われる(中学生@ユースセンター)

じじょう ばしょ 自習できる場所がない

- 兄弟がいて静がしいから家では勉強しづらい(小学生・中学生@子供食堂)
- 自分の部屋と机ほしい(小学生@子供食堂)
- 家で勉強できないから、20時までここで勉強している(中学生@ユースセンター)
- 勉強するためでも、放課後は学校に残れない(小学生@子供食堂)
- 交渉すれば、親がカフェで勉強する費用を半分負担してくれる(高校生@ユースセンター)
- 校則で寄り道ができない。ここは学校公認だから行きやすい(高校生@ユースセンター)
- ここに宿題をしに来る(中学生@ユースセンター)

とうきょうと 東京都のう と受け止め

- 将来につながり、興味が持てる体験や経験をしたいという声がありました。一方で、お金のことや家庭の事情で、自分がやりたいことができない、行きたい学校へ進学できない、というような声が挙がっています。また、勉強についていけず、やる気がなくなってしまった、学校の先生や友だとの関係に悩んでいて、学校に行くのがつらい、という声もあります。

今後のアクション

授業料の実質無償化

- 都立・私立の高校や都立の大学・高等専門学校などで、家庭の収入に関係なく、授業料の支援が受けられるようになります(都内にお住まいの家庭が対象です)。

受験生チャレンジ支援貸付事業

- 収入が少ない家庭は、塾代や受験料などのお金を借りられるようにします。進学したら、そのお金は返さなくてもよくなります。

子供の意見を取り入れた遊び場づくり

- みなさんの身近な場所に、子供の意見を取り入れてつくる遊び場が増えるように、東京都から区市町村へ補助金を出しています。
- 学べる場所もある、安心できる居場所になる、悩みを相談できる大人がいる、誰でも利用できる、そういう遊び場を優先的に増やしていきます。
- このような遊び場がもっとたくさんできるように、2024年度は補助金を増やすします。

補助金って何?

国や自治体がおくれるお金のことで、決められた目的のために使うことができます。みなさんの身近な地域で必要な施設やサービスは、区市町村が用意することが多いです。東京都は、そのために必要なお金をサポートしています。

学校での教育を充実させ、教育にかかるお金の負担を減らし、勉強がわからないところがある子供への支援にも取り組んでいます。また、学校以外の場所でも、さまざまなことを学んだり、過ごしたりできるようにしていきます。さらに、外国にルーツがある子供の日本語学習などをサポートしています。このように、みんなの声をもとに、子供が安心して学ぶことができるよう取り組んでいます。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業概要 意見反映 意見反映 フィードバック 広報

「遊び場・居場所」についての声

子供たちの遊び場・居場所は生きていくために必要な場所

- ・ プレーパークがないと生きていけない(中学生@プレーパーク)
- ・ 児童館がないと遊びに行く頻度が減る(小学生@学習支援拠点)
- ・ ここがなくなったら居場所がなくなる。高校生になんでも来たい(中学生@子供食堂)
- ・ 大人にプライベートなことも話せる安心な居場所がほしい(小学生@プレーパーク)
- ・ ここに来るのはお金を使わずに交流できるから(中学生@ユースセンター)
- ・ 高校よりここの方が友達ができる。ここに来てよかった(高校生@放課後等デイサービス)

ボール遊び禁止など、公園での制限が多い

- ・ 公園では禁止看板ばかり(小学生@子供食堂)
- ・ 近所の公園がボール禁止になった。遊ぶ場所なのにボールで遊べない(中学生@子供食堂)
- ・ ボール遊び禁止の公園でなくとも、うるさいと怒られる(中学生@子供食堂)
- ・ 禁止が多い。プレーパークみたいな公園が増えてほしい(中学生@児童養護施設)

遊び場や居場所を整備するときは、子供たちの意見を聞いてほしい

- ・ 公園を新しくするとき大人の意見ばかり聞いて、子供の意見がなかった(中学生@プレーパーク)
- ・ どうせ「ダメ」と言われるから、スタッフに言ったことはない(小学生@学習クラブ)
- ・ ここでは子供の意見が取り入れられる。こういう所が広まってほしい(高校生@ユースセンター)

中高生が安心して行ける地域の居場所が少ない

- ・ 小さい子供に占拠されている(中学生@プレーパーク)
- ・ 中高生だけの場がない(高校生@プレーパーク)
- ・ 有料の体育館やファミレスに行っている子もいるが、自分たちはお金がない(中学生@児童館)

今後のアクション

子供の意見を取り入れた遊び場づくり

- ・ みなさんの身近な場所に、子供の意見を取り入れてつくるプレーパークやボール遊び場が増えるように、東京都から区市町村へ補助金[※]を出しています。
- ・ 話せる場所もある。安心できる居場所になる、悩みを相談できる人がいる。誰でも利用できる、そういう遊び場を優先的に増やしていきます。
- ・ このような遊び場がもっとたくさんできるように、2024年度は補助金[※]を増やします。



補助金って何?
国や自治体が貸してくれるお金のことです。決められた目的のために使うことができます。みなさんの身近な地域で必要な施設やサービスは、区市町村が整備することが多いので、東京都は、そのために必要なお金をサポートしています。

遊び場・居場所は、子供が育つためにとても大事なものだということがわかります。そこに行けば誰かがいる安心感があり、いろいろな年齢の子供や、家族・先生以外の大人と一緒に過ごせる大切な場所です。一方で、大人だけで決めたルールに納得がいかない感じの声も挙がっています。

子供の意見を取り入れながら、気軽に行くことができる遊び場や居場所を増やしていきます。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

事業概要 意見反映 意見収集 フィードバック 広報

ヒアリングの感想

参加した子供の声

- 学校のことをこんなに詳しくしゃべったのは今日が初めて(小学生@子供食堂)
- こうした場、話ができる場がたくさんあってほしい(小学生@学童クラブ)
- こういう場がないと言う場所がない(高校生@児童館)
- 自分の心にたまっていることがすぐ言えるから、すごく気持ちいい(小学生@学童クラブ)
- このように色々意見を述べて、それが本当にしかるべきところに届くのが信じられない(中学生@子供劇場)
- 子供たちの話を聞いたところで意味あるんですか?(高校生@ユースセンター)

ヒアリング受け入れ施設の声

- とてもイキイキした表情で帰っていました。日本語で、先生以外の人に意見を伝えるということは、彼らにとってもすごく良い機会になったようです。貴重な機会をありがとうございました(日本語教室)
- 初めての人にあの子は絶対話に行かないだろうと思っていた子が、自分から「行く!」と言い始めて、スタッフ間で驚いていた。最初に並んでいたのがよかったと思う(放課後等デイサービス)
- 高校生の男の子が、「悔本音でしゃべれちゃったー!」と言って帰っていました(ユースセンター)
- 思った以上に長い時間小学生も中学生もお話ししていて、正直驚きました。
- きっと、子供たちが話しやすく、じっくりお話を聞いてくださっていたのだと思います。
- ふだん、私たちではゆっくり聴けていないこともたくさんあったのかと思います(プレー公園)
- 子供たちもともと楽しそうで、聞いてほしい子が多いんだなと感じた(子供食堂)
- ヒアリングの環境設計、子供への問い合わせ方、傾聴の姿勢などから学ぶことが多い時間でした(フリースペース)
- 児童からは「話しやすかった」と感想があった(児童養護施設)

東京都の受け止め

- 自分の意見や悪い話をすがりができ、大人が否定せずに受け止めてくれる経験をしたこと、「話して良かった」という声が挙がっていました。
- 一方、「意見を言っても現状が変わると思えない」という声もありました。
- これからも子供の声を聞き、その声を政策に取り入れていきます。そして、年齢や性別に合わせて、子供が社会に参加できるように取り組んでいきます。

施設ごとの子供の声

児童館

- ここが無かったら家から出なかつたかも。こういう場あつて助かる(高校生)
- ここのお祭り好き。手伝い楽しい。大人に頼られるって嬉しい(高校生)
- 体を動かせる場所を大きくてほしい(高校生)
- さわいでも怒られない部屋をつくってほしい(小学生)

ユースセンター

- 若いスタッフさんが今の世代の遊びに興味を持って話が合う(高校生)
- だべる場所がほしい。飲み物とソファ、荷物置ける、ゴロゴロできる、Wi-Fi、充電があればOK(高校生)
- 「子供なのによく考えてすごいね」は違うと思う。「子供なのに」という時点で対等に話ができるないと感じている(中学生)
- 子供が住みにくい。駅前の開発が進む一方で、ゲームセンターがなくなったり。公園が少ない(中学生)
- 親が疲れてる。見てて大変そう。大人も休みをしっかりとて(高校生)

プレー公園

- ここでは、ふつうの公園ではできないことができる(小学生)
- ここは、みんな仲良し、いるだけで楽しい(小学生)
- プレー公園を知らない人もいるから1人でも多く知ってほしい
- 逃げる場所あると伝えたい(中学生)
- 大人の守りないと子供のやりたいが重なり合うところにルール(禁止)が生まれている。
- 大人の守りたいが強くなってしまう(高校生)

学童クラブ

- 学童のいいところ、勉強がないから楽しい(小学生)
- こういう場所がいっぱいあるといい(小学生)
- 私は来たくないのに来なきやいけない。
- 本当はママのいる家が良い。ここに来ても誰も手してくれない(小学生)
- 学童の子はおやつが出る。ただ遊びに来た子は飲食禁止。みんなで一緒にことをしたい(児童館併設の学童クラブ)(小学生)

子供食堂

- この雰囲気が好き。家には誰もいない。こういう場所は他にない(中学生)
- 主催者が学校や地域つながりを持っていて安心できる。学校の先生に言っても解決しないことを、学校に伝えてくれて助かる(小学生)
- ここは、2週間に1度しかやってないけど、週1くらいはやってほしい。できるなら毎日やってほしい(中学生)
- 1週間はばい事で埋まってしまう。自由時間はほとんどない(小学生)

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

- パンフレットの中で紹介しきれなかった声も、今後の政策を検討するためにしっかり活かしていくことを「おわりに」として記載

事業概要 意見反映 意見バック 広報

子供たちの声と意見の声

子供会場

- ここでは、相談、愚痴をう。スッキリする。ちゃんと聞いてくれるから。
- 学校の友達より話せる(小学生)
- 公園では、ブランコから早くおりてという並んでる大人の圧力を感じるから楽しくない(小学生)
- 日陰がない。暑い。夏は公園が遊べる環境がない(小学生)

児童収容施設

- 帰りたいという意見が通らなかった。親、施設、児相で決めていく。子供の意見は反映されにくい(高校生)
- 友達と遊んでいるときに金銭面に差を感じる(高校生)
- スマホは高校生以上。中学生もスマホほしい(高校生)

日本語教室

- この先生がわかるまで教えてくれる(高校生相当)
- 無料で日本語を学べるといいと思う(高校生相当)
- 日本語が上手じゃないので話すのが恥ずかしい(小学生)
- 今悩んでいること、日本語がわからないので学校でも1人になっている(高校生)
- 学校からの通知を訳している(高校生)

放課後等デイサービス

- 困ったとき、このスタッフとはよく話をするし、相談もある(高校生)
- デイサービスでは子供と先生で遊ぶ。外でも遊ぶ。ボール遊びできる。
- 学校より楽しい(小学生)
- 17時までなのでもっと遅くまで遊がせる場がほしい(高校生)
- (発達障害といわれる子)楽しくておもしろいが多い。大人が教えやすいかどうかで分類しないで(小学生)
- 高校になってから友達いない。どう関わっていいかわからない(高校生)

フリースクール

- 学校が来でここに来た。ここでは自分のベースで勉強できる(小学生)
- 勉強が苦手。ここは理解できるまで1対1で教えてくれる(高校生相当)
- 学校に行くのが当たり前と思われている。行かなきやいけないところに行けないからしんどい(高校生相当)

フリースペース

- ここに来る理由は、自由気ままにいられるから。会員制で「毎日きてね」だったらすぐやめた(中学生)
- 大人とすごせるのがいいところ。大学生が遊んでくれる(小学生)
- 居場所を探してここに来た。市の人があつめてくれた。感謝(高校生)

各種支援団体

- 学校に居場所がなくても、ここが居場所になる。ここなら意見を言える(高校生)
- こんなこと言ったら引かれると思わずに色々いえるのが良い(高校生)
- 近くに遊べる場所がほしい。子供だけで行けるところ(小学生)

施設ごとの子供の声

おわりに

今回のヒアリングでは、学校のこと、家族のこと、友達のこと、いつも過ごしている遊び場や居場所のこと、いろいろな悩みのことなど、みなさんからたくさんの声を聴かせていただきました。

このパンフレットの中で紹介しきれなかつた声も含めて、一つひとつ全ての声に目を通しています。

みなさんからいただいた声や思いは、東京都の中で担当する部門に伝えて、子供のための政策を考えるために、東京をもっとよくするために、活かしていきます。また、東京都だけできることは、区市町村とも協力しながら取り組んでいきます。今後も、いろいろな方法でみんなの声を聴いて、みんなの声を積極的に取り入れていきたいので、これからも、ぜひ意見ください。

事例1：子供の居場所へのアウトリーチ型ヒアリング

オ 広報

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

- ヒアリングに参加した子供たちにフィードバックすることに加えて、どのような意見があり、どう反映されたのか、社会全体に広く発信していくことで、参加者以外の子供に対しても、自らの意見を表明することへのモチベーションを高めるとともに、子供の意見反映に対する社会の気運を高めていくことが重要である。
- そのため、子供の意見を踏まえた都の取組をまとめた「こども未来アクション2024」について、小学生版・中高生版を作成するとともに、今回のヒアリングで寄せられた意見とその反映状況を分かりやすく表現した「子供の居場所で聴いた声」について、子供政策連携室のホームページに掲載するとともに、SNSを活用した広報を実施している。



こども未来
アクション2024
小学生版



こども未来
アクション2024
小学生版・中高生版



SNSでの広報

事例 2：事業の企画段階におけるヒアリング (東京都こども基本条例ハンドブック)

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

< 目次 >

(1) 事例概要	64
(2) 全体スケジュール	67
(3) 子供募集	69
(4) こども編集会議の実践手法	
ア こども編集会議とは	70
～事前準備～	
イ 事前準備	71
～当日～	
ウ 当日の流れ	73
エ 当日の準備・話しやすい雰囲気づくり	74
オ ヒアリング	
① ヒアリング概要	77
② ヒアリング内容	77
③ 実施体制	78
④ ヒアリングの流れ	79
⑤ 異学年交流	81
⑥ 当日アンケート	81
～実施後～	
カ アフターフォロー	82

(5) パイロット調査の実践手法

ア パイロット調査とは	84
イ パイロット調査の実践手法	84

(6) 編集・検討委員会の実践手法

ア 編集・検討委員会とは	86
イ 編集・検討委員会の実践手法	86

(7) 意見反映

ア 年齢・発達段階に応じたハンドブックの制作手順	87
イ 「小学校1～3年生向け」ハンドブック	88
ウ 「小学校4～6年生向け」ハンドブック	96
エ 「中高生向け」ハンドブック	104
オ フィードバック	111
カ 参加者の感想	112

(8) 広報

ア 広報について	113
イ 広報媒体	113
ウ 広報内容	114

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

（1）事例概要

ア 「東京都こども基本条例ハンドブック」とは

- ・東京都こども基本条例（令和3年4月1日施行）では、「子どもの権利条約」の精神にのっとり、子供を権利の主体として尊重し、子供の最善の利益を最優先にするという基本理念を明確化している。
- ・子供が、あらゆる場面で社会の一員として尊重され、健やかに育つ環境を整備するためには、子供をはじめ、広く都民に条例の理念を普及啓発していくことが必要である。
- ・条例の内容を年齢・発達段階に応じて分かりやすく伝えるための普及啓発コンテンツとして、東京都こども基本条例ハンドブック（以下「ハンドブック」という。）を作成した。
- ・作成に当たっては、小学生から高校生までの31名の子供が、「こども編集者」としてワークショップ（こども編集会議）に参加し、企画立案段階から主体的に参画した。

イ 実施期間

- ・令和4年10月～令和5年3月

ウ 実施方法

- ・①意見聴取・②意見反映・③フィードバックを循環させて作成
- ・ハンドブックの内容を子供に白紙から検討してもらう等、子供が主体となる取組を実施



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

工 実施内容

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

① ハンドブック・デジタルブック（日本語版）

- 子供の年齢・発達段階に応じて以下の4区分を作成
 - ①小学校1～3年生向け、②小学校4～6年生向け、③中高生向け、④大人向け
- 大人向けには、乳幼児の声を聴く視点から乳幼児と保護者が一緒に読めるページを作成
- ページ数は、情報を詰め込み過ぎず、読みやすい分量である10ページ以内に
- 音声コードを掲載

② ハンドブック・デジタルブック（多言語版）

- 日本語を母語としない子供も条例の内容を理解できるように、多言語版（英語、中国語、韓国語）を作成
- 多言語版の作成に当たっては、当該言語に精通している子供の権利の研究者が監修

〈ハンドブック・デジタルブック（日本語版）〉



小学校
1～3年生向け



小学校
4～6年生向け



中高生向け



大人向け

〈多言語版〉

英語・中国語・韓国語



音声コード



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

オ 参加者

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

① こども編集者（31名）

- 都内在学又は在住の小学校1～3年生、小学校4～6年生、中高生の各区分10名程度を「こども編集者」として公募
- 31名のこども編集者が、こども編集会議に参加

② 都内の小中高生（約600名）

- 都内の小中高生がパイロット調査（出前授業）に参加

③ 編集・検討委員（7名）

- 学識経験者や効果的な広報に関して知見を持つ有識者が編集・検討委員会に参加

カ 全体コンセプト

- 子供自身が「本音を言えた」、「意見を聞いてもらえた」、「自分が作った」と感じる取組に
- 子供が企画立案段階から参画し、大人は子供の年齢・発達段階に応じた自主的な活動をサポート
- 「手に取りたくなるハンドブックを作りたい」という子供の意見から、内容だけでなくデザインも重視

〈こども編集会議〉



〈パイロット調査〉



〈編集・検討委員会〉



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

(2) 全体スケジュール

ア 子供募集～広報までの流れ

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

1か月

5か月

1か月

3か月

子
供
募
集

全編集・検討委員へ事前ヒアリング

第1回 こども編集会議

編集・検討委員会（2回）

第2回 こども編集会議

編集・検討委員会

パイロット調査

編集・検討委員会（2回）

第3回 こども編集会議

編集・検討委員会

ハンドブック・デジタルブック（日本語版）完成

多言語版 完成

広報

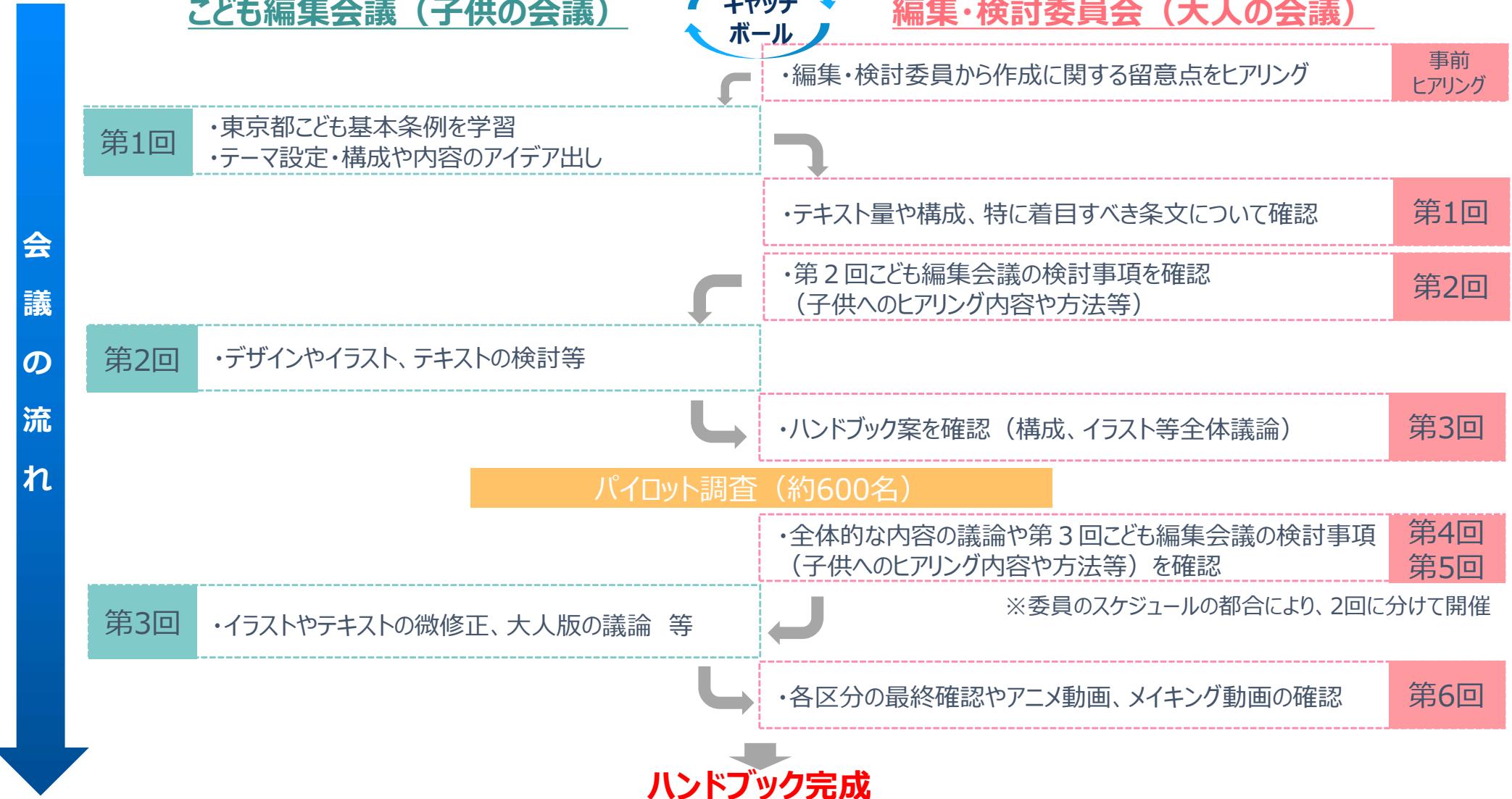
※詳細は次ページ

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

イ こども編集会議、パイロット調査、編集・検討委員会の流れ

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

- こども編集会議やパイロット調査（子供の会議）と編集・検討委員会（大人の会議）が、キャッチボール（対話）しながらハンドブックの内容を練り上げた。



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

（3）子供募集

ア 募集概要

こども編集会議に参加する都内在学又は在住の小学生から高校生相当までの約30名を公募

イ 募集内容

①期間

- ・ こども編集者は、約1.5か月の期間をとって募集

②募集案内

- ・ 参加者の多様性を確保するため、様々な媒体を使って広く都民に周知
- ・ 具体的には、知事定例記者会見、報道発表、広報東京都への記事掲載、子供の使用頻度が高いSNSでの発信、学校・フリースクール・企業・団体等へのチラシ配布などを実施

ウ 選考

- ・ 選考委員会を設置し、編集活動への理解、意欲や経験等を踏まえて、選考基準に基づき選考
- ・ 参加者の多様性に配慮しながら、多様な属性・特性を持つ子供を選定
- ・ 区部、多摩、島しょ地域からの参加など地域バランスを考慮、インターナショナルスクールに通学、海外の生活経験、ハンディキャップなど

エ 同意書

- ・ 採用決定通知とともに、参加者には以下の同意書を取得
個人情報の第三者への提供に関する同意書、著作権に関する同意書等



ポイント

- ✓ 子供が余裕をもって作文（志望理由）を書くことができるよう、夏休み前に募集を開始し、夏休み終了後に締切を設定した。
- ✓ 遠方からの参加者については、経済的な理由が参加の障壁にならないように支援を行った。

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

〈募集チラシ〉



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

(4) こども編集会議の実践手法

ア こども編集会議とは

① 概要

a. 「子供だけのヒミツ会議」をコンセプトに設定

- ・子供の「秘密のワクワク感」を醸成し、子供に楽しんで会議に参加してもらう
- ・子供に「子供“だけ”的会議」であることを強調して伝え、子供から正直な意見を引き出す
- ・子供たちが本音で様々な意見が交換できるように、安心して話せる環境も整備

<実際のナレーション例>

- ・会議前：これから「子供だけの“ヒミツ会議”」を始めます。みんな準備はいいですか？
この会議は「ヒミツ会議」だから、なんでも話してね！
- ・会議後：今日のこの会議はこども編集者だけのヒミツ会議なので、ハンドブックができるまでは、
この会議の内容は、家族にもお友達にもヒミツにしてくださいね。

b.都庁舎で開催

- ・庁内の奥に位置する会議室（個室）を用意し、「ヒミツの部屋」を演出
- ・都庁舎を使用することで、同年代の東京都代表であることを意識してもらった
(また、東京都には他にもたくさんの子供がいること伝え、視野を広げて検討してもらった)

② スケジュール（委託事業者決定～第1回こども編集会議までの流れ）



事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

こどもだけの“ヒミツ会議”

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

～事前準備～

イ 事前準備

「会議運営に関する事項」と「ハンドブックの内容に関する事項」を担当する2つのチームに分かれて準備

① 会議運営に関する事項

項目	内容
会議運営マニュアル作成	<ul style="list-style-type: none"> 会議運営について、関係者間で認識の相違がないようにこども編集会議の運営マニュアルと進行台本を作成
案内状の送付	<ul style="list-style-type: none"> 子供に当日の集合時間等を記載した案内をメールで事前送付 メール文には、事務連絡だけでなく、会議が待ち遠しくなるようなワクワク感を創出する内容も記載 子供に条例の内容や前回のこども編集会議の内容を配布
備品の用意	<ul style="list-style-type: none"> 以下の備品を用意

<当日備品リスト例>

備品内容	数量	備品内容	数量	備品内容	数量
ホワイトボード	6 台	記録用ビデオカメラ	6 台	アルコール消毒	3 個
パーティション	1 式	撮影カメラ	1 台	ゴミ袋	5 枚
テーブル	18 台	PC	16 台	名前用シール	50 枚
椅子	30 脚	模造紙	18 枚	テープ	6 個
Wi-Fi	4 台	付箋	800 枚	はさみ	2 本
ICレコーダー	6 台	ボールペン（黒・赤・青）	50 本	定規	2 本
ワイヤレスマイク	2 本	マジックペン（黒）	2 本	サーキュレーター	6 個
集音マイク	6 台	飲み物	50 本	不織布マスク（白）	1 箱
スピーカーフォン	4 台	お菓子	35 個		
Webカメラ	10 台	アルコール除菌シート	7 個		



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

② ハンドブックの内容に関する事項



項目	内容
ファシリテーター・サポーター研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーターとサポーターに事前研修を実施 〈研修内容〉 ・ ファシリテーター研修では、主に下記6つの事項について研修 <ol style="list-style-type: none"> ① 事業のコンセプト ② 子供の事情や志望動機等の学習 ③ (ハンドブックの内容である) 条例や条文、理念を学習 ④ こども編集会議当日の流れ、資料内容や当日のゴールの共有 ⑤ ファシリテーターの心得を確認 (※ファシリテーターが回答を誘導するのではなく、子供の自発的な意見を引き出すことを徹底) ⑥ オンライン参加者への配慮
会議で使用する資料の用意	<ul style="list-style-type: none"> ・ こども編集会議当日に子供に配布する資料の作成

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

～当日～

ウ 当日の流れ

受付から解散まで3時間程度で実施



内容		詳細	時間
オープン前	全体	<ul style="list-style-type: none"> 子供が前方、保護者が後方へ着席し、開始まで待機 	—
開会式 ※第1回で実施	全体	<ul style="list-style-type: none"> 大ホールで実施 挨拶、事業の趣旨や会議の流れ等の説明に加え、東京都こども基本条例の概要について説明 編集・検討委員から子供たちへ挨拶 	 開会式場 10分
アイスブレイク	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 年齢・発達段階に応じてグループとなり、子供の緊張をほぐすため、自己紹介を中心としたアイスブレイクを実施 子供同士がお互いを知り、仲良くなることで発言しやすい雰囲気を醸成 当日のルールを説明（他の人の意見を否定しない、話している時はさえぎらない等） 	10分
フィードバック ※第2・3回で実施	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングを実施する前に、前回のこども編集会議で出た子供の意見のハンドブックへの反映箇所等について具体的に示しながら子供へフィードバック 	10分
ヒアリング	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 子供が積極的に意見を発言できるようなワクワク楽しい雰囲気を醸成 子供の意見は模造紙と付箋を用いて記録し、参加者の声を可視化 第2回以降はハンドブック案を用いてヒアリング 	70分
発表会	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで話し合ったことを発表 	15分
異学年交流 ※第2回で実施	全体	<ul style="list-style-type: none"> 異なる年齢区分で輪を作り、自分や他のグループのハンドブックを用いて意見交換 大人ではなく自分の年齢に近いお兄さん、お姉さんとグループになり会話をすることで、新しい気づきや意見を引き出す。 	10分
クロージング	グループ	<ul style="list-style-type: none"> こども編集会議に参加した感想や、言い足りなかったことを話せる時間を設ける。 	10分
アンケート	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 当日の会議に関するアンケートを実施 	5分
閉会式 ※第3回で実施	全体	<ul style="list-style-type: none"> こども編集会議の総括 	10分

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

工 当日の準備・話しやすい雰囲気づくり



- ・ 各場面において工夫を凝らして子供が本音を言いやすい環境を整備
- ・ 下記5つの項目を特に重視して整備
 - a. 場：ヒミツ会議 大人の入室制限等を行い、大人の会議への関与は最低限に
 - b. 人：サポーター ファシリテーターに加え子供と年齢が近いサポーターを配置
 - c. 時：会議時間 年齢・発達段階に応じて子供が集中力を維持できる会議時間に設定
 - d. 問：問い合わせ 年齢・発達段階に応じた提示資料や問い合わせを実施
 - e. 団：チーム編成 少人数でグループを構成

<詳細>

内容	詳細	
オープン前	BGM	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場に音楽や映像を流し、リラックスした雰囲気を作る
	スタッフの服装	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供が緊張しないよう、ラフすぎず、華美でない、少しカジュアル程度の私服を着用
	子供の名札	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供が呼んで欲しい名前・ニックネーム（加藤さん、ななさん等）を名札に記載してもらい、当日身に着ける。 ・ 子供が安全・安心に意見を表明できるよう本名が特定されないようにニックネームを活用
	早く到着した参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じグループメンバーで話せるように同年代で座席を配置（第1回） ・ グループにサポーターが入り子供と会話する等してリラックスした雰囲気で待機できるよう工夫
	案内図や装飾等の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場の場所や座る場所等に迷って参加意欲低下を防ぐために案内図や装飾を設置

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

内容	詳細
開会式～発表会	開会式 <ul style="list-style-type: none"> プロのMCのアナウンスにより、ワクワク感を演出 Webカメラを設置し、開会式の様子をオンライン参加者にも共有
	保護者の待機場所を用意 <ul style="list-style-type: none"> 保護者と離れることが苦手な子供には、保護者が待機していることを伝えて安心した気持ちで会議に参加してもらった
	会議メンバー <ul style="list-style-type: none"> 全3回の会議グループは同じメンバーで実施。お互いをよく知ることで緊張せずに本音で会話してもらえるように配慮（第2回以降は第1回よりも議論が活発化） 各区分の中で学年や属性が混在するようにチーム分けを行い、多様な視点で議論が進むように工夫
	少人数グループ <ul style="list-style-type: none"> 全ての参加する子供が意見を言いやすいように、基本的には5人グループを構成
	大人の出入りを制限 <ul style="list-style-type: none"> 大人は最小限の人数で対応。編集・検討委員やスタッフは別室にてオンラインでモニタリング 子供から大人が見えないように、大人の配置を配慮
	参加ルールの設定 <ul style="list-style-type: none"> 会議で子供が嫌な思いをしないように、またスムーズに議論を展開できるようにルールを設定 〈実際のナレーション例〉 今から皆が話す言葉をサポーターのタムタムさんが皆に見えるように書いてくれます。誰かが発言しているときは、最後まで聞くようにしましょう。お友達の発言は否定しないで、誰かが困っているときは、皆で助け合いながら進めていきたいなと思います。準備はいいですか！
	ファシリテート <ul style="list-style-type: none"> 子供たちにプライバシーが守られる心理的な安全性が確保された場であることを伝達 ファシリテーターの留意点は以下のとおり <ul style="list-style-type: none"> - ファシリテーターが誘導するのではなく、子供の自発的な発言を引き出すことを徹底 - ファシリテーターもニックネーム（熊崎さん、ゆーさん等）を使い、参加者と同等の立場である雰囲気を醸成 - 「何かあるかな」、「何を言っても大丈夫」、「なんでも聴くよ」等の声掛けをし、子供に安心感を持ってもらう。 - 発言量が偏らないように議論を展開 - 子供の意見を言い換える際は、子供の思いや伝えたい内容を曲げないように、曖昧な点は子供に聞き返す等確認しながら進める
	お菓子の配布 <ul style="list-style-type: none"> お菓子を用意し、休憩時間に配布。子供同士の交流を活性化
	オンライン参加者への対応 <ul style="list-style-type: none"> オンライン参加者にオンライン参加者の顔や資料が見えるようにカメラの向きや場所に留意 オンライン参加者がグループディスカッションの輪に入れるようにサポート

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）



内容	詳細	
異学年交流	着席場所を配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーブルは使用せずに椅子を丸くして、固くなり過ぎず自由に発言できる雰囲気を醸成
クロージング	丁寧にヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想や言い足りないことを話せる時間を設け、参加者に丁寧に確認
アンケート	QRコードを記載	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当日の会議に関するアンケートを実施。アンケートを回答する時間がないグループは、QRコードがついたアンケートを配布
閉会式	全関係者が参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や編集・検討委員にも参加していただき、子供たちが頑張ったことに対して全体で拍手

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

オ ヒアリング

① ヒアリング概要

- ・全3回のこども編集会議で子供から意見聴取を実施
- ・年齢・発達段階に応じたグループで、ハンドブックのテーマ・内容・構成・デザイン等を議論

② ヒアリング内容

- ・年齢・発達段階に応じたヒアリング内容に

	小学校1～3年生	小学校4～6年生	中高生
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・東京都こども基本条例について ・普段の生活の意見交換 ・レイアウトやデザインイメージ ・グループ発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・東京都こども基本条例について ・自らの経験について意見交換 ・デザインや内容について ・グループ発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・東京都こども基本条例について ・経験について共有 ・イラストレーターを選定 ・構成や内容を検討 ・グループ発表
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブック中間案を確認 ・標語作成 ・各ページの内容について意見交換 ・アバター作成 ・表紙デザイン検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブック中間案を確認 ・条例紹介に載せるページ ・条例クイズ作成 ・悩みの共有（悩みページ作成） ・4コマ漫画作成 ・表紙作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブック中間案を確認 ・経験と悩みを共有し悩みページに反映 ・ラフ画を作成、選択 ・テキスト（文章）やキャッチコピーを検討
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブック最終案を確認 ・アバター確認 ・標語確認 ・もっと良くするための意見交換 ・ハンドブックの大きさや用紙を選択 ・大人版ハンドブックの意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブック最終案を確認 ・表紙選択 ・悩み、4コマ漫画、アイコン内容確認 ・裏表紙確認 ・ハンドブックの大きさや用紙選択 ・大人版ハンドブックの意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブック最終案を確認 ・表紙のコピー・サブタイトル作成 ・全ページの編集、内容検討 ・ハンドブックの大きさや用紙選択 ・大人版ハンドブックの意見交換



ポイント

- ✓ 各会議は内容を詰め過ぎないこと。タイムマネジメントをしっかりする。
- ✓ 議論が活発な時に時間の都合で議論を中断する際は、子供に中断することについて説明して意見を聴いてから判断する。



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

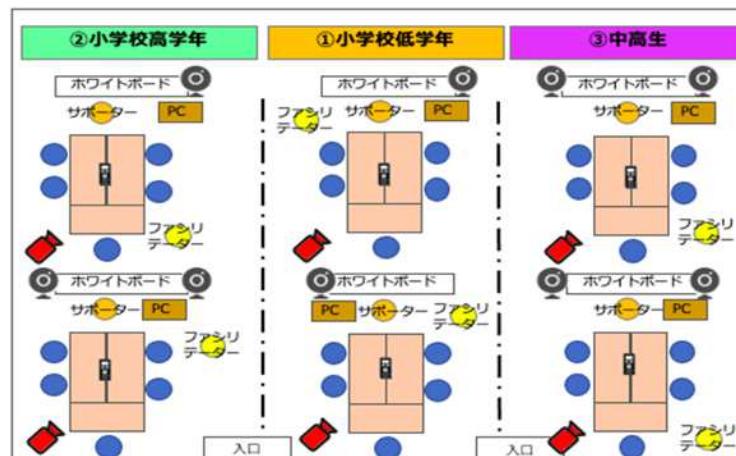
③ 実施体制

- 1グループ当たり2名体制（ファシリテーターとサポーター）を基本とする。記録はICレコーダーを用意
- サポート体制は以下のとおり

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

項目	内容
ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング全体の統括 ヒアリングの進行を中心的に行い、子供の意見を引き出す。 子供と対話する業務に従事した経験を持つ既存の技能者を委託事業者が手配
サポーター	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングを補助する者として進行を補助 子供の年齢に近い大人（大学生等）を配置 子供の意見を大人に伝える「子供の意見の翻訳者」の役割
特別な配慮が必要な子供をケアする補助スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ハンディキャップがある子供に対し、補助者を1名配置
遊軍	<ul style="list-style-type: none"> 当日カミングアウトした参加者等の対応のために遊軍を配置

〈配置図例（第1回こども編集会議）〉



〈ヒアリングの様子〉



子供の意見をサポーターが付箋に記入し、ホワイトボードや模造紙に貼り付け



オンライン参加者も疎外感がないような画面の大きさとファシリテートを実施

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

④ ヒアリングの流れ

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

年齢・発達段階に応じて、会議時間、資料、問い合わせ方法などを工夫

項目	概要	小学校1～3年生	小学校4～6年生	中高生
会議時間	集中力を維持できる時間設定 (学校の授業時間を参考)	1セッション40分以内	1セッション45分程度	1セッション60分以上
進行	ファシリテーターが進行 サポーターが補助	・ファシリテーター2名 ・サポーター1名	・ファシリテーター1名 ・サポーター1名	・ファシリテーター1名 ・サポーター1名
グループ	参加者が無理なく発言できるよ う少人数グループを設定	5人グループ	5人グループ	第1回は5人グループ 第2回・3回は10人グループ
資料	年齢・発達段階に応じてわかり やすい表現に (各学年で学習した漢字を確 認し難い漢字にフリガナを付 ける、やさしい表現にする等)	小学校1年生までの漢字を使用	・小学校4年生までの漢字を使用 ・分かりにくい場合は漢字にフリガナ を付けて対応	高校生はひらがなばかりだと読み にくいため、中学1年生以上で習 う漢字にはフリガナを付けて対応
問い合わせ	年齢・発達段階に応じた問 いかけ	身近な体験の内容から質問する等、 会議を楽しんで取り組めるような問 いかけ	意見を深堀しながら、子供同士 で意見交換できるような問い合わせ	自由な議論を展開できるよう な問い合わせ
議論展開	自分事化できる内容で議論	学校や遊びを中心に議論	いじめや悩みを中心に議論	過去や将来、グローバルな視点か ら議論



ポイント

【全区分共通】

- ✓ 資料と併せて白紙も用意し、いつでも考えを自由に記載できるようにした。
- ✓ 子供の様子を見ながら適宜休憩時間を取り等、時間管理をしっかりした。
- ✓ 各区分の一番年下の学年に合わせて対応した。

【小学校1～3年生区分】

- ✓ 伴走支援型のサポート体制とした。

【中高生区分】

- ✓ 子供が自然に進行をする場面があった。ファシリテーターを入れない時間設定してもよい。
- ✓ 第1回と第2・3回でグループ人数を変更。前半は少人数で実施し、後半はさらに議論に幅を持たせられるように大人数で実施

【小学校4～6年生】

- ✓ 憂みの話題の時は「言いたくないことは言わなくてもいい」ことを伝えた

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

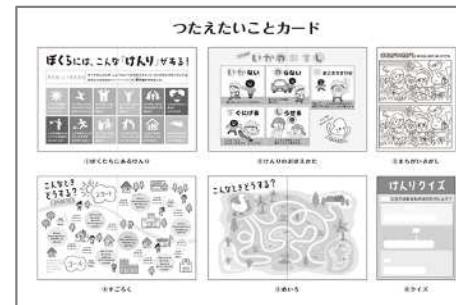
〈参考〉こども編集会議の時間割例（小学生1～3年生）

Time	Lap	①小学校低学年 (1～3年生)
9:00	30	開場
9:30	5	開始の挨拶、全体の流れ説明
9:35	5	自己紹介、ルール説明
9:40	5	ハンドブック最終案の説明
9:45	5	アバター、表紙の確認
9:50	10	1-2ページを読んでみよう
10:00	10	休憩（アバターを描いてもらう）
10:10	15	3-4ページを読んでみよう
10:25	15	5-6ページを読んでみよう（標語） ・他に入れたい言葉はないか確認
10:40	5	予備(時間調整)
10:45	10	休憩（アバター続き）
10:55	15	裏表紙（条例クイズの確認、 問い合わせ窓口の表記の方法確認） ハンドブックに記載する名前の確認
11:10	10	ハンドブックの大きさと用紙を決めよう
11:20	7	大人版ハンドブックを見てみよう！
11:27	3	アンケート ※終わり次第、ホワイエへ移動
11:30	10	有識者会議についての説明/プレゼンテーター選出
11:40	10	休憩
11:50	20	異学年交流
12:10	5	休憩&大会議室へ移動
12:15	15	閉会式
12:30	—	解散

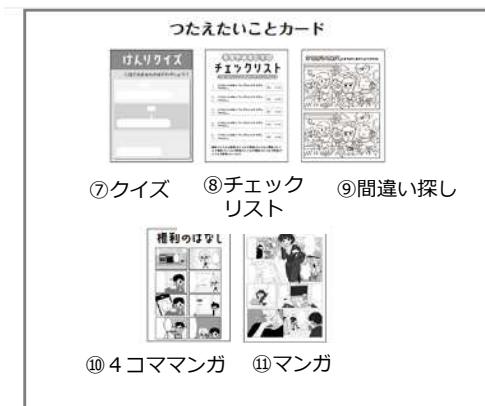
各セッション
40分以内

〈参考〉年齢・発達段階に応じた資料例

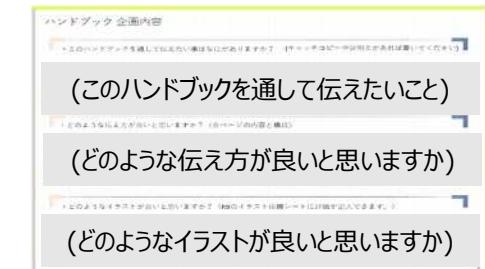
〈小学生1～3年生〉



〈小学生4～6年生〉



〈中高生〉



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

⑤ 異学年交流

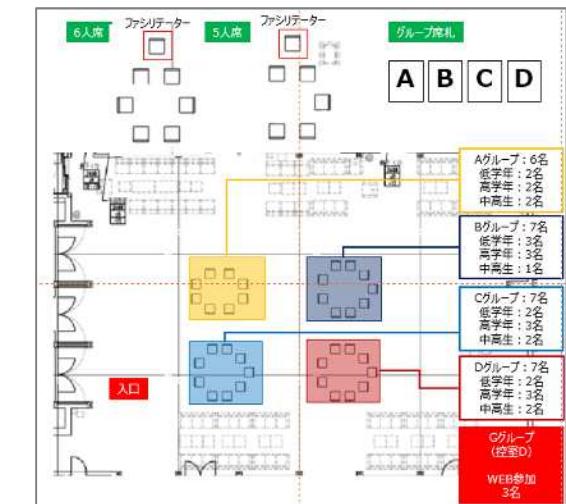
- 第2回こども編集会議では、異なる年齢区分の子供同士で意見交換をする時間を設定
- 各区分の子供がそれぞれ作成しているハンドブックを持ち寄り、自身の区分のハンドブックを異なる年齢区分の子供へ紹介し、子供が新しい気づきを得られる時間とした

⑥ 当日アンケート

- 各回のこども編集会議終了後、アンケートを実施
- 参加者に感想だけでなく、分からなかったことや言えなかつたこと、伝えたかしたことなどを記載してもらった。
- アンケートにQRコードも記載し、オンラインフォームでも感想や意見などを送付できるように対応
- 問合せ先（東京都こども基本条例ハンドブック事務局）を記した資料も併せて配布し、疑問点・質問点をいつでも受け付けた。



〈配置図〉



〈アンケート例〉

こども編集者アンケート

こども編集者のみなさん
さようはこども編集会議おつかれさまでした！
伝えられなかった意見や、感想がありましたら、こちらのアンケートで教えてください。

なまえ：
小学校1～3年生 小学校4～6年生 中学・高校生

1. 案例の説明をきいて感想を教えてください。

2. 楽しかったこと、うれしかったこと、悩んだことがあったら教えてください。

3. 楽しかったこと、不思議なこと、いやな気持ちはなったことがあつたら教えてください。

4. さようのこども編集会議で書いきれなかつたことがもしあれば、書いてください。

東京都こども基本条例ハンドブック事務局担当
担当：○○(○○)○○(○○)
メール：kocommo.info@frontier-dc.co.jp 電話番号：02-6636-9768

WFRアンケート
ご了承

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

～実施後～

力 アフターフォロー

各回のこども編集会議後、以下の事項を実施

① こども編集会議の内容をまとめた資料とハンドブック案を子供の自宅へ送付

- ・子供に自分の意見が反映されていることを時間を置かずに確認してもらうこと、次回のこども編集会議での意見聴取のための事前学習資料とすることなどを目的に、こども編集会議の内容をまとめた資料と子供の意見を反映したハンドブック案をこども編集者の自宅へ送付

② 欠席者の対応

- ・欠席した子供へ当日参加予定だったグループの意見を送付し、Webアンケートを用いて意見をヒアリング

③ ファシリテーターからの共有

- ・ファシリテーターが当日気が付いたことなどを関係者へ共有

④ ファシリテーターへのフィードバック

- ・別室でモニタリングしていた編集・検討委員が、ファシリテーターへ会議の進め方についてフィードバック

⑤ オンライン参加者で、接続不良のため会議の内容が聞き取りにくかった子供への対応

- ・Web会議の機会を設けて、子供が参加予定だったグループの意見を共有しながら、ファシリテーターが意見をヒアリング

⑥ カミングアウトした子供への対応

- ・カミングアウトした内容により、関係する各局と連携しながら対応



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

コラム：休憩時間や保護者お迎え待ち時間の活用

- 休憩時間やお迎えの待ち時間など子供がリラックスしている状態の時に子供たちと会話
- 特に条例の普及啓発方法・日頃情報を得る方法等について、子供から様々な意見を聞くことができた
- 子供的回答をハンドブックの広報活動で活用



〈質問〉

- 普段、何していることが多いの？
- いつも誰とお話することが多いの？
- その話はどうやって知ったの？

〈子供の回答〉

- お友達とお話する。お母さんや先生が教えてくれる
- YouTubeやSNSをよく使うよ。
- 学校のチラシを見て知ったよ。
- 大人になかなか気持ちが伝わらないから、大人に気持ちを伝えてくれるもっと年齢の近い人がいればいいな。
- この気持ちを大人にも伝えたい。

コラム：子供の意見が分かれた時の対応

子供の意見が分かれてハンドブックに取り上げる内容が決まらない場合には、下記3つのステップで案を絞った。

- ① 子供たちによる話し合い
 - 子供の意見を最大限尊重するため、子供たちで案を絞ってもらうことを促した。
- ② 子供たちの投票
 - ①で結論が出ない場合は、ファシリテーターがサポートしながら投票で案を絞った。
- ③ 有識者の見解を聞いた後、再度子供たちへ問い合わせ
 - ②で結論が出ない場合は、有識者の意見を聴いた上で、再度子供たちへ問い合わせて案を絞った。

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

（5）パイロット調査の実践手法

ア パイロット調査とは

- ・幅広い子供の意見を聴くために、こども編集者以外からも意見を聴取
- ・子供が日頃生活する場や活動する場を訪れ、作成途中のハンドブックを使ったパイロット調査を実施（今回は学校での出前授業形式で実施）
- ・ヒアリング対象は、以下の延べ約600名の生徒
小学校低学年3校、小学校高学年2校、中学校・高校6校 計11校

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報



イ パイロット調査の実践手法

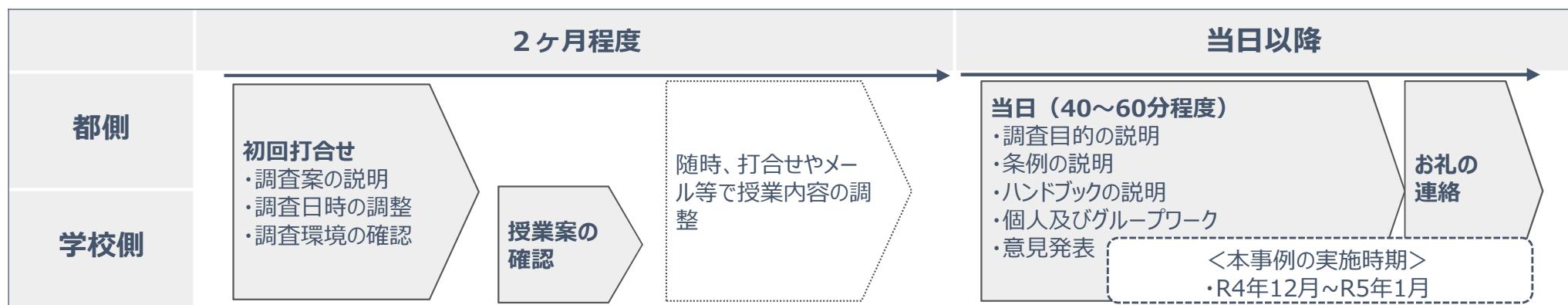
① 事前準備

以下の流れで各施設との調整を実施



ポイント

- ✓ 学校や児童館等の子供が普段生活している場所で意見を聴取することで、本音を引き出しやすくなる。



ポイント

- ✓ 学校側で予定されている行事の周辺時期や夏休み等の長期休みの時期には実施が困難となるため注意
- ✓ 学校へのアポイントメントに際して、まずは各学校を所管している自治体等のしかるべき部署に事前調整を行うこと。
- ✓ 学校によって使用できる機器（黒板、ホワイトボード、デジタル機器等）は異なるため、学校には事前に足を運び、現場の環境を確認しておく。

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）



② 当日

a. 実施体制

- 1クラス当たり2名配置（司会進行役1名、資料配布等サポート役1名）

b. 授業の流れ

開始30分前	到着、校長先生へご挨拶、担任の先生と最終確認
開始5分前	準備開始（プロジェクター投影等）
授業	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、授業趣旨の説明（5分程度） 東京都こども基本条例について説明（5分程度） 個人ワーク、グループワーク（15分～30分程度） <ul style="list-style-type: none"> 【低学年】ハンドブックの良いところ・変えた方がいいところの理由をポストイットに記入して、該当箇所に貼る 【高学年】内容が分かりやすいか等、ワークシートを用いて個人及びグループで議論 【中高生】ハンドブックを読んで条例を理解できるか、構成・内容はわかりやすいか等グループで幅広く議論 発表（10分程度） 本日の感想を発表（5分程度）
授業後	撤収（5分程度）

c. アフターフォロー

- 学校へお礼の電話とメールを送付
- 後日、完成したハンドブックを送付

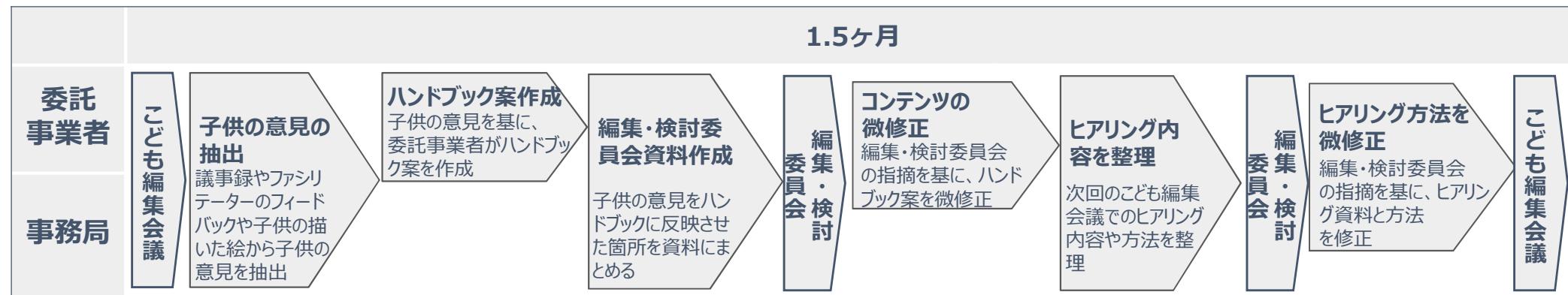
事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

(6) 編集・検討委員会の実践手法

ア 編集・検討委員会とは

- ・東京都こども基本条例に関する有識者、やさしい日本語研究者、映像研究者等、幅広い業界の有識者計7名で構成。全6回実施
 - ・こども編集会議での内容を反映したハンドブックについて、条例の理念の反映の正確さや表現の適切性等の観点からハンドブック案を確認

イ 編集・検討委員会の実践手法（こども編集会議から編集・検討委員会を経て、こども編集会議までの流れ）

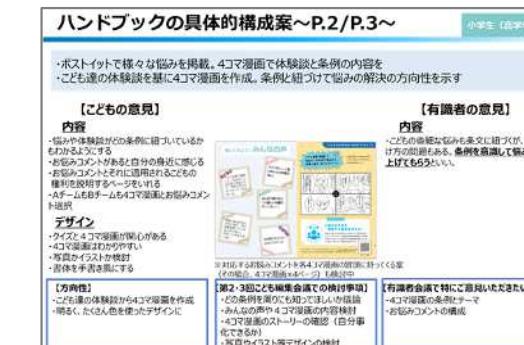


〈編集・検討委員会資料例〉

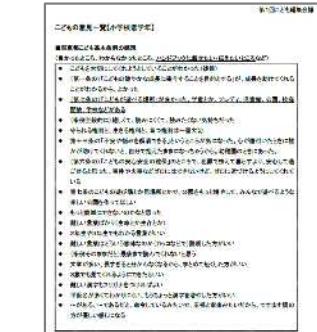
主に①～③の資料を使用して議論を進めた



①子供の意見の反映箇所を示す資料
(こども編集会議前後の対比で示した)



③子供の意見一覧資料



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

(7) 意見反映

ア 年齢・発達段階に応じたハンドブックの制作手順（一覧）

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

Step	項目	小学校1～3年生	小学校4～6年生	中高生
	特徴	・デザインを中心に作成 ・コンテンツ例を提示して議論	・内容を中心に作成 ・コンテンツ例の提示と白紙からの議論の両方	・イラストレーターの選定から子供が関与 ・白紙から議論
1	条例学習	・条例の理解が難しい年齢区分のため、条例を身近な出来事と紐づけて学習	・条例を理解できる年齢区分のため、条例を読み、自身の経験と関連付けて内容を学習	・条例や条例の理念を学習後、関心のある条文を用いて議論
	イラスト レーター選定	—	—	条例のイメージと合致するイラストレーターを投票で選定
2 3 5	内容・ コンテンツ・ 構成・ 内容詳細 を検討	①コンテンツ コンテンツ例からハンドブックで取り上げるコンテンツを選択（例：クイズ、標語）	①内容 ハンドブックで伝えたいことを条例に紐づけて議論。テーマ決定後、内容を議論（例：悩み）	①内容 白紙から内容を検討（例：ハンドブックで伝えたい内容を白紙にラフスケッチ）
		②構成 選択したコンテンツを並び替え（例：最終ページにクイズ）	②コンテンツ コンテンツ例を参考に内容（テーマ）に合ったコンテンツを検討（例：4コマ漫画）	②構成 作成したラフスケッチを基にハンドブックのストーリー（テーマ）を検討
		③内容 条例の内容に合わせてコンテンツの内容を検討（例：クイズの内容を検討）	③構成 コンテンツの並び順を検討（例：3ページ目に4コマ漫画）	③内容詳細 ・子供が登場人物のイメージを作成し、イラストレーターがイラスト化 ・各ページのテキスト（文章）やキャッチコピーを自身の経験を取り入れて作成
		④内容詳細 コンテンツ内容の詳細を検討（例：○×やはりいい・いいえ等クイズの回答方法を検討）	④内容詳細 コンテンツ内容に自らの経験を反映（例：4コマ漫画のストーリーを経験から作成）	
6	デザイン	・子供の作成したアバターが登場する等、子供の描いた絵を取り入れた ・色も子供が決定（例：色鉛筆風） ・イラスト（動物や花を入れたい）や多様性（外国人の子を入れたい）の意見も反映	・子供の意見や描いた絵をイラストレーターがイラスト化したり、子供の意見の要素（太陽、鬼ごっこなどの様子等）をデザインに取り入れた ・漫画のセリフや表情、アイコン等にも意見反映	・子供が白紙に描いたラフスケッチをイラストレーターがイラスト化 ・子供が描いた絵や意見をイラスト化し掲載
	備考	・白紙から具体的な内容を検討することが難しいため、初めにコンテンツ例を選択 ・友達にも楽しく条例を理解してもらうための工夫を考える等、親しみやすい議題で議論	・白紙から具体的な内容を検討することが難しいが、ファシリテートがあれば内容を考えることができるため、初めにテーマや内容を決定 ・取り組みたいことや興味関心が明確なため、本人の意向に配慮して制作を進めた	・白紙からハンドブックの具体的な内容を検討 ・障がいのある子や外国人の子、女子のパンツスタイル制服等の多様性に関する意見を反映 ・中高生が好む画集のような冊子に

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

イ 「小学校1～3年生向け」ハンドブック

事業
概要 意見
聴取 意見
反映 フィード
バック 広報

① 完成図



P.6~7 条例理解



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

② ハンドブックの作成過程（各会議体での実施内容）



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

③ 実施手順

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

小学校1～3年生向け

Step1

条例の学習、経験や思いの共有、テーマの抽出

Step2

コンテンツ検討

Step3

構成検討

Step4

内容検討

Step5

内容詳細検討

Step6

デザイン検討

Step7

用紙、ハンドブックサイズの検討

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

小学校1・2・3年生向け

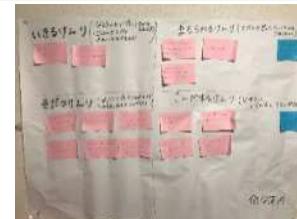
Step1 条例の学習、経験や思いの共有、テーマの抽出

- ・条例の理念等を子供の身近な出来事と紐づけて学習
- ・経験や思いを子供の間で共有
- ・ハンドブックで取り上げたい大切なテーマを話し合いで決定

質問例：最近学校や家でどんなことがあったかな？



〈子供が大切だと思った内容〉
子供の安全安心や子供の遊び場が大事だと思う。



〈子供の経験・思い〉

- ・交通安全の旗を持って立ってくれるのが安心する。
- ・いじめを受けたり学校に行けない子がいる場所が必要。
- ・海外の人と触れ合う機会がある。
- ・公園が少ないので、みんなで遊べる公園を作ってほしい。
- ・成長するまで助けてくれるのがいい。

〈子供が決めた各ページのテーマ〉

- | | |
|--------------|----------|
| 遊べる場所 | 悩み・相談 |
| 成長 | 安心する所がある |
| こんな街になつたらいいな | |

事業概要

意見聴取

意見反映

フィードバック

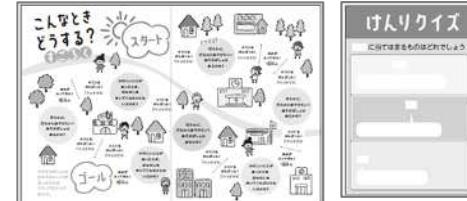
広報

Step2 コンテンツ検討

- ・コンテンツ例（小学校1～3年生向け：楽しみながら基本理念を理解できるゲーム性のあるコンテンツ）を提示
- ・コンテンツ例を基に意見交換し、子供がハンドブックで使用したいコンテンツ例を選択

質問例：友達にも条例を楽しく理解してもらうにはどんな内容がいいかな？

〈コンテンツ例〉



※ゲーム（迷路や間違い探し）、条例説明、クイズ（条例をクイズで説明）等10種類程度のコンテンツ例を提示



〈子供の意見〉

- ・このコンテンツ例がいいと思う！
- ・条例は難しいから、楽しみながら条例を学べるページがあるといい。
- ・「いかのおすし」（防犯の合言葉）はすごく大事だし、覚えやすい。

〈子供が選択したコンテンツ例〉
標語シートを選択

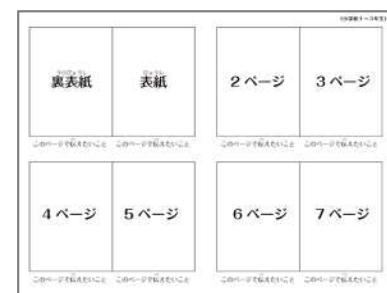


Step3 構成検討

- ・Step2で選択したコンテンツ例を子供が並べ替え

質問例：どんなコンテンツの順番だったら読みやすいかな？

〈ページ構成補助シート〉



〈子供の意見〉

- ・最後に復習できるページがあるといい。（チェックリスト、クイズ）
- ・遊べるページは後半がいいと思う。
- ・相談先を知らないと自分で抱えこんじゅうから最後に入れる。
- ・条例って何か分からない子がいっぱいいるから、「条例とは何かが書いてあるページ」を最初に入れる。

〈子供が話し合いで決めた構成案〉

- ①表紙
- ②条例説明
- ③間違い探し
- ④いかのおすし（標語）
- ⑤クイズ、相談窓口

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

Step4 内容検討

- Step2で選択したシートを基に、各ページに掲載する内容を議論

質問例：ハンドブックを通してどんなことを伝えたらいいかな？



子供の意見>

- ・いかのおすしは合言葉だから、条例のことを**合言葉**みたいにしたら面白い。
 - ・子供が大切だと思う言葉を標語にしたい。
 - ・ピンク、黄色等の安心する色がいい。



小学校 153 年生向け

Step5 内容詳細検討

- 各ページの内容詳細を議論

例：標語ページ

- ・条例に関連する言葉を標語で表現する
ページを作成

- ・標語を構成する単語を子供たちが選択

質問例：どの単語が大切だと思う？お友達に伝えたい単語あるかな？



〈子供の意見

- ・ほかにも言葉を作つてみるとか、
ゲームがあるといい。
 - ・遊べるページがあるといい。
 - ・大切なことが伝わればいいからみんなで仲良くとかが書いてあるとよい。
 - ・大切だと思う言葉を入れたい：
 あ：安心してすごせる
 は：はなしを聞いてもらえる
 ま：守られる 等

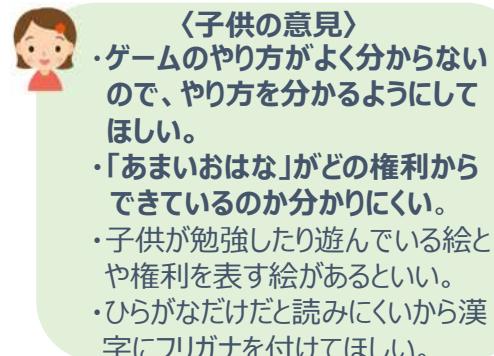


向
け

Step6 デザイン検討

- ・内容やデザイン全般について意見交換と最終確認

質問例：内容はわかりやすいかな？どこを変えたら分かりやすくなるかな？



〈標語ページ〉



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

Step7 用紙・ハンドブックサイズの検討

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

【表紙】 → 子供たちが話し合いで選択

小学生1～3年生

小学生4～6年生

中高生

B5
サイズB5
サイズA5
サイズ

リュックに入るサイズ
クリアファイルに入るくらいがいい



フリガナが見やすいサイズ
持ちやすいサイズ



手に取りやすいサイズ
持ち歩きやすいサイズ

【用紙の種類】 → 子供たちから「用紙も自分たちで決めたい」と意見あり → 子供たちが選択

小学生1～3年生

小学生4～6年生

中高生

上質紙：1票
コート紙：8票

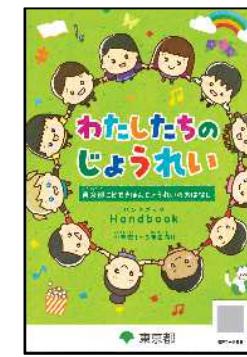
上質紙：11票
コート紙：1票

上質紙：7票
コート紙：2票
マット紙：3票

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

④ 子供の意見を反映した例：表紙

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

Step	子供への質問	子供の意見（こども編集会議・パイロット調査）	意見反映後のハンドブック案
1 小 学 校 1 ～ 3 年 生 向 け	<ul style="list-style-type: none"> ・最近学校で面白いことあったかな？ ・表紙はどのような絵がいいと思う？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・お友達との間で悲しい経験をしたことがあるので、みんなが手をつないで円になっている絵とかみんなが仲良く仲間みたいな絵がいい。 ・公園で楽しく遊んでいる絵（身近な場所の絵） ・虹を描いてみんなで手をつないでいる絵 ・子供のイラスト、公園の絵 ・様子が分かりやすい大きな絵 ・色鉛筆はぬくもりがあって綺麗でいい。手書きの絵 ・安心する色がいい、明るい色 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの意見から3つの案を作つてみたけど、どれがいいかな？ ・選んでくれた案をもっと良くするためにどうしたらいいと思う？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの背景（虹、音符、お花）を付け足してほしい。 ・日本語と英語で書いたらいいと思う。 ・1人1人好きなことがあるから、それぞれが好きなものを入れたほうがいい。 ・色鉛筆で描かれた表紙は雰囲気がいい感じ。 ・温かい。明るい絵がいい。 ・虹が描かれているとぎやかな感じがする。 ・自分の描いた絵を入れたい。（アバターを作成） 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの意見から1つの案にしてみたけど、どうかな？もっと良くする工夫はあるかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の子を入れた方がいい。 ・虹や音符で明るい気持ちになる。 ・英語のHandbookの文字はあった方が良い。 	

完成

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

小学校1～3年生向け

子供の意見を反映した例：コンテンツ

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

【表紙】

子供が描いた絵を基にアバターを作成、表紙やページ内へ掲載



【内容】

子供の言葉を内容にダイレクトに記載

- ・遊べる場所がない
- ・お稽古で忙しくて遊ぶ時間がない
(本当はお友達と遊びたい)



【デザイン】

デザインの詳細部分も子供の意見を反映



【内容】

意見が分かれた時は、子供が折衷案を提案し話し合いや投票で決定

相談窓口を利用した後の感想

話だけでも聞いてほしい
どうしたらいいか
いつしょに
考えてほしい

OR

どんな悩みで電話してよいか

はなせてつきりした
さもがかるくなつた!

相談する時の気持ちも、相談した後の結果
も書いた方がいいから、両方入れたらどう？
まっちーのアイデアいいね！ そうしよう！



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

ウ 「小学校4～6年生向け」ハンドブック

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

① 完成図

小学校4～6年生向け



P.2～3 経験（自分事化できる内容）/条例紹介

This page contains two panels. The left panel, titled 'こども悩みまい？' (What kind of problems do children have?), shows various scenarios where children face challenges like being excluded from play or not being listened to. The right panel, titled 'その悩み、東京都こども基本条例で考えてみよう①' (Let's think about it using the Tokyo Children's Basic Regulation), provides a summary of the regulation's principles.

P.4～5 条例紹介

This page contains two panels. The left panel, titled 'その悩み、東京都こども基本条例で考えてみよう②' (Let's think about it using the Tokyo Children's Basic Regulation), shows children playing and having fun at a park. The right panel, titled 'その悩み、東京都こども基本条例で考えてみよう③' (Let's think about it using the Tokyo Children's Basic Regulation), shows a group of adults discussing children's issues.

P.6～7 条例理解

This page contains two panels. The left panel, titled '東京都こども基本条例を知ろう' (Let's learn about the Tokyo Children's Basic Regulation), provides an overview of the regulation's purpose and principles. The right panel, titled 'スマートフォンで全文を見てみよう！' (Let's look at the full text on a smartphone!), shows a QR code for the digital version of the handbook.

裏表紙 (Back Cover)

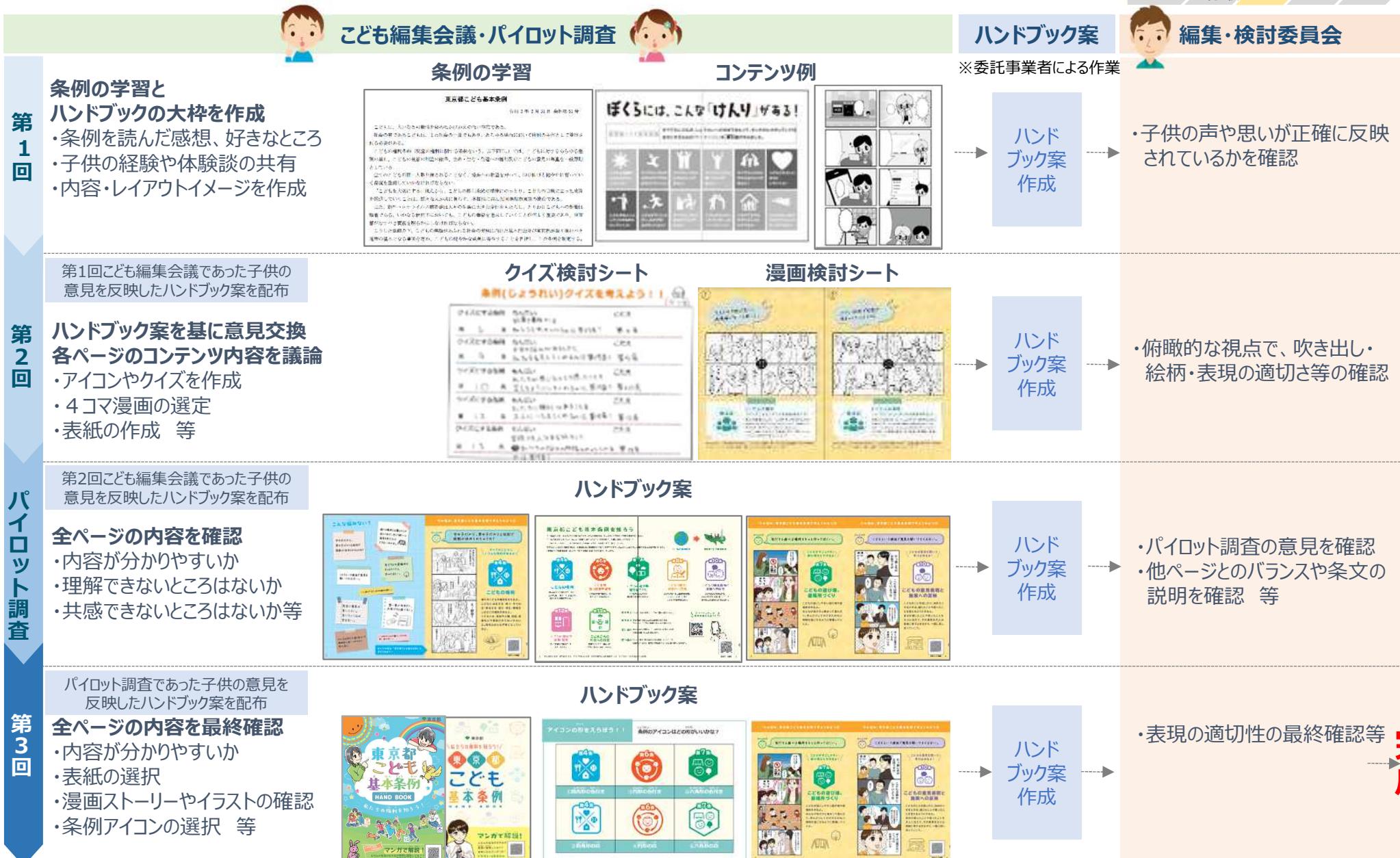
This page is a quiz titled '条例クイズ!' (Quiz on the Regulation). It includes five questions (Q1-Q5) with multiple-choice answers. It also features a QR code for the handbook and contact information for the Tokyo Children's Basic Regulation Center.

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

小学校4～6年生向け

② ハンドブックの作成過程（各会議体での実施内容）

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

③ 実施手順

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

小学校4年生向け

Step1

条例の学習、経験や思いの共有、テーマの抽出

Step2

内容検討

Step3

コンテンツ検討

Step4

構成検討

Step5

内容詳細検討

Step6

デザイン検討

Step7

用紙、ハンドブックサイズの検討

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

小学校4年生向け

Step1 条例の学習、経験や思いの共有、テーマの抽出

- 条例を読んだ率直な感想等を意見交換
- 条例や大切だと思った条文に関連する経験や思いを共有
- ハンドブックで取りあげるテーマを話し合い決定

質問例：条例を読んでどう思った？
友達にも伝えたい条文はあるかな？



〈子供が大切だと思った条文〉
第12条の参加や第7条の遊び場、第13条の悩みが大事



〈子供の意見〉

- ・サッカーチームに入ることも参加する権利かな。
- ・いじめられて不登校になった人がいるって学校で聞いたよ。
- ・いじめは心が傷つくからよくない。
- ・スクールカウンセラーが相談にのってくれるから子供の人生をよりよくしてくれると思う。

事業概要

意見聴取

意見反映
フィードバック

広報

〈各ページのテーマ〉



Step2 内容検討

- ハンドブックで取り上げるテーマについて内容を更に議論
- 参加者の思いや悩みを全員で共有しながら意見交換。発言者が「悩みは自分だけじゃない」と思えるような議論展開に

質問例：ハンドブックを通じて友達にどんなことを伝えたいかな？



〈子供が決めた各ページのテーマ〉
「悩み・相談」と「大人にも言いたいことがある」と「遊び場」の話しが多いね



〈子供の意見〉

- ・子供にも意見があるから大人にも相談したい。
- ・学校の全校集会のやり方が変わったけど、自分達のことだからその理由を先生が教えて欲しかった。
- ・公園でボール遊び禁止になった。

・参加…
子供の意見も聞いてほしい

・悩み…
公園で遊べなくなっちゃった

・相談…
すぐに相談できる場所が必要

Step3 コンテンツ検討

- コンテンツ例（小学校4～6年生向け）を参考に自由に意見交換し、コンテンツを決定

質問例：どのコンテンツを使ったら条例やみんなの思いを伝えやすいかな？



〈コンテンツ例〉



※悩みコメント（子供の悩みをポストイットで掲載）、4コマ漫画、条例説明（ピクトグラムで条例を説明）等10種類程度のコンテンツ案を提示



〈子供の意見〉

- ・4コマ漫画やピクトグラムで僕たちにある権利を説明したらいい。
- ・お悩みコメントは身近に感じる。
- ・クイズでお友達のお悩みコメントやそれに適用される子供の権利を説明
- ・条例の詳細はこちらへ、みたいにQRコードを入れたらいいと思う。
- ・困った時の相談先は絶対必要

〈話し合いで決めたコンテンツ例〉



4コマ漫画

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

Step4 構成検討

- 補助シートを参考にページ構成を検討。コンテンツの並び順を決定
- 各ページ内の配置も議論

質問例：どの並び順だと、友達にも分かりやすいかな？



〈ページ構成補助シート〉



アハンドブックの
アイディアをだして
みよう！



〈子供の意見〉

- 条例を分かりやすく説明するページは真ん中に入れたらいい。
- 漫画、お悩みコメントを入れる。
- 権利クイズ、問合せ窓口は裏表紙にあるといい。

事業
概要意見
聴取意見
反映フィード
バック

広報

〈子供達が決めた構成案〉

- 表紙
- お悩みコメント
- 4コマ漫画
- ピクトグラム
- クイズ、相談窓口

Step5 内容詳細検討

- 各ページの内容詳細を議論

例：4コマ漫画

①ストーリーの検討・作成

- テーマに沿って子供の身近な体験や思いを話し合い、その内容を基にイラストレーターがストーリー化

質問例：ストーリーに入れたい内容はあるかな？みんなの思いや経験を教えてね



〈子供が選択したコンテンツ案〉



4コマ漫画



〈子供の意見〉

- 子供という理由で意見を聞いてもらえない。子供にも意見があるのに。
- 子供にも関係があるので大人だけで決めてしまう。
- お母さんに思いを伝えようとすると、子供は静かにしてなさいって言われて相談できない。

〈4コマ漫画案〉子供の悩みや経験を基にイラストレーターが複数ストーリー案を作成



②ストーリーの選択

- ①でイラストレーターが作成した複数のストーリー案を子供に提示

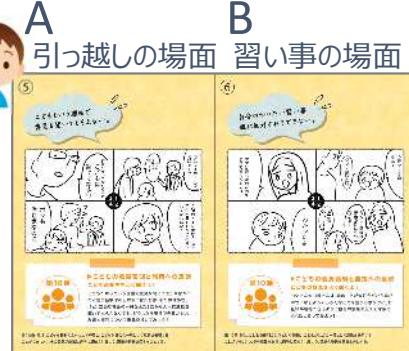
- ストーリー案の中から子供が話し合いで、ハンドブックに取り上げたいストーリーを選択

- 子供が選択した漫画をイラストレーターが着色

質問例：各テーマに2つのストーリーがあるよ。どちらが共感できるかな？



〈ストーリー案〉



〈子供の意見〉

- Aがいいと思う。引っ越しはあまりないけど、「こどもは黙ってなさい」ってよくお母さんによく言われるから、自分のことのよう。
- Aがいいと思う。お父さんの表情が好き。
- Bは習い事の話だけど、習い事よりAの方が共感できる。

〈4コマ漫画案〉子供がストーリーを選択 イラストレーターが清書・着色



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

小学校4～6年生向け

Step6 デザイン検討

<イラストレーターが清書した4コマ漫画>

- 着色したページのデザインを子供たちが自由に議論（背景、キャラクターの表情、セリフの内容等）



質問例：どこを改善したらもっと分かりやすくなると思う？



〈子供の意見〉

- 1コマ：「はいはい！」の周りに、ピカピカを付けた方がいいと思う。
- 2コマ：意味がよく分からない。
- 3コマ：お父さんの吹き出しが変
- 4コマ：子供の声に耳を傾けてくれたから、子供が嬉しそうにした方がいい。
- 右側のコメントは、「これから変えていくって感じがするから、「言えるよ」にした方がいい。

事業
概要意見
聴取意見
反映フィード
バック

広報

〈4コマ漫画ページ完成〉



Step7 用紙、ハンドブックサイズの検討（※P.93掲載）

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

小学校4年生向け

④ 子供の意見を反映した例：構成・内容

【内容・構成】

子供が提案した構成や内容をダイレクトに反映

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

構成

子供が構成を検討：

「○○な悩み
→こんな解決が考えられるよ」
にしたらいいと思う。



内容

子供が内容を検討：

- ・遊具がたくさんある楽しい公園を作ってほしい
- ・公園でボール遊びが禁止になって、今までドッジボールとかしてたのに、できなくなった
- ・児童館等は低学年が優先で、高学年が入りづらい雰囲気がある。



条例に基づく
子供の悩みを記載

子供の経験に基づいて漫画
のエピソードを作成し、条例
の理念を分かりやすく説明

子供の経験：
家の近くに、おばあちゃんとかも一緒にみんなで集まる広場があって、みんないっぱい来ている。そういう世代に関係なくみんなで遊べる広場があるといいな

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

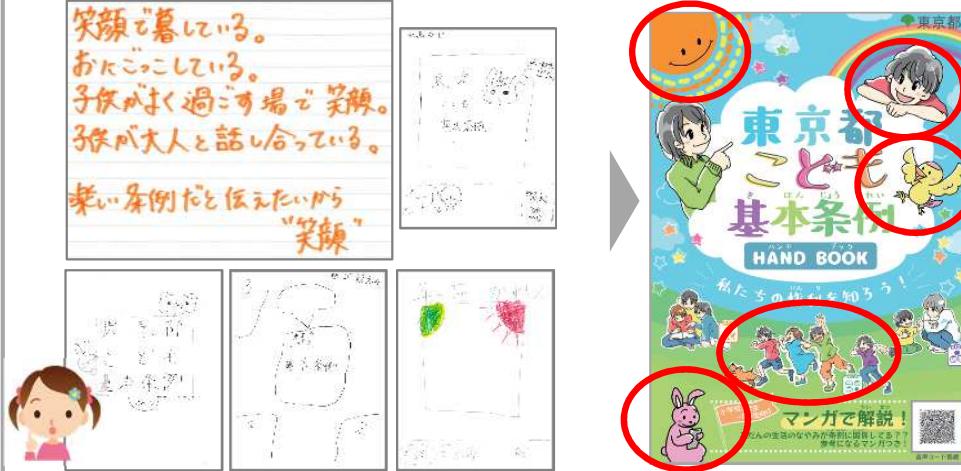
子供の意見を反映した例：表紙・コンテンツ・裏表紙

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

小学校4年生向け

【表紙】

子供たちの意見と絵をイラストレーターが組み合わせて作成。背伸びした
い年齢層に合わせて大人びた色合いに



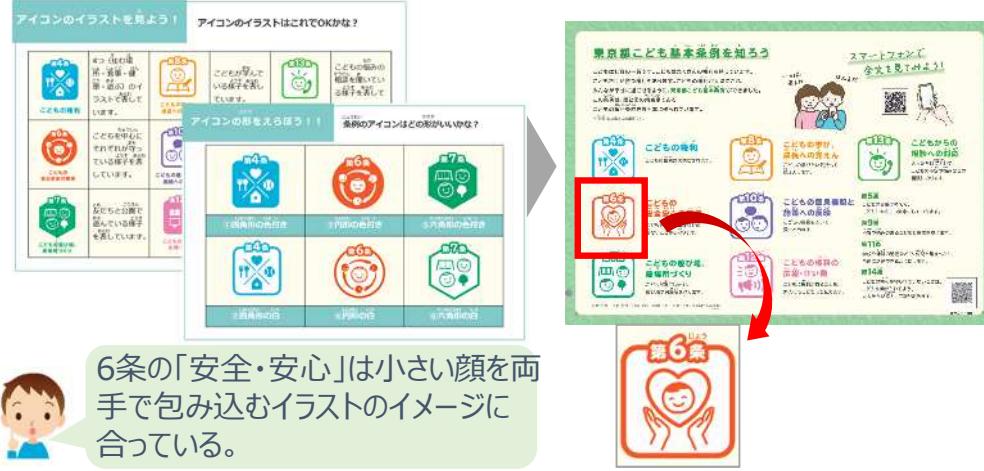
【条例クイズ】

子供がクイズを作成し、裏表紙に掲載



【アイコン】

子供の意見を基にイラストレーターがアイコン案を複数作成し、形状やアイ
コンデザイン等を子供が選択

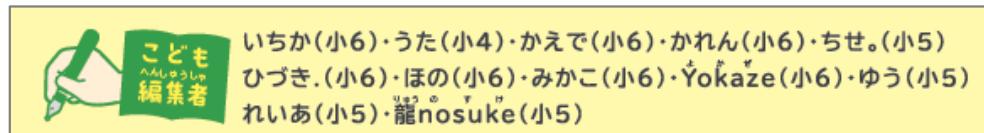


【裏表紙】

子供の提案から、裏表紙にこども編集者の名前を記載



このハンドブックを誰が作ったか入れた方がいい。
同年代が作ったんだな、と思ったら、読みたくなる。



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

工 「中高生向け」ハンドブック

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

① 完成図

表紙

P.2~3 思い（自分事化できる内容）

P.4~5 条例紹介

中高生向け

P.6~7 条例理解

裏表紙

あなたは一人じゃない、
声を聞かせて。

「誰に相談したらいいか分からない」「誰かに相談するって何を意味がある
うん?」とか思っていない。

だけど、一人だけで生きてる人はいない。

気になること、心配したこと、どんなことでもあなたの声を聞かせてほしい。
だからうるさい人でも大丈夫だ。

話してみなよ～東京子供ネット～ 0120-874-374
平日9時～21時(月～金)・土曜9時～17時(土)・日曜12時29日から1月3日休む

相談ほっとLINE@東京

下記の4つの相談窓口に直接お問い合わせください。

お問い合わせは相談窓口が担当するもので、くわしくはQ&Aをご確認ください。
※セーフティネット・スル・ヒューリズム相談
※相談窓口カントーストのヒューリズム相談
※相談窓口カントーストのヒューリズム相談

相談内容は、あなたに許可なく第三者に伝わってしまうことはありません。

専用料金はかかりません。

このQRコードは専用コード
「Uni-voice」が
各ページに印字されています。
専用コードを読み取ると、専用アドレスまで
お問い合わせいただけます。
読み取ると、専用アドレスが
表示されます。

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

② ハンドブックの作成過程（各会議体での実施内容）

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

パイロット調査

第1回

第2回

中高生向け

第3回

条例の学習

自身の経験や思いを共有

- ・体験や経験を条例に紐づけて議論
- ・内容検討シートを参考にハンドブックに取り上げたい内容や構成を白紙から議論

第1回こども編集会議であった子供の意見を反映したハンドブック案を配布

内容詳細を議論

- ・各ページの内容検討
- ・イラストの選択
- ・キャッチコピー考案
- ・テキスト（文章）の作成 等

第2回こども編集会議であった子供の意見を反映したハンドブック案を配布

全ページの内容を確認

- ・内容が分かりやすいか
- ・自分事化できるか
- ・読みたくなる内容か
- ・レイアウトは見やすいか 等

パイロット調査であった子供の意見を反映したハンドブック案を配布

全ページの内容を最終確認

- ・タイトル、サブタイトルを再検討
- ・キャッチコピー・テキスト（文章）を議論、選択
- ・レイアウトの再確認 等



こども編集会議・パイロット調査

内容検討

ハンドブック案画面内
このハンドブックを通して伝えたいこと
どのような伝え方が良いと思いますか
どのようなイラストが良いと思いますか

構成検討



ハンドブック案



編集・検討委員会

※委託事業者による作業

ハンドブック案作成

- ・ハンドブック案に子供の声が反映されているか確認
- ・子供の経験と条例が結びついているか確認



ハンドブック案

ハンドブック案作成

- ・全体の内容量は十分か
- ・条例と各ページのテーマは一致しているかの確認
- ・俯瞰的な視点で吹き出し・絵柄の表現の適切性等の確認
- ・子供の思いが反映されているか確認



ハンドブック案

ハンドブック案作成

- ・パイロット調査の意見を確認
- ・こども編集者とパイロット調査で参加した子供の意見の相違点の解消について議論 等



ハンドブック案

ハンドブック案作成

- ・子供の思いや意見は正確に反映されているか確認
- ・構成や表現の最終確認 等

完成

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

③ 実施手順

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

中
高
生
向
け

Step1

条例の学習、経験や思いの共有、テーマの抽出

Step2

ハンドブックのイラストを描くイラストレーターの選定

Step3

内容検討

Step4

構成検討

Step5

内容詳細検討

Step6

デザイン詳細検討

Step7

用紙、ハンドブックサイズの検討

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

中
高
生
向
け

Step1 条例の学習、経験や思いの共有、テーマの抽出

- 条例・条文を学習後、条例について率直な感想や自分の考えを共有



〈子供が大切だと思った条例の内容、子供の経験・思い〉

- 子供の権利：
虐待や家庭環境の差などで、夢を諦めてしまう子もいる。
- 子供の学び、成長への支援：
学校に通い、教育を受ける権利が守られている。
- 子供の遊び場、居場所：
不登校の子が学校に来なくても家で勉強できる等、子供の居場所づくりが大事だと思う。
- 基本理念：
子供たちの現在だけでなく、未来についても語られて、とても興味深い。

事業
概要意見
聴取意見
反映フィード
バック

広報

〈テーマの方向性を決定〉

方向性の決定

- 将来や大人になることへの不安、言葉にできない悩みを同年代で共有できるハンドブックに
- 多様性の理解を中心にストーリー展開

Step2 ハンドブックのイラストを描くイラストレーターの選定

- イラストレーター候補者を提示：
子供にSNSやCMで話題のイラストレーター数名を候補として提示
- イラストレーターの検討：
「条例の理念を同年代の友達に伝達するために、どのイラストレーターが最適か」を検討
- イラストレーター決定：
作風の異なる3名のイラストレーター候補者から子供の投票により、イラストレーターを決定



A氏のイラストが条例の理念を伝えるには最適！



B 氏

3 票

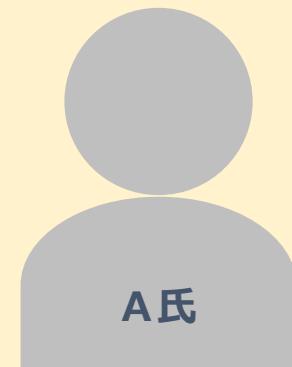
(中学生2名/高校生1名)

C 氏

3 票

(中学生1名/高校生2名)

〈イラストレーター選定〉



A 氏

子供たちがA氏のイラストを選択

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

Step3 内容検討

①内容（テーマ）検討

「ハンドブックを通して何を伝えたいのか」、「自分の経験や思いをどのようにまとめるか」、「同世代が共感する内容とは」、「ハンドブックへどのように記載するか」等を議論



<内容検討シート>

〈子供の意見〉

- ・同年代の悩みに共感してほしい
- ・多様性を表現したい
- ・学級での活動に参加する権利は大切
- ・条例のまとめページがあるとよい
- ・守られていないと感じた人へのフォロー、相談窓口が必要 等



〈各ページのテーマ案〉

- ・私の居場所
- ・自分事化できる悩み
- ・身近な学校生活
- ・共感を誘うエピソード
- ・明るい未来
- ・子供たちが世界に行動していく
- ・子供が主体
- ・相談することに対して背中を押す 等

中高生向け

②内容（表現）検討

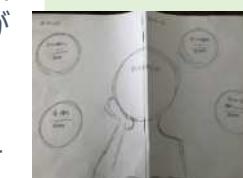
a.またはb.の方法で検討

- a.子供が白紙に、ハンドブックで取り上げたい内容とデザイン案をラフスケッチし、イラストレーターがラフスケッチを基にデザイン
- b.子供が「どのようなイラストが良いか」や「伝えたい思い」を共有し、イラストレーターがイラスト化



a.〈子供の意見〉

子供によるラフスケッチ



イラストレーターがラフスケッチを基にデザイン



b.〈子供の意見〉

- ・みんなで話し合う機会がほしい
- ・価値観を共有する場所がほしい
- ・子供も自分の意志を持って、何かを発言していく場が大事
- ・相談して決めていく場がほしい
- ・友人がたくさんいて守られている
- ・みんなで楽しそうにしている

〈意見反映後のハンドブック案〉



子供の意見
↓
イラスト化

Step4 構成検討

①構成検討

- ・Step3で作成した素材を見ながら、構成を検討

②各ページのレイアウトの検討

- ・子供が同世代に読みたいと思ってもらえるページ構成を補助シートを使いながら議論



<レイアウトシート>



〈子供の意見〉

- ・条文を全部載せるというより、自分にとって大事なところをまとめた文章が載っているとよい。
- ・構図が単調なので、でこぼこの構図にした方が読みたくなる



〈意見反映後のハンドブック案〉



でこぼこの構図

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

中高生向け

Step5 内容詳細検討

①テキスト（文章）を検討・作成

子供が各ページのテーマに沿って自分の経験を共有し、経験に基づいた文章をイラストレーターと協力して作成

②キャッチコピーの検討・決定

「イラストは何となくペラペラめくってしまうから、ここだけは分かってほしい部分を1文入れられるといい」との意見から、キャッチコピーを入れることに決定

子供がイラストレーターと協力して、各ページのテーマに沿ったキャッチコピー案を複数作成し、子供たちによる話し合いや投票で決定

ページテーマ：私達の居場所



〈子供の意見〉

テキスト（文章）：

- 新しい遊び場を探そうと思うと今の遊び場はどこも有料
- 有料の遊び場はカラオケ、ファミレスという感じ
- 公園は小さい子供たちがいるため気を遣うので遠慮してしまう。



キャッチコピー：

キャッチコピー方向性：

- ポジティブなキャッチコピーがいい。

キャッチコピー案：

- あなたは居場所を求めることができる
- 心地よく過ごせる場所って自分達で作るしかないの？ 等

〈意見反映後のテキスト（文章）〉
私たちが集まっていると、邪魔に見られている気がする。

公園も集まりにくいし、図書館の座席なども争奪戦だ。

カラオケやファミレスもあるけど、居場所は買わないといけないの？ 友達と自由に話したり1人で過ごせる場所がないってかなり窮屈。

居場所も私の成長に必要なものだから。

〈意見反映後のキャッチコピー〉

心地よく過ごせる場を自分たちで作っていこう。

〈意見反映後のハンドブック案〉



- 障がいがある子
- 多様性
- 学校でない場所等を反映

（完成）



着色

Step6 デザイン詳細検討

①各ページのデザイン詳細を決定

子供がデザイン詳細について議論

②キャラクター作成

子供が「イラストシート」を使って、登場人物のイメージを検討し、イラストレーターが子供の意見を基にイラストを作成（年齢・性別・服装・髪色・季節・ポーズ等）

<デザイン案>



〈子供の意見〉

- 障がいがある友人もいる。
- 海外の人とも価値観を共有できる場があるといい=多様性
- 学校でいじめられている子供にとって、安心して過ごせる場所があるといい。



〈子供の意見〉

- 色々な国の服装やその国を連想させる色
- 色々な国の髪型や髪色
- その国を連想させる表情やポーズ

Step7 用紙、ハンドブックサイズの検討（※P.93掲載）

事業概要

意見聴取

意見反映

フィードバック

広報

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

④ 子供の意見を反映した例：デザイン・キャッチコピー

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

中高生向け

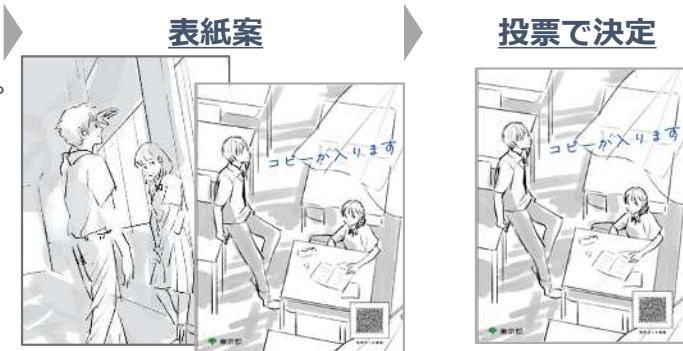
【絵】子供の意見を基に作成 → 投票で決定

子供の意見を基に
イラストレーターが表紙のデザイン案を複数作成し、子供たちの投票で決定

〈表紙〉

子供の意見

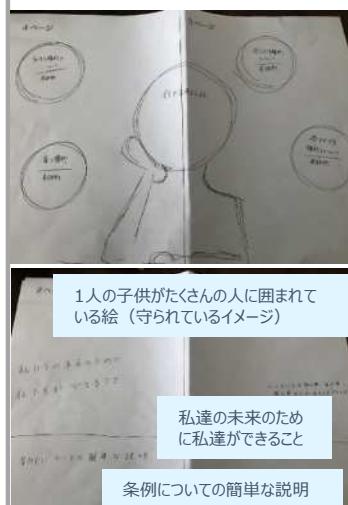
- ・未来を見ている感じがいい。
- ・夕焼けのイメージ
- ・エモい感じがいい。



【デザイン】

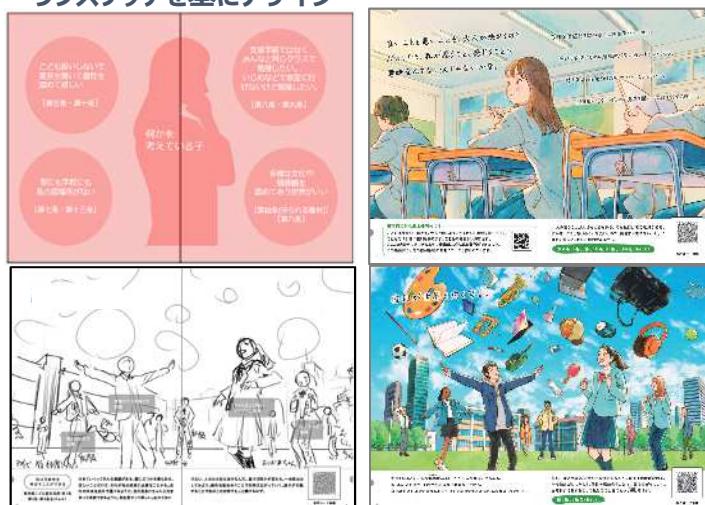
子供の意見

子供たちが
真っ白の紙にラフスケッチ



デザイン案

イラストレーターが
ラフスケッチを基にデザイン



完成

【キャッチコピー】子供が提案→話し合い・投票で決定

子供の意見を基にイラストレーターがキャッチコピー案を複数作成し、
子供たちの投票で決定

〈表紙〉

子供の意見

- ・子供のこれからの未来を作っていくから「未来を作っていく」ってしてもいい。
- ・今困っている子もいると思う。
- ・権利も人権と同様に日々努力してそれを保つイメージ
- ・サブタイトルに「東京都こども基本条例」の文字を入れた方がよい。



投票で決定

→権利でつくる
今と未来

東京都こども基本条例
を知ろう

P.2

子供の意見

- ・ひとりひとりが大切な存在
- ・こどもも社会の一員として
1人1人がちゃんと自分の意志を持って、何かを発言していく意見を述べる場が大事



キャッチコピー案

- ・自分をもっと愛せる世界に
- ・わたしたちって何だろう。
- ・私の「声」で変えられることがある。

投票で決定

→私の「声」で
変えられることがある

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

オ フィードバック

- 子供へのフィードバックは、以下2つのタイミングで実施

① 各回のこども編集会議の前半にフィードバック

- 前回のワークショップの際に子供たちから出た意見について、ハンドブック案に「反映できた意見」と「反映できなかった意見」を該当箇所を示しながら、分かりやすく子供たちへフィードバック
- フィードバックに対する子供の意見も聴取し、その後の対話のきっかけとした



✓ 丁寧にフィードバックすることで、子供が1つでも多く意見を出そうとする雰囲気が醸成された

〈フィードバック方法〉

こども編集会議当日スケジュール例	ルール説明
	表紙の確認
	1~2 ページを読んでみよう
	休憩
	3~4 ページを読んでみよう
	5~6 ページを読んでみよう
	休憩
	裏表紙（条例クイズ・問い合わせ窓口確認）
	大きさ用紙
	大人版ハンドブックを見てみよう
	休憩
	異学年交流会
	休憩
	閉会式



前半に該当箇所を示しながら具体的にフィードバック

反映できた意見（一部抜粋）

- ・フリガナの文字サイズを大きくして。
- ・絵がたくさんあって、どの条例とどのイラストがセットなのか分からぬ。
- ・まちがいさがし風が良い。

反映できなかった意見（一部抜粋）

- ・窓からこどもが顔を出している絵。

〈フィードバックに対する子供との対話例（イメージ）〉



ファシリテーター

みんなが「間違探し風のページがあるといい」って教えてくれたので「条例を探すページ」を入れました。また「フリガナのサイズを大きくして」という意見もあったので大きくしています。ただ、ごめんなさいね「窓からこどもが顔を出している絵」はスペースが無かったので、入れられませんでした。



こども
編集者

間違探し風っていうのは、僕が言った！フリガナの文字が大きくて見やすくなっただ！そしたら吹き出しも大きした方がいいと思う！



ファシリテーター

そうね。西山さん、ありがとう。その他にももっとこうしてくれたら私はもっと好きになるとか、アイデアとかがあれば教えてくださいね。



こども
編集者

このページに「条例を探すんだよ」って説明を書いた方がいいと思う。



ファシリテーター

やすこさん、そうですね。意見ありがとうございます。

- ハンドブック完成後、ハンドブックをこども編集者に送付

事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

力 参加者の感想

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

小学校 1～3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちだけで誰にも知られていないので、本音で答えられた。 ・私たち子供が思う本当のことを言えた。 ・たくさん意見を言って良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの意見がハンドブックに反映されるのがとても嬉しい。 ・みんなで意見を出し合うのが楽しかった。 ・色々な意見があって、自分の意見も聞いてくれた
小学校 4～6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と違ったみんなの意見を聞いて勉強になった。 ・みんなと意見を言い合えて、意見が伝えられて楽しかった。 ・ハンドブックを作ることで、読者が少しでも変わってくれたらいいと思う。 	<p>【ハンドブックのPRしたい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えた漫画を入れたので、難しい条例の内容を楽しくお友達等の読者に伝えられるハンドブックになった
中高生	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が決めたことをやるだけだったけど、この場が設けられてよかった。 ・自分の意志を持って何かを発言していく、意見を述べる場が大事だとわかった。 ・サポーターの人が意見を引き出してくれるスタイルがよかったです。 ・他学年と交流できたのが新鮮だった。 ・自分の意見が反映されているのを実感できるのがよかったです。 	<p>【ハンドブックのPRしたい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が子供のためにハンドブックを作成したところ。 ・イラストや文章を1から自分で作成して、内容を（中高生でもわかるように）簡単に表現できた。 ・同世代が作成したので、同世代が読んでとても分かりやすい点

コラム：こども編集者応募者への対応

こども編集者に応募してくれたが、編集活動に携わることができなかつた子供たちには、改めて意見を聞く機会を設け、条例の普及啓発や子供政策に意見を反映



東京都

募集意見①：

東京都こども基本条例のことを、都内の子供たちに知つてもらうためには、どんなことをすると良いと思いますか？

子供の意見：

授業で東京都こども基本条例のチラシや新聞を作つて配り、宣伝する。



東京都

募集意見②：

東京都こども基本条例第5条に「こどもにやさしい東京の実現」について書かれています。「こどもにやさしい東京」とは、あなたにとって、どんなまちだと思いますか？

子供の意見：

助け合い、支え合えるまち、東京。

会議で
子供の声を
発表



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

（8）広報

ア 広報について

- 「条例を広げる方法」や「日頃情報を得る方法」について子供から意見聴取
- 子供の意見を踏まえ、ハンドブックの広報活動を実施



① 動画の放映・Web媒体で発信

② 学校等を通じた広報

③ こども未来会議（大人会議）で発表

イ 広報媒体

ハンドブック以外にも、以下の媒体を作成し広報活動で活用

① ハンドブック紹介アニメ動画

- 条例の普及啓発に資するアニメ動画（30秒版・6秒版）を制作し、YouTubeの広告等で活用
- 東京都こども基本条例の周知、ハンドブックの周知、デジタルブックへの誘導を目的として内容を構成

② バナー

- 東京都こども基本条例の周知、ハンドブックの周知、デジタルブックへの誘導を目的として作成

③ ポスター

- ハンドブック4区分に関するポスターを作成

〈アニメ動画〉



事例2：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例ハンドブック）

ウ 広報内容

- ① 全世代へ幅広くアプローチするため、デジタルサイネージでの動画放映やWeb媒体で広告を配信
 - ・渋谷スクランブル交差点・新宿西口地下広場・都庁舎のデジタルサイネージ 〈デジタルサイネージ〉
Google・Yahoo・YouTube等でのWeb配信、SNSで情報を発信、民間企業が配布するチラシへ掲載 などを実施
- ② 約7,000か所の子供関連施設へ配布
 - ・学校、ひとり親家庭支援センター、フリースクール、児童相談所、学童クラブ、子供家庭支援センター、図書館、児童館、子育てひろば、ファミリーサポートセンター など
- ③ こども未来会議でのプレゼンテーションや大人との対話の機会を創出
 - ・こども未来会議において、子供自身が取り組んできた活動内容等を発表。自らの知見を広げ、自信につなげる機会を創出
 - ・発表者7名は互選により決定。発表検討会を3回+リハーサルの発表練習を経て、知事や委員の前でこども編集者がプレゼンテーションを実施

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報



〈バナー〉



〈SNS等〉



事例 3：事業の企画段階におけるヒアリング (東京都こども基本条例解説動画)

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

< 目次 >

(1) 事例概要	118
(2) こども制作会議の実践手法	
～事前準備～	
ア 実施までの流れ	119
イ 子供の募集に係る留意点	120
～当日～	
ウ 実施体制	121
エ こども制作会議の流れ	121
① 成長・発達段階に応じた質問方法	122
② ファシリテート方法	123
③ 意見を言いやすい環境づくり	125
④ 子供への安全配慮	126
(3) パイロット調査の実践方法	
～事前準備～	
ア 実施までの流れ	128

～当日～

【保育園】

イ 実施体制	129
ウ 授業の流れ	129
エ 感想のヒアリング	130
【児童館】	
オ 実施体制	131
カ 授業の流れ	131
キ 感想のヒアリング	132

(4) フィードバック及び広報

～動画完成後～

ア 動画に子供の意見が反映された項目	133
イ 子供へのフィードバック方法	135
ウ 条例解説動画の広報	136
エ 感謝状の贈呈・子供政策連携室ホームページ掲載	137

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

（1）事例概要「東京都こども基本条例プロジェクト」とは



ア 目的

- すべての子供が誰一人取り残されることなく、条例の理念等を理解できるよう、条例の解説動画を子供たちと一緒に制作
- 子供の主体的な参加を促進するため、動画制作の企画段階から子供の意見を聴取し、内容に反映
- 以下のとおり4区分の動画を作成し、近い世代の子供からヒアリングを実施

① 幼児区分（2本）	: 小学生
② 小学生区分(低・高学年向け各1本)	: 小学生
③ 中高生区分(中・高校生向け各1本)	: 中高生
④ 大人区分（2本）	: 中高生



イ 動画制作の過程における子供たちの主体的参画

- 子供の公募：条例を分かりやすく伝えるストーリーやイラストを、大人のクリエイターと一緒に考えてくれる「こどもクリエイター」を公募
- こども制作会議：「こどもクリエイター」が大人のクリエイターや、条例に関する有識者等と意見交換しながら、解説動画のストーリーや、登場するキャラクターを考案
- パイロット調査：こども制作会議を通じて制作した解説動画のストーリーが、各動画がターゲットとする区分の子供に対して、分かりやすいか、見たいと思う内容か等についてヒアリング

ウ 参加者及びパイロット調査先

- こども制作会議：「こどもクリエイター」として活動した小中高生合わせて21名の子供たち
- パイロット調査：都内の保育園・児童館等、合わせて4か所約160名に実施

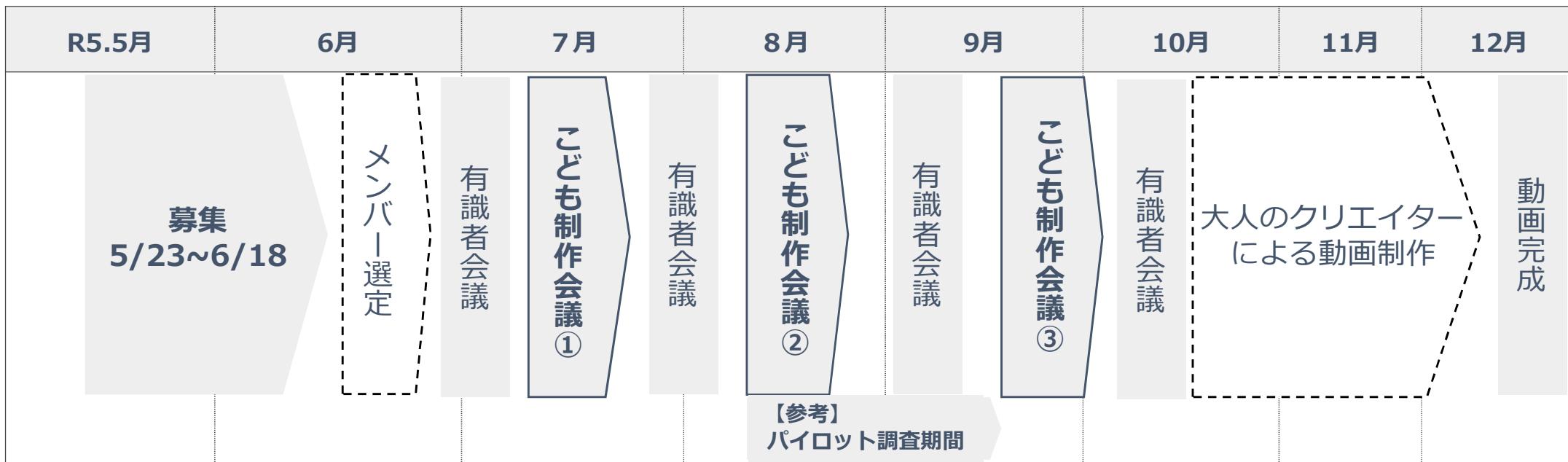
事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

（2）こども制作会議の実践手法

～事前準備～

ア 実施までの流れ

- 以下の流れで計3回の「こども制作会議」を実施。合間に有識者会議を実施し、子供たちから出た意見について専門的立場からフィードバックを行う。
- こども制作会議は、対面及びオンラインでのハイブリッド形式で開催



- ポイント
- ✓ こどもクリエイター・大人のクリエイター・有識者の三者が対話を繰り返しながら、子供たちの意見が動画のストーリーに適切に反映されるよう進めていく。
 - ✓ 同世代の子供が面白いと思ってもらえるよう、完成前の動画でパイロット調査を実施し、出た意見をストーリーに反映させていく。

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

イ 子供の募集に係る留意点

- 約1か月の募集期間を確保し、様々な媒体を使って広く都民に周知
- 応募多数の場合は選考を要するため、自己PRを400文字以内で記入してもらった。

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報



ポイント

- 参加する子供の「多様性・代表性」が確保されるよう意識

多様性：報道発表、子供の使用頻度が高いSNSでの発信、学校・フリースクール等へのチラシ配布、子供向けイベントにおけるチラシ配布など、受け手の属性・特性を念頭に置いて多面的に広報

代表性：特定の学年・性別に偏らないよう配慮

- 配慮してほしい事項の記入欄を設け、運営に当たって適切な対応ができるよう、あらかじめ準備

募集チラシ（表）



募集チラシ（裏）



事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

～当日～

ウ 実施体制

- ・対面及びオンラインのハイブリット形式で開催
- ・年齢・発達段階に応じて、1グループ5名程度の4グループに分けてグループワーク・ヒアリングを実施

エ こども制作会議の流れ

- ・各回は以下の流れで進行(一部発達段階や進歩に合わせて異なる内容を実施)
- ・全体を通して90分～120分程度実施



進行

第1回	第2回	第3回
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・企画の趣旨説明 ・アイスブレイク 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク ・有識者会議内容のフィードバック ・幼児区分ストーリーヒアリング(小) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク ・有識者会議内容のフィードバック ・ストーリー案の感想ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都こども基本条例について 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場キャラクター検討(小) ・日常の悩みや困り事等をヒアリング(中高) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の共有 ・ストーリー細部検討
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク（意見聴き取りと動画ストーリー作り） 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクター作画(小) ・動画ストーリーの中身検討(中高) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナレーション撮り ・キャラクター描画（小）
<ul style="list-style-type: none"> ・本日話し合ったことの発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のまとめ、次回までの宿題発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のまとめ、全3回の感想発表

(小) は小学生のみ、(中高) は中高生のみ実施

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

① 成長・発達段階に応じた質問方法



	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生
A.資料	<ul style="list-style-type: none"> 質問文やストーリー原稿にはフリガナを振った。 イラスト中心のストーリー案を提示し、イメージしやすくした。 		<ul style="list-style-type: none"> 文章中心のストーリー案を作成し、読み物として内容を理解してもらうようにした。 	
B.動画内容	<ul style="list-style-type: none"> 子供に身近な家庭での話を題材にし、イメージしやすくした。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の生活圏内で身近な公園での話を題材にし、イメージしやすくした。(低学年よりも発展的なテーマ) 	<ul style="list-style-type: none"> 普段親や先生に言いにくいことや、自分の生活の中での悩み等について話してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> 偏見や多様性等、社会的な問題となっているテーマに対して、自分はどう解決していくかを主体的に話してもらった。
C.聴き方	<ul style="list-style-type: none"> テーマを投げかけ、順番を決めずに自由に発言してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを投げかけ、一人ずつ順番に意見を言ってもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを投げかけ、意見を思いついた子供から主体的に発言してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを投げかけ、子供同士で意見交換しながら発言してもらった。
D.動画制作への参加	<ul style="list-style-type: none"> 登場するキャラクターを考えてもらうとともに、子供自身にイラストを描いてもらった。 ナレーションは大人が読み方を助言しつつ、子供自身の声を取り入れた。 		<ul style="list-style-type: none"> 子供の意見を聴いてセリフを微修正しながら、ナレーションを収録した。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の意見を聴いてセリフを修正し、感情の込め方や話し方の抑揚も相談しながら、ナレーションを収録した。



- ポイント
- ✓ 小学生に渡す資料はフリガナを振る。文字だけにならないように、イラストや写真主体の資料とする。
 - ✓ 中高生は身近な話題だけでなく、社会問題等を題材に議論できると満足度が高い。
 - ✓ 小学生は学年が低いほど、活発に意見を出してくれる。学年が上がるにつれて、発言量が減ってくるので、適宜発問しながら意見を引き出していく必要がある。

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

② ファシリテート方法

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

項目	小学生担当クリエイター	中高生担当クリエイター
話し方	<ul style="list-style-type: none"> 堅い印象を与えないように柔らかい口調。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供のエピソードにツッコミながら。
雰囲気づくり	<ul style="list-style-type: none"> 子供目線で対等な聞き役に徹する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の幼少期の話等、自己開示をしながら子供たちに話を振る。自分の経験と現代の子供を取り巻く環境とのギャップをすり合わせることを意識。
ヒアリング形式	<ul style="list-style-type: none"> 子供から出てきたストーリーを掘り下げていく聞き方。自由な発言を歓迎しつつ、発問をして深掘りしていく手法を取っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生は問題意識を持っている子供が多いので、自由に発言してもらい、クリエイターは適宜相槌を打ちながら聞き役に徹していた。
動画制作	<ul style="list-style-type: none"> 動画に登場するイラストを描いてもらい、小学生が取り組みやすい内容で子供の意見を取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが描いた似顔絵や自画像を登場させたり、ナレーション収録を行って中高生の参加意欲を高めた。
共通	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ有識者から条例についての研修を受け、理解を深めた上で子供とグループワークを行った。 特に今回のような専門的な内容を扱う場合は、ファシリテーター側の理解が不可欠。事前準備を徹底してもらう。テーブルに有識者も入り、専門的立場から助言できる環境が理想。 子供の意見に対してクリエイターが触発されるようなプロセスで動画を作るのが理想。（有識者意見） 	



- ✓ 両者楽しい雰囲気づくりに努めつつ、子供が発言しやすいように聞き役に徹していた。
- ✓ 世代に合わせて子供の参画方法を変えていた。小学生はイラスト作成を中心に、中高生はナレーション収録を中心に行い、子供たちの意見を取り入れていた。
- ✓ ファシリテーターには、子供との対話に長け、対等な目線で接し、場を盛り上げる声掛けができるスキルが求められる。

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

【参考】子供の意見反映例（小学生の例）

事業
概要

意見
聴取

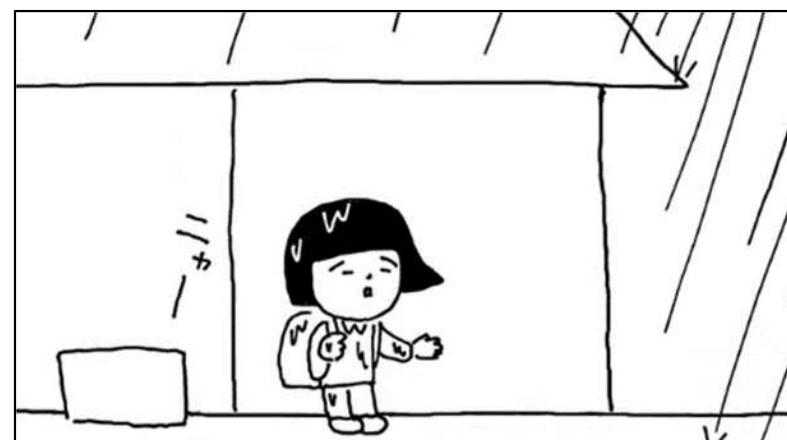
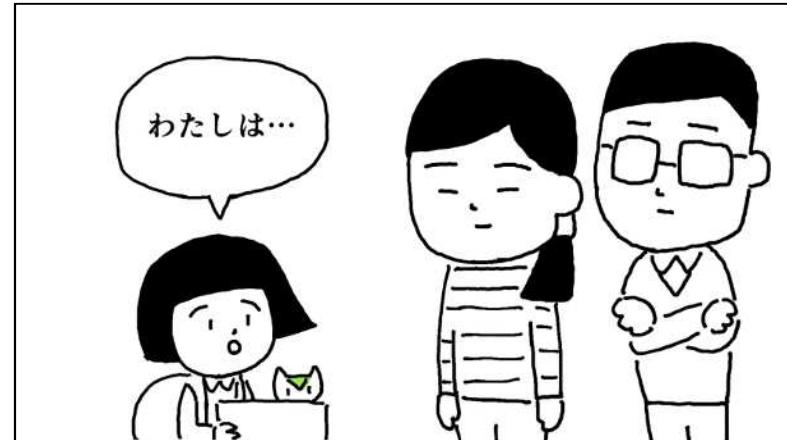
意見
反映

フィード
バック

広報



【実際のシーン】



事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

③ 意見を言いやすい環境づくり

会場関係

- ・会場の装飾を行い、**楽しい雰囲気**づくりを心掛けた。
- ・グループワークは**少人数**で実施（5～6名程度）。

保護者関係

- ・冒頭説明では**保護者も参加して**もらい、イベントの趣旨や意義を伝えたことで、納得いだき進めることができた。
- ・子供たちから意見を聴く時は**保護者には別室に待機**いただき、気にせず発言できるようにした。

進め方

・冒頭にアイスブレイクを取り入れ、発言しやすい雰囲気をつくる。

・初回に東京都こども基本条例について学ぶ機会を設け、理解を深めた上でグループワークを行った。

・子供に身近な場所(公園や学校等)をテーマに設定。

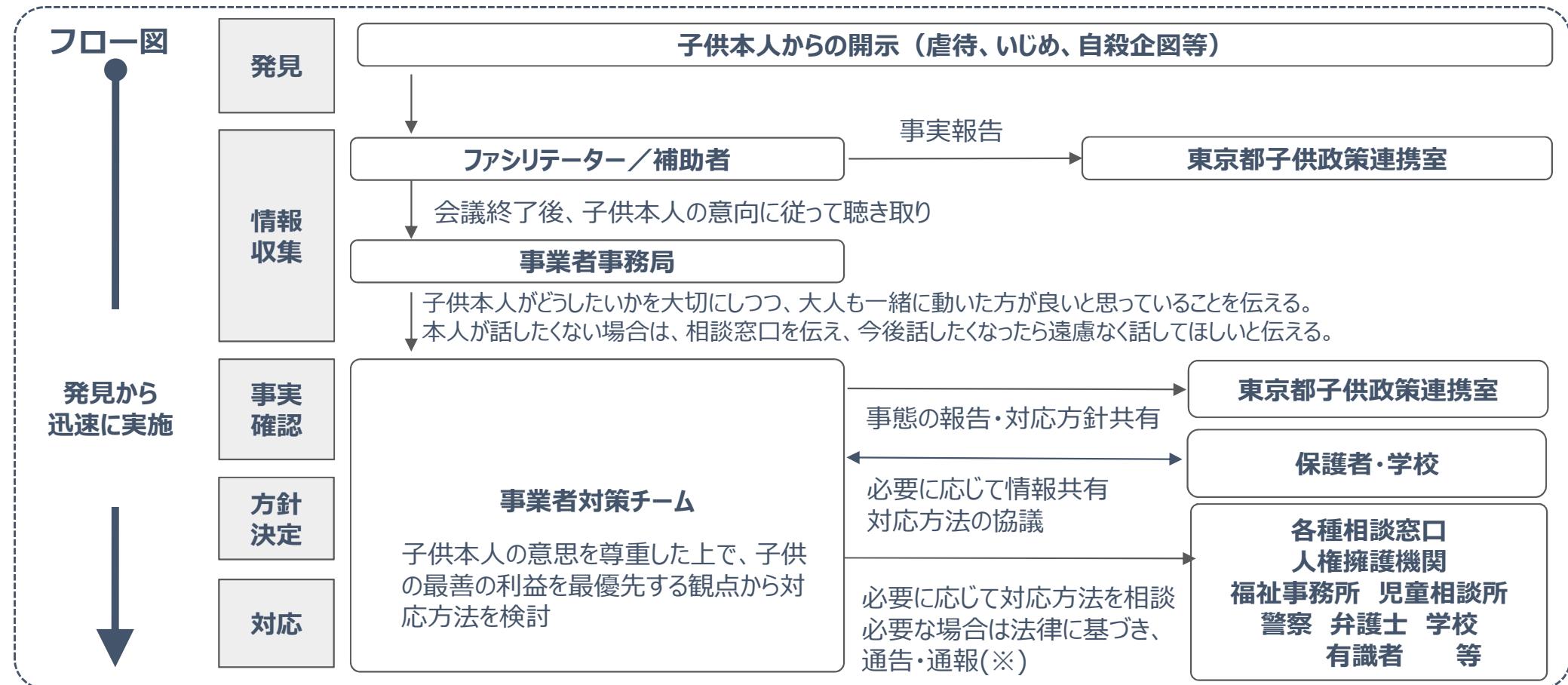
・大人が「何でも意見を言っていいんだよ」と何度も念押しで伝えた。

・子供がすぐに発言できなくて、焦らせずにじつと待って傾聴する。

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

④ 子供への安全配慮

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報



- ✓ 子供が参加する取組について、心理的安全性の確保が大切で国際的にも重要視されている。※有識者発言
- ✓ 夏の開催時は飲料を用意し、熱中症対策を行った。
- ✓ 体調不良者発生時は、都責任者及び事業者責任者に速やかに一報を入れるよう、対応を徹底。

(※) 児童虐待防止法第6条に基づく通告、いじめ防止対策推進法第23条に基づく通報

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

【参考】会場写真

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報



- ・会場の装飾を行い、**楽しい雰囲気づくり**を心掛けた。

壁はプロジェクトの垂れ幕で装飾
リラックスして話を聞ける雰囲気づくり



- ・グループワークは**少人数**で実施（5～6名程度）

資料は最低限のものに留める
熱中症対策の飲料を用意

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

(3) パイロット調査の実践手法

～事前準備～

ア 実施までの流れ

- 以下の流れで各施設との調整を実施



- ポイント
- 区市町村立施設のアポイントメントでは、まず各施設を所管している自治体等の部署に事前確認を行う必要がある。
 - 施設によって使用できる機器（音響機器、プロジェクター等）が異なるため、事前に足を運び現場の環境を確認する。
 - 調査をして終了ではなく、自分たちの意見がどのように反映されたかを、子供たちに適切にフィードバックする。

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

～当日～

事業
概要

意見
聴取

意見
反映

フィード
バック

広報

【保育園】

イ 実施体制

- ・ 1クラス2名配置を基本
- ・ 司会進行役として1名、記録等サポート役を1名

ウ 授業の流れ

15:30

到着、準備開始（プロジェクター投影・園長と聞き取り内容の最終確認等）

16:00～16:30

- ・挨拶、調査の趣旨説明（5分程度）
- ・幼児区分動画のストーリー説明（5分程度）
- ・感想聞き取り（10分程度）
- ・キャラクター案意見聴取（5分程度）
- ・大人から伝えたいこと、本日の調査のまとめ（5分程度）

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

工 感想のヒアリング

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報



【参考】 当日使用資料



- ✓ 動画や紙芝居形式でストーリーを説明し、子供の興味関心を保つよう、努めた。
- ✓ 「面白かった？」と聞くと「面白かった！」と返ってくることがほとんどであったため、個別のシーンを挙げつつ、どこが面白かったかを具体的に聞くよう、努めた。
- ✓ 登場する上記の「？」のキャラクターは何がいいかと一緒に考えてもらう質問をすると、子供たちに参加しているという意識を持ってもらい、率直な意見を多数引き出すことができた。

おとなが みんなに つたえたい 3つの「たいせつ」

1、みんなが いちばん たいせつ



2、みんなが えがおに なることが たいせつ



3、みんなの おもったことが たいせつ



【参考】 当日使用資料

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

【児童館】

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

オ 実施体制

- ・ 1クラス2名配置を基本
- ・ 司会進行役として1名、記録等サポート役を1名

カ 授業の流れ**15:30**

到着、準備開始（プロジェクター投影・施設長と聞き取り内容の最終確認等）

16:00～16:30

- ・挨拶、調査の趣旨説明（5分程度）
- ・小学校低学年区分動画のストーリー説明（10分程度）
- ・ワークシート記入、聞き取り（10分程度）
- ・大人から伝えたいこと、本日の調査のまとめ（5分程度）

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

キ 感想のヒアリング

- 児童には、班ごとにワークシートを配付し、動画の内容について良かったところや改善点を記入してもらう。
- 班の中の上級生にリーダー役を担ってもらい、下級生の意見を引き出してもらう。
- 調査者はグループワークの様子を見守りながら、適宜質問対応する。
ワークシートに目を通し、**どんな意見でも褒める**。⇒意見表明のハードルが下がり、議論が活発化する。
- 手が止まってしまうグループは、具体的なシーンの感想等を口頭で聞き、出た意見をテーマに掘り下げてもらう。**どんな意見でも表明して良い**、という雰囲気づくりに努める。

● 実際に得られた意見例

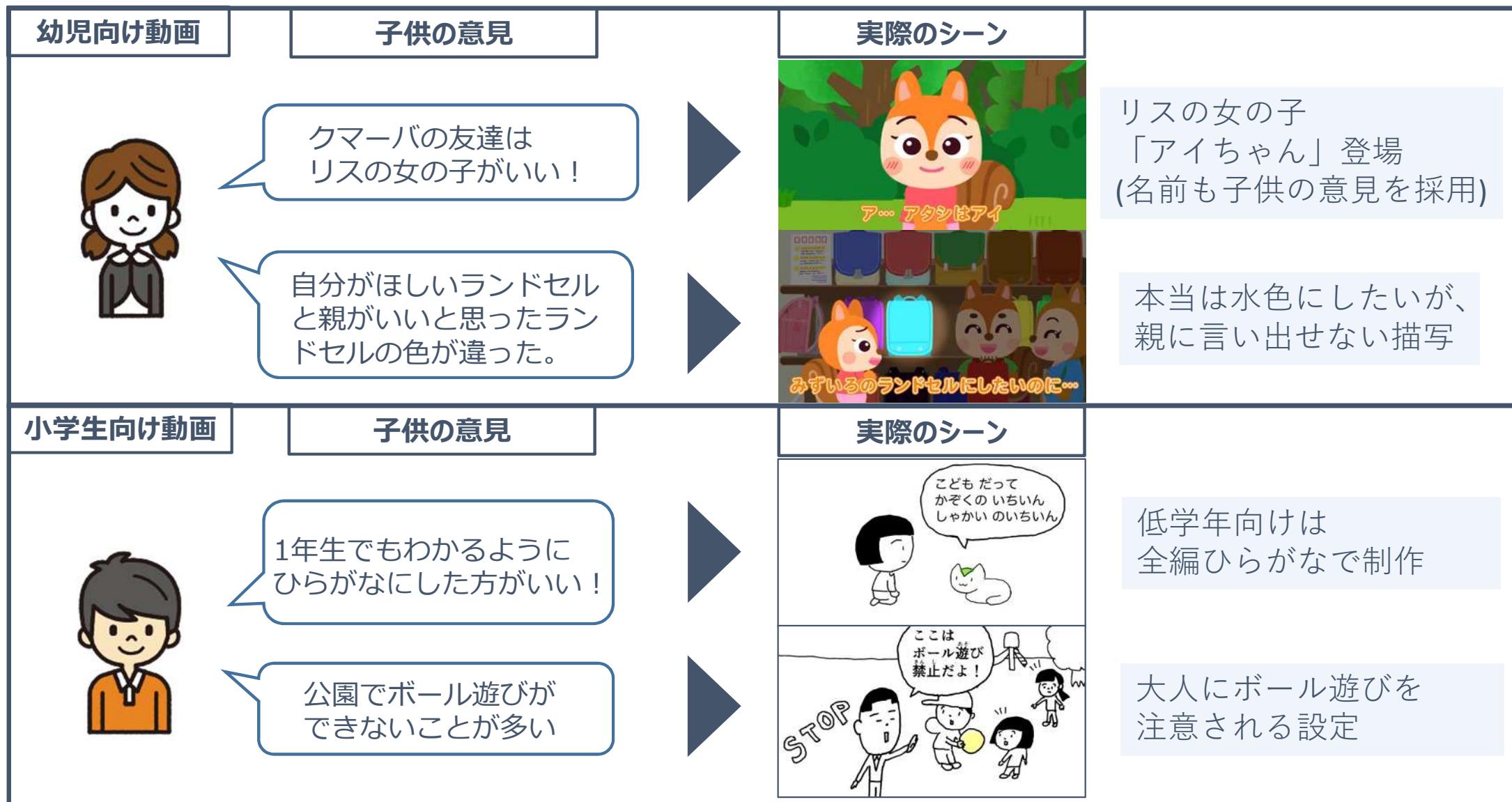
しつもんプリント	しつもんプリント	しつもんプリント
<p>1 はん (1年生 1人/2年生 2人/3年生 1人) ★しつもん① 今日のお話の、よかったところ・おもしろかったところを教えてください。 ストーリーがおもしろかった。 ねこがしゃべるのがおもしろかった。</p>	<p>4 はん (1年生 1人/2年生 2人/3年生 1人) ★しつもん① 今日のお話の、よかったところ・おもしろかったところを教えてください。 ねこがしゃべってるところ。</p>	<p>10 はん (1年生 0人/2年生 2人/3年生 1人) ★しつもん① 今日のお話の、よかったところ・おもしろかったところを教えてください。 ネコがしゃべった ネコが子どもの話を聞いてもらえるよかったです。</p>
<p>★しつもん② 今日のお話の、わからなかったところ・もっとこうしたほうがいいと思うところを教えてください。 ネコのしゃべることのいきがわからなかつた。 さいつの字たち(10)ところをみんなもかけたらうかがかりやすい。</p>	<p>★しつもん② 今日のお話の、わからなかったところ・もっとこうしたほうがいいと思うところを教えてください。 おいかさんをも、とやざしてほがいいとおもう。</p>	<p>★しつもん② 今日のお話の、わからなかったところ・もっとこうしたほうがいいと思うところを教えてください。 かいたい、ネコを二犬母さん、ネコからいい。 になおした方がいい。 * 小さな声で子どもにだけきこえよしにネコがしゃべるようにしてそれを子どもがば母さんにつけさせば、自分でいえるのいいと思う。</p>

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

(4) フィードバック及び広報～動画完成後～

ア 動画に子供の意見が反映された項目

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報



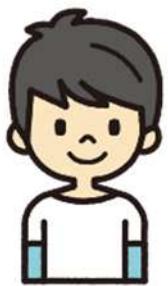
事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

中高生向け動画

子供の意見

実際のシーン



同世代の子供たちは外遊び
よりゲームが好き



架空の「わなゲーム」で
遊びに誘う設定に

男女で偏見を持たない
でほしい



“好き”な「モノ」「コト」
に性別は関係ないという
シーン

大人向け動画

子供の意見

実際のシーン



親に相談したいけど、忙しそうで遠慮してしまう。



宿題の分からぬところを
聞きたいが、遠慮して聞け
ないシーン

親にやりたいことを相談
したけど、取り合って
もらえず却下された。



サッカーをしたいが、ケガ
をして危ないからと却下
されるシーン

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

イ 子供へのフィードバック方法

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

大人のクリエイター

- ・毎回会議の冒頭で有識者会議で検討した内容を伝えた。特になぜ変更したかについて理由を説明した。
- ・パイロット調査した内容はクリエイターに共有し、反映できる項目はストーリーに反映した。

有識者

- ・有識者会議では、クリエイターが子供に適切にフィードバックできるよう、専門的な立場から助言した。
- ・有識者だけで話し合うのではなく、可能な限りこども制作会議の現場に参加し、直接意見交換を行った。

- ・こども制作会議に関わった大人からのフィードバックを試写会で、第三者からのフィードバックをこども未来会議で、多層的に実施



ポイント

- ✓ 自分たちの意見がどのように反映されたかを丁寧に説明し、必ず子供たちの感想を聴いて納得した上で議論を行った。
- ✓ パイロット調査結果は報告するだけでなく、こども制作会議の議論結果を踏まえ、取り入れられることは積極的に調整し、ストーリーに反映した。
- ✓ 有識者には会議の進め方について必ず確認を取り、適切にフィードバックがなされるよう、助言いただいた。

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）



ウ 条例解説動画の広報

- ・ こども制作会議やパイロット調査等で聴いた子供たちの意見を動画に反映し、R5.12月中旬に日本語版完成
- ・ 日本語版を英語・中国語・韓国語・タガログ語で吹替した動画、日本語版に手話通訳を付けた動画をR6.1月中旬に制作
- ・ パイロット調査（前述）に協力してくれた施設に対して、完成動画をフィードバック
- ・ こども未来会議にて、こどもクリエイターの代表者が、動画制作の過程や動画のPRポイント等について発表

制作・広報スケジュール

	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
解説動画の制作			子供募集	こども制作会議	有識者会議		動画編集		★ 日本語版 完成・試写会	★ 多言語版 完成	★ こども未来 会議発表	
情報発信		R4作成媒体を 活用した情報発信	R4作成媒体を 活用した情報発信								R5作成媒体を 活用した情報発信	

事例3：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こども基本条例解説動画）

工 感謝状の贈呈・子供政策連携室ホームページ掲載

- ・動画制作に企画段階から参加し、条例を分かりやすく伝える動画の完成に貢献してくれたこどもクリエイター全員に、感謝状を贈呈
- ・試写会を開催し、こどもクリエイターに完成動画をフィードバック後、子供政策連携室ホームページやSNS等で配信開始

子供政策連携室トップ > 東京都こども基本条例の紹介

東京都こども基本条例の紹介

東京都こども基本条例、普及啓発の取組を紹介しています。

東京都こども基本条例
 「東京都こども基本条例」の制定経緯、条例本文など、詳しくはこちらをご覧ください。

東京都こども基本条例 ハンドブック
 都民の方々に東京都こども基本条例の内容を理解していただけるよう、条例の内容をわかりやすく伝えるハンドブックを作成しました。

ワークショップで学ぼう!
 東京都こども基本条例をタレントさんたちと一緒に学べるワークショップ!

○ △ □ ○ △ □

条例動画掲載箇所

東京都こども基本条例解説動画
 年齢や発達段階に応じて、「東京都こども基本条例」の内容をわかりやすく伝えるための動画を、子供たちと大人で対話を重ねながら作成しました。

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報



事例 4：事業の企画段階におけるヒアリング (東京都こどもホームページ)

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

< 目 次 >

(1) 事例概要	142	～当日～	
(2) 出前授業の実践手法			
～事前準備～			
ア 実施までの流れ	144	ウ 実施体制	150
～当日～		エ ワークショップの流れ	
イ 実施体制	145	① 挨拶・趣旨説明	150
ウ 授業の流れ	145	② コンテンツに関するワーク	
エ 個人ワーク	146	・ワーク事例1 「バーチャル社会科見学」	151
オ 出前授業で得られた意見	147	・ワーク事例2 「東京の魅力」	152
(3) ワークショップの実践手法		(4) 意見反映・フィードバック	
～事前準備～		ア 意見反映（出前授業）	153
ア 実施までの流れ	148	イ 意見反映（ワークショップ）	154
イ 子供の募集	149	ウ フィードバック	155
		エ ホームページの完成、継続的な対話による バージョンアップ	156

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

（1）事例概要

ア 「東京都こどもホームページ」とは

- ・子供たちが楽しみながら東京の魅力や都政への関心を高めてもらうため、制作過程に子供たちが参加し、子供たちと一緒に作ったホームページである。（令和4年度より公開）
- ・主なコンテンツは以下のとおり
 - 東京の魅力すごろく：東京の自然や文化をすごろくで巡るコンテンツ
 - バーチャル社会科見学：普段見ることのできない施設の内部をバーチャルで見学
 - 発見！東京都の仕事：マップ上で東京都の仕事やキャラクターを探して学ぶ
- ・メインのターゲットは小学生



イ ヒアリングの目的

- ・子供たちが必要とする情報を見つけることができ、また、伝えたい情報を発信することができるホームページにするため、都内小学校での出前授業や、子供を公募する形でのワークショップを実施
- ・出前授業、ワークショップ、アンケートを通じて、当事者である小学生の自由な発想や意見を聞きながら、ホームページの構成やコンテンツを検討・決定

ウ ヒアリング対象

- ・出前授業：
都内5つの小学校で小学5・6年生（計576名）
- ・ワークショップ：
都内在住又は在学の小学5・6年生（10名）を募集



事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

工 東京都こどもホームページが出来るまでの流れ

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

出前授業

令和3年（2021年）6～7月

東京都の小学校へ訪問して
意見収集



ワークショップ

令和3年（2021年）11月

「こどもホームページ作成
メンバー」を募集！



令和3年（2021年）11月～令和4年（2022年）1月

「こどもホームページ作成
メンバー」によるワークショッ
プ！



令和3年（2021年）12月

アンケートで、ホームページに
取り上げる施設やテーマを決定！



令和4年（2022年）4月

東京都こどもホームページ
(ベータ版)が完成！
アンケートを実施して
みんなから意見をもらったよ！

※ベータ版・・・更なる改善を行うための初版のこと



令和4年（2022年）7月

東京都こどもホームページバージ
ョンアップ！
これからもみんなからの意見を聞
いて楽しいホームページにしてい
くよ！



事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

（2）出前授業の実践手法

事業概要 意見聴取 意見反映 フィードバック 広報

～事前準備～

ア 実施までの流れ

- 以下の流れで学校との調整を実施



- 学校側で予定されている行事の周辺時期や夏休み等の長期休みの時期には実施が困難となるため注意
- 学校へのアポイントメントに際して、まずは各学校を所管している自治体等のしかるべき部署に事前確認を行うこと。
- 学校によって、使用できる機器（黒板、ホワイトボード、デジタル機器等）は異なるため、学校には事前に足を運び、現場の環境を確認しておくこと。

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

～当日～

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

イ 実施体制

- ・ 1クラス2名配置を基本
- ・ 司会進行役として1名、資料配布等サポート役を1名

ウ 授業の流れ（ある学校での一例）

13:30	到着、準備開始（プロジェクター投影等）
13:50～14:35 (5時間目)	<ul style="list-style-type: none">・挨拶、授業の趣旨説明（5分程度）・個人ワーク（15分程度）・発表（10分程度）・こどもホームページ策定委員募集予告、本日の授業のお礼（5分程度） <p>（※進行に余裕を持たせるため45分いっぱいは使わない。）</p>

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

工 個人ワーク

- 生徒には、一人ひとりに紙のワークシート（下記の1枚）を配布
- ホームページのコンテンツを検討するため、「みんなが興味のあるテーマとその分かりやすい伝え方を考えよう」「ホームページ上でみなさんが発信してみたいことはどんなことか」の2点を考えてもらった。
- 書き方が分からず手が止まる子供もいるため、ワークシートには回答の例示を入れるなどの工夫を凝らす。
- 生徒が記入している間は、教室を歩き、様子をチェック。悩んでいる子供がいれば適宜声をかけてサポート

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

東京都こどもホームページ（仮）ワークシート		年 組名前
ミッション 1 みんなが興味のあるテーマとその分かりやすい伝え方を考えよう		
①興味のあるテーマを書こう 例：環境（レジ袋の削減）、観光（島の魅力の発信）等		
● ●		
②そのテーマを、ホームページで都からみなさんに伝えるにはどんな方法があるか 例：選択テーマ「観光」、方法：クイズ 等		
選択テーマ「 ● 選択テーマ「 ●		
ミッション 2 ホームページ上でみなさんが発信してみたいことはどんなことか 「ホームページにあったらいいな」と思うコーナーや、「ホームページでできたらいいな」と思うこと 例：自分の学校の課外活動を紹介する		
● ●		

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

オ 出前授業で得られた意見

- ・ どんなホームページを作りたいか、いろいろな意見やアイデアが出された。
- ・ 本事例で得られた意見の一部は東京都こどもホームページに掲載

<https://tokyo-kodomo-hp.metro.tokyo.lg.jp/about/kodomo-project/kodomohp/>

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

みんなからの意見（一部抜粋）

- 
- 自分の住むまちを紹介した学校新聞を作ってホームページで発信したい
 - ゲームのように体験できる仕組みがあるといいな
 - VRを使って、東京都の施設や観光名所をオンラインで楽しみたい
 - 東京都の観光スポットを紹介しながら東京を巡るゲーム！クイズに正解するとすごろくができるとかはどうかな
 - 東京都の取組で、身近なことや意外なことについて絵やスライドでしゃうかいして、動画・写真と一緒に説明を加える

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

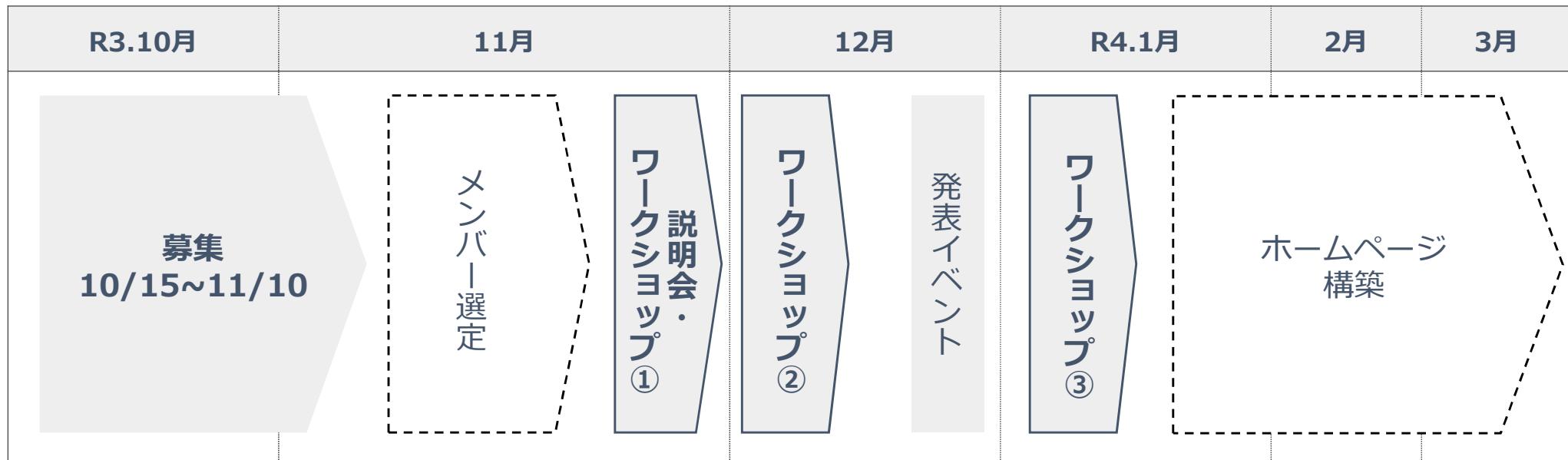
(3) ワークショップの実践手法



～事前準備～

ア 実施までの流れ

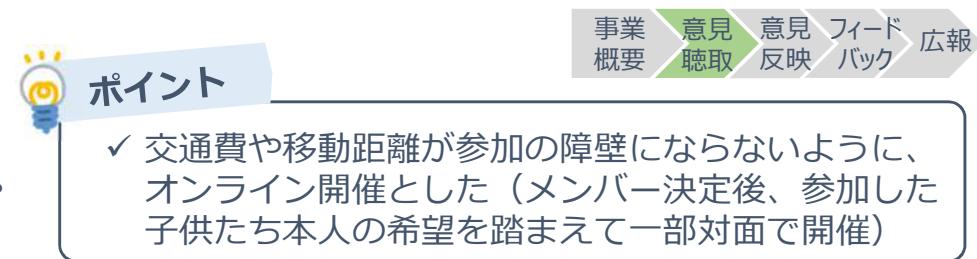
- 以下の流れで計3回のワークショップを実施



事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

イ 子供の募集

- 約1ヶ月の期間を確保し、参加者を募集
 - 応募多数の場合の選考のため、応募理由等の欄を設けた。



募集チラシ（表）

募集チラシ（裏）

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

～当日～



ウ 実施体制

- オンライン形式での開催であり、ファシリテーター1名で対応

エ ワークショップの流れ

- 各回のワークショップは以下の流れで進行
- 全体を通して90分～120分のワークショップ

内容	詳細	時間
①挨拶・趣旨説明	<ul style="list-style-type: none"> アイスブレイク 自己紹介（初回のみ） 概要・目的説明（初回のみ） 	10分～25分
②コンテンツに関するワーク（複数）	<ul style="list-style-type: none"> ワーク内容の説明、実施 発表 	75分～90分
③まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 意見のまとめ 	5分

① 挨拶・趣旨説明

- アイスブレイクとして自己紹介と意気込みを一人ずつ話してもらう。
- 今回のワークショップが何のためのものなのか、最終的にみんなの意見がどうなるのかを説明
- オンラインワークショップを受講したことがあるかを確認し、授業のように静かに聞くのではなく、気になったことや気づいたことがあれば、積極的に発言する場であることを説明
- オンライン特有のルールとして、拳手の仕方や○×等のボディーランゲージのルールを紹介

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

② コンテンツに関するワーク

ワーク事例1 「バーチャル社会科見学」

→ 普段見ることのできない都の施設の内部をバーチャルで見学できるコンテンツ。本ワークでは、子供たちが気になる施設を聞き、そこで出た意見をコンテンツに反映

<準備>

- バーチャル施設見学の候補となる5か所のフォトカードを用意（参加者には事前に郵送）

<ワークの進め方>

- 5か所の施設の概要をファシリテーターが説明
- 参加者に気になった施設を選んでもらい、一人一人に理由を発表してもらう。
- 以降、同様に気になる施設を3位まで発表してもらう。

<得られる意見>

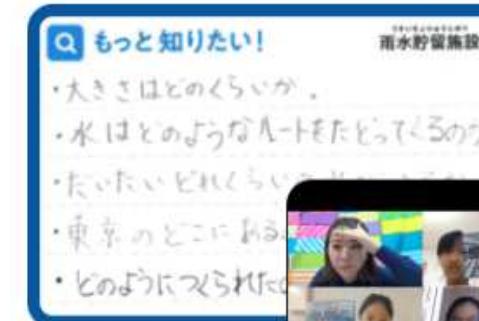
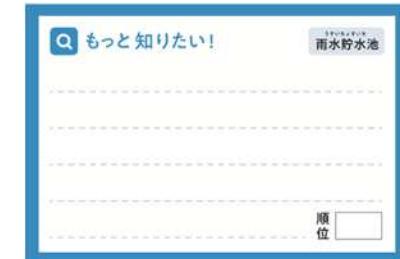
- 子供が気になる施設（見学したい施設）の順位
- 各施設のどういうところが気になったのか。

ポイント

- 「君が気になったことは、君の友達や他の何千人の子供たちにとっても気になるところかもしれないよ」というコメントをして参加者のモチベーションを高めることも大切

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報

表 フォトカードの一例 裏



みんなからの意見（一部抜粋）

- 「バーチャル社会科見学」では雨水調整池を見学してみたい
- 雨水調整池はどのくらいの水がたまるのかな
- コンテナーミナルの赤と白の建物って何か意味があるのかな？

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

ワーク事例2 「東京の魅力」

→ 本ワークでは、東京の魅力について考えてもらい、出た意見をホームページのページデザインや、都内の自然・文化をすごろくで巡る「東京の魅力すごろく」のコンテンツに反映

<準備>

- 都内25スポットのフォトカードと、子供たちが自由に東京の魅力（場所・施設）を書くためのフリーカードを用意（参加者には事前に郵送）
- フォトカードは「ランドマーク」「伝統・文化」「歴史」「自然」の4カテゴリに色分けし、裏面にはスポットの詳細情報を記載しておく。
- フリーカードには、事前に子供たちが気になる場所を書いてきてもらう。（25スポットのどれかと被っても良い）

<進め方>

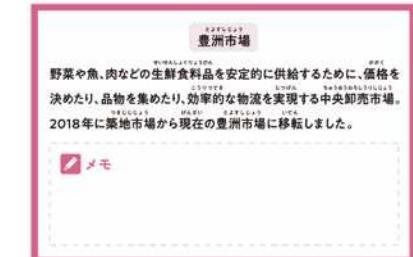
- 各カテゴリごとに、気になる部分・疑問に思う部分など、子供たちが1番気になるカードを一斉に画面に映してもらう。
- カードのどこが気になったのか、子供たちに話を振り発表してもらう。
- 最後に、フリーカードに書いてきた内容を発表

<得られる意見>

- 東京の各スポットについて、子供たちが疑問に思った点やもっと知りたいと思った点
- 子供たちが気になる東京の魅力（場所・施設）とその理由

事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

都内スポットのフォトカードの一例



フリーカードに自由に書かれた「東京の魅力」



みんなからの意見（一部抜粋）

- 地図のイラストは背景に山や緑を足すといいんじゃないかな
- 大人だけではなく子供や犬連れなど人のイラストを増やす
- 「東京の魅力すごろく」では「東京スカイツリー®」「都立駒沢オリンピック公園」「新選組」「狹山谷の天狗」「レインボーブリッジ」「国会議事堂」「青ヶ島の絶景」「日原鍾乳洞」「江戸切子」「矢切の渡し」を掲載したい！

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

(4) 意見反映・フィードバック

ア 意見反映（出前授業）

- 子供たちの意見やアイデアをもとにコンテンツを決定

みんなからの意見（一部抜粋）

自分の住むまちを紹介した学校新聞を作ってホームページで発信したい
ゲームのように体験できる仕組みがあるといいな
VRを使って、東京都の施設や観光名所をオンラインで楽しみたい
東京都の観光スポットを紹介しながら東京を巡るゲーム！クイズに正解するとすごろくができるとかはどうかな
東京都の取組で、身近なことや意外なことについて絵やスライドでしゃうかいして、動画・写真と一緒に説明を加える

発見！東京都の仕事

(マップ上で東京都の仕事やキャラクターを探して学ぶ)

**バーチャル社会科見学**
(普段見ることのできない施設の内部をバーチャルで見学)**東京の魅力すごろく**
(東京の自然や文化をすごろくで巡るコンテンツ)

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

イ 意見反映（ワークショップ）

- 子供たちの意見やアイデアをもとにコンテンツを具体化

みんなからの意見（一部抜粋）

- 「バーチャル社会科見学」では雨水調整池を見学してみたい
- 雨水調整池はどのくらいの水がたまるのかな
- コンテナターミナルの赤と白の建物って何か意味があるのかな？



事業概要
意見聴取
意見反映
フィードバック
広報

クイズに挑戦！

クイズに正解していくと
東京こどもマスターの称号がもらえるよ

調整池には25メートルプール何はい分の
水が入る？

ヒント：調整池をみてみよう！

約5とはい
約20とはい
約40ぱい



クイズに挑戦！

クイズに正解していくと
東京こどもマスターの称号がもらえるよ

ガントリークレーンの色が赤と白のは
なんで？

ヒント：ガントリークレーンをみてみよう！

船から見やすくす
飛行機から見やす
くするため



みんなからの意見（一部抜粋）

- 地図のイラストは背景に山や緑を足すといいんじゃないかな
- 大人だけではなく子供や犬連れなど人のイラストを増やす
- 「東京の魅力すごろく」では「東京スカイツリー®」「都立駒沢オリンピック公園」「新選組」「狭山谷の天狗」「レインボーブリッジ」「国会議事堂」「青ヶ島の絶景」「日原鍾乳洞」「江戸切子」「矢切の渡し」を掲載したい！



東京の魅力すごろく（クイズ）

02 青ヶ島の絶景

問題

青ヶ島をぐるりと囲んでいる
ものとは？



答え:断崖

行くのが難しそうな島として有名な、伊豆諸島の青ヶ島。
なぜなら島のまわりがすべて断崖絶壁。しかも黒潮で流れが強いから船
をつけることが難しいんだ。
1日1便ヘリコプターが八丈島から飛ぶけど乗るのは1日たったの9
名。
アメリカの環境保護団体から「死ぬまでに見るべき世界の絶景13選」
にも選ばれているよ。

08 都立駒沢オリンピック公園

問題

都立駒沢オリンピック公園に
ある3つの児童公園の名前
は？



答え:うま公園、ぶた公園、
りす公園

解説

都立駒沢オリンピック公園内の「うま公園」「ぶた公園」「りす公園」
には、それぞれの動物にちなんだカラフルな遊具があるよ。
昭和39年（1964年）の東京オリンピックで第2会場として利用された
あとに「駒沢オリンピック公園」という名前で開園したんだ。
いつも、たくさんの子供たちが遊んでいるよ！

事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

ウ フィードバック

- 子供が参加したホームページの作成過程、子供の意見と反映状況について、ホームページ内に掲載
- 参加してくれたメンバーに対し、すべてのワークショップ終了後、感謝状を贈呈

事業
概要
意見
聴取
意見
反映
フィード
バック
広報



事例4：事業の企画段階におけるヒアリング（東京都こどもホームページ）

工 ホームページの完成、継続的な対話によるバージョンアップ

事業概要
意見反映
意見反映
フィードバック
広報

- 出前授業やワークショップ等で聴いた子供の意見をホームページに反映し、令和4年4月に公開（β版）
- その後も継続して子供から意見を聴き、ホームページのバージョンアップを図っている（継続的な対話）

令和4年（2022年）4月

東京都こどもホームページ（ベータ版）が完成！アンケートを実施してみんなから意見をもらったよ！

※ベータ版・・・更なる改善を行うための初版のこと

▼

令和4年（2022年）7月

東京都こどもホームページバージョンアップ！これからもみんなからの意見を聞いて楽しいホームページにしていくよ！

みんなからの意見（一部抜粋）

気になるもの

▼ 意見1 「トップにセドる」を押すと毎回アニメーションが出て時間がかかる

▼ 意見2 2回目以降はアニメーションをなくして、トップページにセドるまでの時間が早くなったりよ！

▼ 意見3 「発見！東京都の仕事」の虫メガネマークを押したかどうかの見分けがつかない

▼ 意見4 「能力すごろく」で、クイズに正解したかどうかがわかりにくい

▼ 意見5 すぐろくの他にももっとクイズがしたい！学校の宿題に役に立つ情報やリンクがあるといい！

▼ 意見6 都の事業がクイズ形式でわかる「東京なるほど白書」ができたよ！

第三部

子供の意見を取り入れた区市町村事業への支援

子供・長寿・居場所区市町村包括補助について

- 【子供】子供・子育てにやさしいまちづくりやサービス
- 【長寿】先端技術を活用した高齢者のQOL向上
- 【居場所】多世代が集い交流できる居場所づくり

} 3つのC (Children、Chōju、Community) の各分野において、
区市町村の分野横断的かつ先駆的な取組を支援

子供分野における補助対象事業

行政分野の枠組みを超えた先駆的な子供施策が対象であり、子供の意見を聞き、その意見を反映して実施する事業を優先的に採択

補助率

10／10（最大3か年）

補助上限額

5,000万円／年度（基盤整備を伴わない事業は1,000万円／年度）

補助対象事業の例

◆地域資源を活用した体験機会の創出

- 公園・図書館・学校施設等の活用
- 地域人材・企業等との連携
- 子供の多様な体験・交流機会の創出
(文化体験・スポーツ体験・自然体験・仕事体験等)

◆子供・子育ての総合的な支援拠点

- 子供や子育て世帯の交流による孤立防止
- 多年代との関わりの中で子供が育つ環境づくり
- 様々な年齢の子供のためのサードプレイス
- 困難な状況にある子供への切れ目ない支援

採択事例 1：野外遊び場への駄菓子屋・カフェの設置による仕事体験・居場所づくり（国分寺市）

事業内容

- 既存の冒険遊び場（国分寺市プレイスステーション）に駄菓子屋及びカフェを設置
- 駄菓子屋とカフェでの**仕事体験**を通じて、遊びだけではなく**子供達が社会参加する機会の創出**、乳幼児親子の休息と交流の場の提供、不登校の子供や中高生世代も利用しやすい居場所づくりを行う

◆駄菓子屋（だがプレ）

- 子供が駄菓子屋でお店番、売り物の整理、片付けなどを体験
- 体験で働いた分は給与（疑似通貨）をもらえ、駄菓子購入に使用できる

▼野外遊び場



◆夕暮れカフェ・土日カフェ

- 夕暮れカフェは**中高生世代の居場所**として、おやつ作りや楽器演奏などの活動を実施
- 土日カフェは**子供の店員体験も実施**し、乳幼児親子が集まる場所としても機能

子供の意見聴取と反映

◆こども懇談会

- 施設を利用する子供で構成する**「こども懇談会」の意見を反映**



- 補助の活用により、**駄菓子屋・カフェの設置を実現**

◆駄菓子屋こども会議

- 施設を利用する12歳までの子供達約100名が参加

<会議内容>

- 駄菓子屋の名前**
→「だがプレ」に決定
- 人気投票を通じた**販売物の決定**



▼駄菓子屋の様子

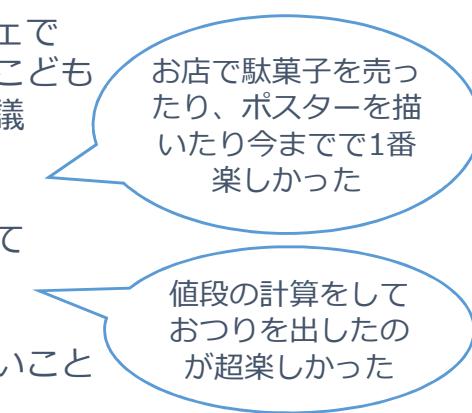
◆こどもサポーター会議

- 駄菓子屋やカフェで**仕事体験**を行う**こどもサポーター**の会議

▼体験した子供達の声

お店で駄菓子を売ったり、ポスターを描いたり今までで1番楽しかった

- 仕事体験でやってみたいこと
- イベントの提案
- カフェでやりたいこと
- 広報について



採択事例2：複合公共施設の整備における子供の意見の反映（国立市）

事業内容

◆複合公共施設の開設

- 多様な地域の人々が集まり、交流することで、地域ぐるみで子育てを支援するための複合公共施設を整備
- 子育てひろば、児童館、幼児教育センター、ホール、屋外芝生ひろば等

◆まちぐるみ・地域ぐるみで子育て・幼児教育

- 地域の若者・商工・農業者・高齢者などが集い多世代の関わりによって子供の育ちを支える
- 幼児教育に関する研究・研修や親子カフェ等、幼児教育と子育て支援に一体的に取り組む

▼複合公共施設(矢川プラス)全景



子供の意見聴取と反映

- 「中高生ローカルセッション」（市内の中高生がまちづくりについて交流しながら考えるイベント）等で施設設計に関する意見を聴取
- 市内中学校生徒会へインタビュー

<意見反映>

- スタディコーナー（カウンターデスク）
- スタジオ
- 屋外のダンスミラー
- 可動式本棚、掲示コーナー

▼スタディコーナー



▼スタジオ



子供へのヒアリングを通じた意見聴取に関する実践事例集

令和6（2024）年3月 発行

編集・発行 東京都子供政策連携室企画調整部プロジェクト推進課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03(5388)3814
E-mail : S1110302@section.metro.tokyo.jp

